

4. かがわの自転車条例について

(1) 香川県自転車の安全利用に関する条例の認知度について

問30 あなたは、「香川県自転車の安全利用に関する条例」をご存知ですか。次の中から1つだけ選んでください。

() 内の割合はウェイトバックした値

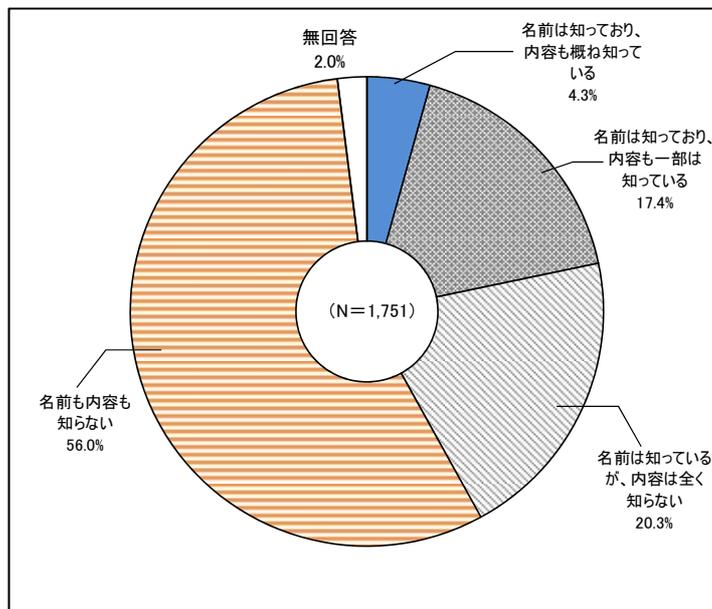
【回答者数=1,751】

1 名前は知っており、内容も概ね知っている	4.3% (4.8%)	} ⇒ 付問6にお進みください
2 名前は知っており、内容も一部は知っている	17.4% (17.5%)	
3 名前は知っているが、内容は全く知らない	20.3% (20.7%)	
4 名前も内容も知らない (無回答)	56.0% (54.9%) 2.0% (2.1%)	

香川県自転車の安全利用に関する条例の認知度について、「名前も内容も知らない」56.0%が最も高く、次いで「名前は知っているが、内容は全く知らない」20.3%、「名前は知っており、内容も一部は知っている」17.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「名前も内容も知らない」54.9%が最も高く、次いで「名前は知っているが、内容は全く知らない」20.7%、「名前は知っており、内容も一部は知っている」17.5%などとなっている。

図表 4-(1)-1 香川県自転車の安全利用に関する条例の認知度について



香川県自転車の安全利用に関する条例の認知度について、性別にみると、男女とも【知らない】（「名前も内容も知らない」）の割合が、「名前は知っており、内容も概ね知っている」と「名前は知っており、内容も一部は知っている」と「名前は知っているが、内容は全く知らない」を合わせた【知っている】の割合を上回っており、『男性』58.0%、『女性』55.2%となっている。

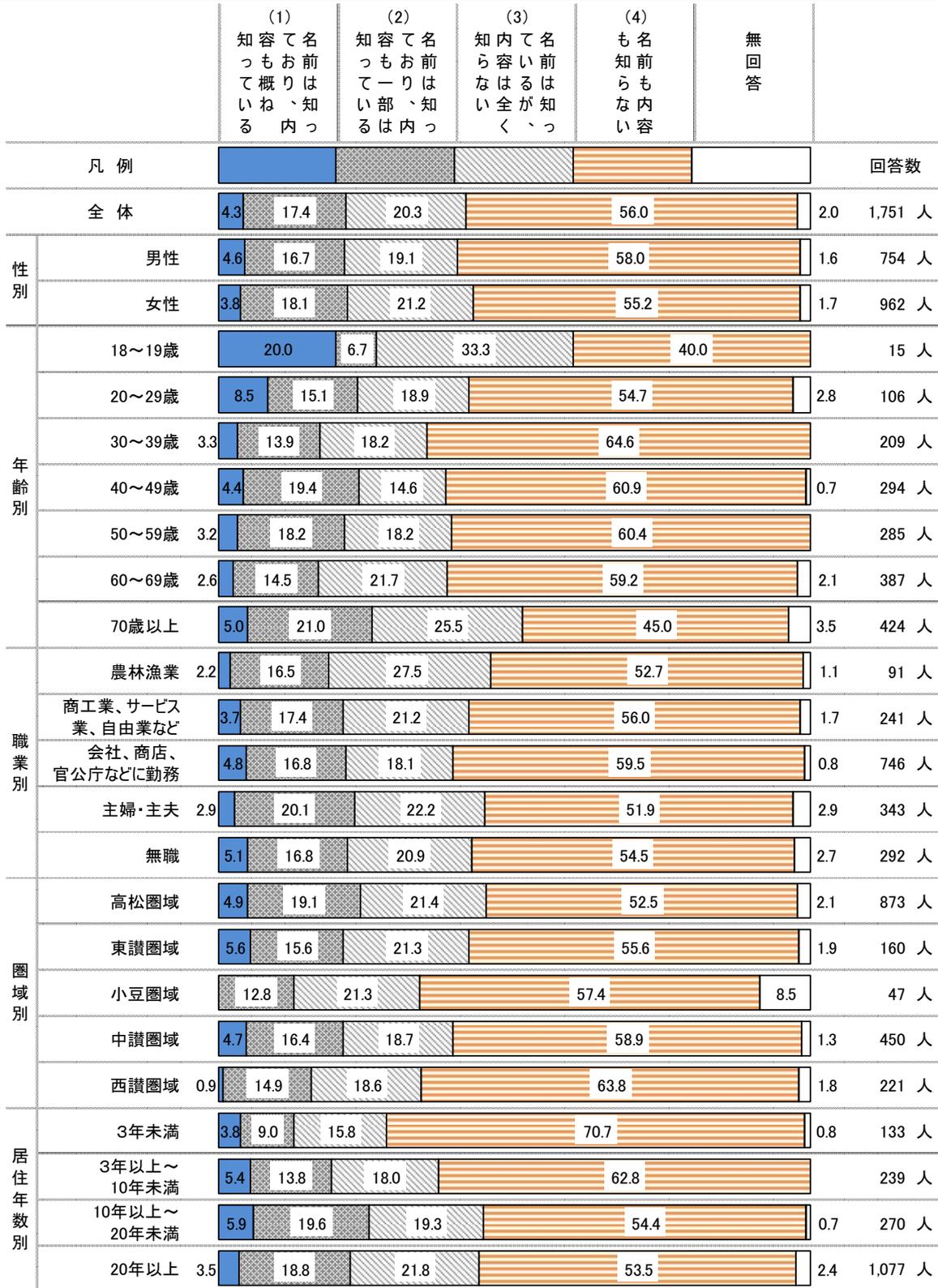
年齢別にみると、『18～19歳』、『70歳以上』では【知っている】の割合が【知らない】の割合を上回っており、そのほかの年齢では【知らない】の割合が【知っている】の割合を上回っている。

職業別にみると、すべての職業で【知らない】の割合が【知っている】の割合を上回っており、『会社、商店、官公庁などに勤務』では59.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、すべての圏域で【知らない】の割合が【知っている】の割合を上回っており、『西讃圏域』では63.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、すべての居住年数で【知らない】の割合が【知っている】の割合を上回っており、『3年未満』では70.7%と最も高くなっている。

図表 4-(1)-2 【香川県自転車の安全利用に関する条例の認知度について】



グラフ単位：(%)

(2) 香川県自転車の安全利用に関する条例を知ったきっかけについて

【問30で「1」～「3」と答えた方にお聞きします】

付問6 あなたは、この条例をどこで知りましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=736】 ※回答数の多い順に並び替え

1	県広報誌「THEかがわ」	36.1% (34.7%)
2	テレビ、ラジオ	36.0% (35.6%)
3	新聞	25.7% (25.7%)
4	チラシ、ポスター、リーフレット	20.0% (19.8%)
5	学校の交通安全教室	13.9% (16.3%)
6	損害保険加入・更新時の対面での説明	8.7% (8.5%)
7	自転車購入時の対面での説明	7.3% (7.3%)
8	県ホームページ	5.0% (5.0%)
9	講演会など	3.5% (3.7%)
10	インターネット (ユーチューブ) の動画広告	1.1% (1.4%)
11	街頭のデジタルサイネージ (動画などを放映する電子看板)	0.8% (0.9%)
12	映画館で、上映前に流れる広告	0.5% (0.5%)
13	その他 (具体的に :)	3.7% (3.6%)
	(無回答)	2.0% (2.1%)

香川県自転車の安全利用に関する条例を知ったきっかけについて、「県広報誌「THEかがわ」」36.1%が最も高く、次いで「テレビ、ラジオ」36.0%、「新聞」25.7%、「チラシ、ポスター、リーフレット」20.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「テレビ、ラジオ」35.6%が最も高く、次いで「県広報誌「THEかがわ」」34.7%、「新聞」25.7%、「チラシ、ポスター、リーフレット」19.8%などとなっている。

図表 4-(2)-1 香川県自転車の安全利用に関する条例を知ったきっかけについて

		回答数
全体	100.0	736 人
(1) 県広報誌「THEかがわ」	36.1	266 人
(2) テレビ、ラジオ	36.0	265 人
(3) 新聞	25.7	189 人
(4) チラシ、ポスター、リーフレット	20.0	147 人
(5) 学校の交通安全教室	13.9	102 人
(6) 損害保険加入・更新時の対面での説明	8.7	64 人
(7) 自転車購入時の対面での説明	7.3	54 人
(8) 県ホームページ	5.0	37 人
(9) 講演会など	3.5	26 人
(10) インターネット(YouTube)の動画広告	1.1	8 人
(11) 街頭のデジタルサイネージ(動画などを放映する電子看板)	0.8	6 人
(12) 映画館で、上映前に流れる広告	0.5	4 人
(13) その他	3.7	27 人
無回答	2.0	15 人

グラフ単位：(%)

香川県自転車の安全利用に関する条例を知ったきっかけについて、性別にみると、『男性』では「テレビ、ラジオ」37.4%が最も高く、『女性』では「県広報誌「THEかがわ」」38.8%が最も高くなっている。これに『男性』では「県広報誌「THEかがわ」」32.8%、『女性』では「テレビ、ラジオ」34.9%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』では「学校の交通安全教室」が最も高く、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』では「テレビ、ラジオ」が最も高く、『60～69歳』、『70歳以上』では「県広報誌「THEかがわ」」が最も高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』、『無職』では「県広報誌「THEかがわ」」が最も高く、そのほかの職業では「テレビ、ラジオ」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『中讃圏域』では「テレビ、ラジオ」が最も高く、そのほかの圏域では「県広報誌「THEかがわ」」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「テレビ、ラジオ」が最も高く、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「県広報誌「THEかがわ」」が最も高くなっている。

図表 4-(2)-2 【香川県自転車の安全利用に関する条例を知ったきっかけについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	
	全体 (人)	県広報誌 「THEかがわ」	テレビ、 ラジオ	新聞	チラシ、 ポスター、 リーフレット	学校の交通安全 教室	損害保険加入・ 更新時の対面での 説明	自転車購入時の 対面での説明	県ホームペー ジ	講演会など	インターネット (YouTube)の 動画広告	街頭のデジタル サイネージ(動画 などを放映 する電子看板)	映画館で、上 映前に流れる 広告	その他	無 回 答
【表の見方】 単位=比率(%)															
全体	736	36.1	36.0	25.7	20.0	13.9	8.7	7.3	5.0	3.5	1.1	0.8	0.5	3.7	2.0
性別															
男性	305	32.8	37.4	29.8	18.0	12.8	8.5	6.6	7.9	4.3	2.3	1.0	1.0	4.9	1.6
女性	415	38.8	34.9	22.7	22.2	14.7	8.4	7.2	3.1	2.9	0.2	0.7	0.2	2.9	2.2
年齢別															
18～19歳	9	11.1	22.2	22.2	11.1	77.8	11.1	-	-	-	11.1	-	-	-	-
20～29歳	45	11.1	31.1	8.9	20.0	42.2	4.4	4.4	13.3	6.7	4.4	2.2	-	6.7	2.2
30～39歳	74	16.2	32.4	12.2	23.0	14.9	8.1	5.4	4.1	5.4	-	4.1	1.4	6.8	2.7
40～49歳	113	22.1	33.6	15.9	18.6	25.7	11.5	4.4	5.3	2.7	0.9	1.8	1.8	6.2	2.7
50～59歳	113	32.7	38.1	20.4	20.4	15.0	6.2	6.2	5.3	2.7	0.9	-	-	4.4	0.9
60～69歳	150	50.0	36.7	28.0	20.0	3.3	10.7	7.3	6.7	2.0	0.7	-	-	2.7	1.3
70歳以上	218	48.6	38.1	39.9	21.1	5.5	7.8	10.1	2.8	4.1	0.9	-	0.5	1.4	2.3
職業別															
農林漁業	42	42.9	45.2	40.5	11.9	9.5	4.8	14.3	2.4	4.8	4.8	-	-	2.4	2.4
商工業、サービス業、自由業など	102	34.3	35.3	17.6	19.6	11.8	9.8	6.9	5.9	4.9	2.0	-	-	5.9	1.0
会社、商店、官公庁などに勤務	296	25.7	35.1	22.6	20.3	18.6	8.8	4.4	6.8	3.4	1.4	1.4	1.4	5.4	2.0
主婦・主夫	155	51.6	37.4	29.0	23.2	7.1	7.7	9.0	1.3	3.2	-	1.3	-	1.3	1.9
無職	125	40.8	32.0	31.2	20.8	14.4	8.8	8.8	6.4	2.4	-	-	-	1.6	2.4
圏域別															
高松圏域	397	38.8	31.5	22.4	18.1	15.1	8.1	6.5	5.8	3.0	1.0	0.8	0.8	4.8	2.5
東讃圏域	68	38.2	39.7	32.4	27.9	10.3	11.8	7.4	4.4	1.5	1.5	-	-	2.9	2.9
小豆圏域	16	56.3	31.3	12.5	31.3	-	-	-	-	18.8	6.3	6.3	-	6.3	-
中讃圏域	179	25.1	43.6	30.7	22.3	12.8	10.1	10.1	4.5	3.9	0.6	0.6	0.6	2.8	1.7
西讃圏域	76	42.1	39.5	27.6	14.5	15.8	7.9	6.6	3.9	3.9	1.3	1.3	-	-	-
居住年数別															
3年未満	38	10.5	28.9	7.9	18.4	10.5	2.6	5.3	5.3	2.6	-	-	-	13.2	7.9
3年以上～10年未満	89	34.8	37.1	10.1	23.6	16.9	9.0	3.4	2.2	-	1.1	1.1	2.2	6.7	1.1
10年以上～20年未満	121	32.2	26.4	18.2	20.7	29.8	8.3	4.1	5.0	2.5	0.8	1.7	-	3.3	0.8
20年以上	475	39.6	38.5	32.0	19.8	9.5	9.1	8.6	5.7	4.4	1.3	0.6	0.4	2.5	1.9

(3) 自転車の利用頻度について

問31 あなたは、どのくらいの頻度で自転車を利用しますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

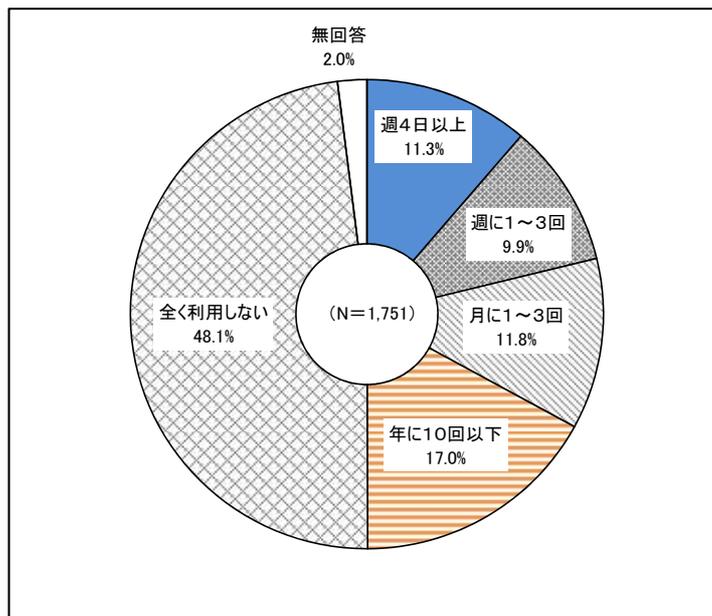
【回答者数=1,751】

1 週4日以上	11.3%(11.5%)	
2 週に1～3回	9.9%(10.7%)	
3 月に1～3回	11.8%(11.6%)	
4 年に10回以下	17.0%(16.6%)	
5 全く利用しない (無回答)	48.1%(47.5%)	⇒問36にお進みください
	2.0%(2.0%)	

自転車の利用頻度について、「全く利用しない」48.1%が最も高く、次いで「年に10回以下」17.0%、「月に1～3回」11.8%、「週4日以上」11.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「全く利用しない」47.5%が最も高く、次いで「年に10回以下」16.6%、「月に1～3回」11.6%、「週4日以上」11.5%などとなっている。

図表 4-(3)-1 自転車の利用頻度について



自転車の利用頻度について、性別にみると、男女とも「全く利用しない」が『男性』40.3%、『女性』54.1%で最も高く、これに男女とも「年に10回以下」が『男性』21.1%、『女性』14.0%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「週に1～3回」53.3%が最も高く、そのほかの年齢では「全く利用しない」が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「全く利用しない」が最も高く、これに『主婦・主夫』、『無職』では「週に1～3回」が続き、そのほかの職業では「年に10回以下」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「全く利用しない」が最も高く、これにいずれも「年に10回以下」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「全く利用しない」が最も高く、これに『10年以上～20年未満』では「週4日以上」が続き、そのほかの居住年数では「年に10回以下」が続いている。

図表 4-(3)-2 【自転車の利用頻度について】

		(1) 週 4 日 以 上	(2) 回 週 に 1 5 3	(3) 回 月 に 1 5 3	(4) 以 年 下 に 1 0 回	(5) な 全 く 利 用 し	無 回 答	回答数
凡 例								
全 体		11.3	9.9	11.8	17.0	48.1		2.0 1,751 人
性別	男性	10.7	11.3	14.9	21.1	40.3		1.7 754 人
	女性	12.0	8.8	9.5	14.0	54.1		1.7 962 人
年齢別	18~19歳	20.0		53.3		13.3	13.3	15 人
	20~29歳	11.3	9.4	8.5	21.7	48.1		0.9 106 人
	30~39歳	13.9	3.8	11.0	22.5	47.8		1.0 209 人
	40~49歳	10.2	7.8	13.6	21.8	45.9		0.7 294 人
	50~59歳	10.5	9.5	10.2	22.8	47.0		285 人
	60~69歳	10.1	9.3	14.2	13.7	50.4		2.3 387 人
	70歳以上	12.5	14.2	10.6	9.9	49.3		3.5 424 人
職業別	農林漁業	4.4	9.9	13.2	23.1	49.5		91 人
	商工業、サービス業、自由業など	13.3	7.9	12.0	18.7	46.5		1.7 241 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	12.2	7.2	11.8	20.8	47.2		0.8 746 人
	主婦・主夫	11.4	12.2	8.7	10.8	54.2		2.6 343 人
	無職	9.6	16.1	14.7	12.0	44.2		3.4 292 人
圏域別	高松圏域	15.5	11.7	12.8	14.8	43.4		1.8 873 人
	東讃圏域	9.4	8.8	10.0	16.3	54.4		1.3 160 人
	小豆圏域	6.4	6.4	8.5	14.9	57.4	6.4	47 人
	中讃圏域	6.9	10.2	10.0	21.1	49.8		2.0 450 人
	西讃圏域	5.9	3.6	13.6	18.1	56.6		2.3 221 人
居住年数別	3年未満	12.0	11.3	12.0	17.3	46.6		0.8 133 人
	3年以上～10年未満	13.4	7.9	9.2	21.8	47.3		0.4 239 人
	10年以上～20年未満	14.8	10.0	13.3	13.3	47.8		0.7 270 人
	20年以上	9.9	10.3	12.0	17.0	48.4		2.4 1,077 人

グラフ単位：(%)

(4) 自転車の点検整備の実施について

問32 この条例では、自転車の点検整備が利用者などの義務となっています。あなたは、ご自分の利用する自転車のタイヤ、ブレーキ、チェーンなどが安全な状態であるかを点検し、必要に応じて整備を行うようにしていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=909】※回答数の多い順に並び替え

- | | | |
|--|--------------|-------------------|
| 1 点検整備は行っていない | 38.6%(37.9%) | ⇒ 付問7に
お進みください |
| 2 簡易な点検整備を、自転車を利用する日ごとに自分でやっている | 32.6%(32.7%) | |
| 3 詳細な点検整備を、定期的(概ね1年に1回程度)に自分でやっている | 18.3%(17.8%) | |
| 4 詳細な点検整備を、定期的(概ね1年に1回程度)に自転車販売店でやっている | 9.6%(10.9%) | |
| (無回答) | 4.4%(4.4%) | |

自転車の点検整備の実施について、「点検整備は行っていない」38.6%が最も高く、次いで「簡易な点検整備を、自転車を利用する日ごとに自分でやっている」32.6%、「詳細な点検整備を、定期的(概ね1年に1回程度)に自分でやっている」18.3%、「詳細な点検整備を、定期的(概ね1年に1回程度)に自転車販売店でやっている」9.6%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「点検整備は行っていない」37.9%が最も高く、次いで「簡易な点検整備を、自転車を利用する日ごとに自分でやっている」32.7%、「詳細な点検整備を、定期的(概ね1年に1回程度)に自分でやっている」17.8%、「詳細な点検整備を、定期的(概ね1年に1回程度)に自転車販売店でやっている」10.9%となっている。

図表 4-(4)-1 自転車の点検整備の実施について

	割合	回答数
全体	100.0	909人
(1) 点検整備は行っていない	38.6	351人
(2) 簡易な点検整備を、自転車を利用する日ごとに自分でやっている	32.6	296人
(3) 詳細な点検整備を、定期的(概ね1年に1回程度)に自分でやっている	18.3	166人
(4) 詳細な点検整備を、定期的(概ね1年に1回程度)に自転車販売店でやっている	9.6	87人
無回答	4.4	40人

グラフ単位：(%)

自転車の点検整備の実施について、性別にみると、『男性』では「簡易な点検整備を、自転車を利用する日ごとに自分で行っている」38.4%が最も高く、『女性』では「点検整備は行っていない」46.2%が最も高くなっている。これに『男性』では「点検整備は行っていない」32.2%、『女性』では「簡易な点検整備を、自転車を利用する日ごとに自分で行っている」26.9%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「簡易な点検整備を、自転車を利用する日ごとに自分で行っている」と「詳細な点検整備を、定期的（概ね1年に1回程度）に自転車販売店で行っている」が同率で最も高く、『70歳以上』では「簡易な点検整備を、自転車を利用する日ごとに自分で行っている」が最も高く、そのほかの年齢では「点検整備は行っていない」が最も高くなっている。

職業別にみると、『無職』では「簡易な点検整備を、自転車を利用する日ごとに自分で行っている」43.6%が最も高く、そのほかの職業では「点検整備は行っていない」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』では「簡易な点検整備を、自転車を利用する日ごとに自分で行っている」39.7%が最も高く、『小豆圏域』、『中讃圏域』では「簡易な点検整備を、自転車を利用する日ごとに自分で行っている」と「点検整備は行っていない」が同率で最も高く、そのほかの圏域では「点検整備は行っていない」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「簡易な点検整備を、自転車を利用する日ごとに自分で行っている」と「点検整備は行っていない」が同率の35.2%で最も高く、そのほかの居住年数では「点検整備は行っていない」が最も高くなっている。

図表 4-(4)-2 【自転車の点検整備の実施について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	無回答	
		全体 (人)	点検整備は行っていない	に簡易な点検整備を行っている	程度()に点検整備を行っていない 程度()に点検整備を行っていない 程度()に点検整備を行っていない 程度()に点検整備を行っていない	程度()に点検整備を行っていない 程度()に点検整備を行っていない 程度()に点検整備を行っていない 程度()に点検整備を行っていない	
【表の見方】 単位=比率(%)							
全体		909	38.6	32.6	18.3	9.6	4.4
性別	男性	450	32.2	38.4	20.4	9.3	3.6
	女性	442	46.2	26.9	16.3	9.5	4.1
年齢別	18～19歳	13	23.1	30.8	15.4	30.8	-
	20～29歳	55	49.1	20.0	10.9	21.8	1.8
	30～39歳	109	45.0	32.1	15.6	7.3	2.8
	40～49歳	159	42.1	26.4	22.6	10.7	1.9
	50～59歳	151	44.4	27.8	23.8	4.6	0.7
	60～69歳	192	41.1	32.8	16.7	6.3	4.7
	70歳以上	215	27.0	44.2	16.3	11.6	7.9
職業別	農林漁業	46	50.0	26.1	21.7	2.2	2.2
	商工業、サービス業、自由業など	129	38.0	34.9	19.4	9.3	3.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	394	43.9	28.2	21.3	6.9	2.0
	主婦・主夫	157	38.9	32.5	12.7	12.1	6.4
	無職	163	26.4	43.6	14.7	16.0	6.1
圏域別	高松圏域	494	39.1	30.6	17.6	11.9	3.8
	東讃圏域	73	28.8	39.7	20.5	5.5	6.8
	小豆圏域	20	35.0	35.0	20.0	-	15.0
	中讃圏域	226	37.6	37.6	18.1	7.5	3.1
	西讃圏域	96	46.9	25.0	19.8	7.3	6.3
居住年数別	3年未満	71	35.2	35.2	22.5	7.0	2.8
	3年以上～10年未満	126	46.0	29.4	11.9	13.5	1.6
	10年以上～20年未満	141	40.4	32.6	18.4	11.3	2.1
	20年以上	556	37.8	33.1	19.1	8.5	5.0

(5) 自転車の点検整備を行わない理由について

【問 32 で「1」と答えた方にお聞きします】

付問 7 点検整備を行わない理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=351】※回答数の多い順に並び替え

1	点検をしなくても、故障してから整備を行えば十分だと思うから	44.2%(44.1%)
2	点検整備を行わなければならないことを知らなかったから	39.6%(39.3%)
3	これまで自転車が故障したことがないから	25.6%(26.3%)
4	面倒だから	15.7%(16.5%)
5	点検整備の費用が高いから	5.4%(5.3%)
6	その他 (具体的に：)	10.0%(9.8%)
	(無回答)	1.1%(1.1%)

自転車の点検整備を行わない理由について、「点検をしなくても、故障してから整備を行えば十分だと思うから」44.2%が最も高く、次いで「点検整備を行わなければならないことを知らなかったから」39.6%、「これまで自転車が故障したことがないから」25.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「点検をしなくても、故障してから整備を行えば十分だと思うから」44.1%が最も高く、次いで「点検整備を行わなければならないことを知らなかったから」39.3%、「これまで自転車が故障したことがないから」26.3%などとなっている。

図表 4-(5)-1 自転車の点検整備を行わない理由について

		回答数
全体	100.0	351 人
(1) 点検をしなくても、故障してから整備を行えば十分だと思うから	44.2	155 人
(2) 点検整備を行わなければならないことを知らなかったから	39.6	139 人
(3) これまで自転車が故障したことがないから	25.6	90 人
(4) 面倒だから	15.7	55 人
(5) 点検整備の費用が高いから	5.4	19 人
(6) その他	10.0	35 人
無回答	1.1	4 人

グラフ単位：(%)

自転車の点検整備を行わない理由について、性別にみると、『男性』では「点検をしなくても、故障してから整備を行えば十分だと思うから」48.3%が最も高く、『女性』では「点検整備を行わなければならないことを知らなかったから」42.6%が最も高くなっている。これに『男性』では「点検整備を行わなければならないことを知らなかったから」35.9%、『女性』では「点検をしなくても、故障してから整備を行えば十分だと思うから」41.2%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「これまで自転車が故障したことがないから」66.7%が最も高く、『30～39歳』、『50～59歳』では「点検整備を行わなければならないことを知らなかったから」が最も高く、そのほかの年齢では「点検をしなくても、故障してから整備を行えば十分だと思うから」が最も高くなっている。

職業別にみると、『無職』では「点検整備を行わなければならないことを知らなかったから」44.2%が最も高く、そのほかの職業では「点検をしなくても、故障してから整備を行えば十分だと思うから」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「点検整備を行わなければならないことを知らなかったから」が最も高く、そのほかの圏域では「点検をしなくても、故障してから整備を行えば十分だと思うから」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「点検をしなくても、故障してから整備を行えば十分だと思うから」46.2%が最も高く、そのほかの居住年数では「点検整備を行わなければならないことを知らなかったから」が最も高くなっている。

図表 4-(5)-2 【自転車の点検整備を行わない理由について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)		
		全体 (人)	点検を十分だと思っても、故障してから整備を行えば良かったから	点検整備を行わなければならないことを知らなかったから	これまで自転車が故障したことがないから	面倒だから	点検整備の費用が高いから	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)									
全体		351	44.2	39.6	25.6	15.7	5.4	10.0	1.1
性別	男性	145	48.3	35.9	24.1	17.9	5.5	9.0	0.7
	女性	204	41.2	42.6	26.5	14.2	5.4	10.8	1.5
年齢別	18～19歳	3	33.3	33.3	66.7	33.3	-	-	-
	20～29歳	27	44.4	33.3	11.1	18.5	3.7	14.8	-
	30～39歳	49	30.6	40.8	20.4	16.3	10.2	20.4	-
	40～49歳	67	43.3	41.8	22.4	14.9	9.0	7.5	1.5
	50～59歳	67	40.3	50.7	20.9	14.9	4.5	6.0	1.5
	60～69歳	79	49.4	31.6	25.3	11.4	3.8	12.7	1.3
	70歳以上	58	53.4	37.9	44.8	20.7	1.7	3.4	1.7
職業別	農林漁業	23	43.5	34.8	26.1	8.7	-	13.0	-
	商工業、サービス業、自由業など	49	36.7	32.7	24.5	20.4	8.2	12.2	2.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	173	46.2	39.9	21.4	14.5	6.4	9.2	-
	主婦・主夫	61	49.2	44.3	34.4	9.8	3.3	13.1	3.3
	無職	43	37.2	44.2	32.6	27.9	4.7	4.7	-
圏域別	高松圏域	193	42.5	37.8	24.4	16.6	6.2	8.3	1.0
	東讃圏域	21	38.1	47.6	28.6	14.3	4.8	19.0	-
	小豆圏域	7	28.6	85.7	28.6	-	-	14.3	-
	中讃圏域	85	47.1	43.5	29.4	17.6	5.9	11.8	2.4
	西讃圏域	45	51.1	28.9	22.2	11.1	2.2	8.9	-
居住年数別	3年未満	25	36.0	40.0	28.0	20.0	4.0	8.0	-
	3年以上～10年未満	58	39.7	43.1	17.2	13.8	15.5	12.1	3.4
	10年以上～20年未満	57	43.9	45.6	29.8	10.5	7.0	3.5	1.8
	20年以上	210	46.2	37.1	26.7	17.1	2.4	11.4	0.5

(6) 自転車運転中のヘルメット着用について

問33 あなたは、自転車運転中、ヘルメットを着用していますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=909】

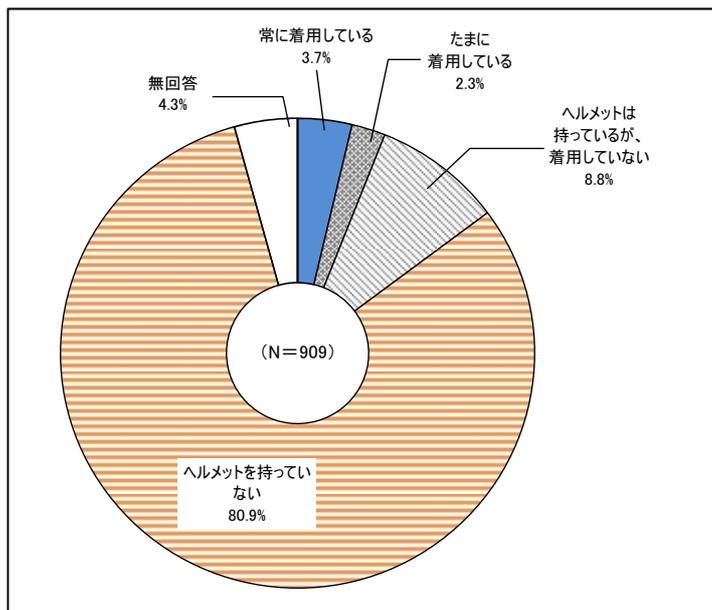
1 常に着用している	3.7% (4.1%)
2 たまに着用している	2.3% (2.5%)
3 ヘルメットは持っているが、着用していない	8.8% (9.1%)
4 ヘルメットを持っていない	80.9% (80.1%)
(無回答)	4.3% (4.3%)

} ⇒ 付問8にお進みください

自転車運転中のヘルメット着用について、「ヘルメットを持っていない」80.9%が最も高く、次いで「ヘルメットは持っているが、着用していない」8.8%、「常に着用している」3.7%、「たまに着用している」2.3%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ヘルメットを持っていない」80.1%が最も高く、次いで「ヘルメットは持っているが、着用していない」9.1%、「常に着用している」4.1%、「たまに着用している」2.5%となっている。

図表 4-(6)-1 自転車運転中のヘルメット着用について



自転車運転中のヘルメット着用について、性別にみると、男女とも「ヘルメットを持っていない」が最も高く『男性』76.2%、『女性』87.1%で、これに男女とも「ヘルメットは持っているが、着用していない」が『男性』12.2%、『女性』5.4%と続いている。

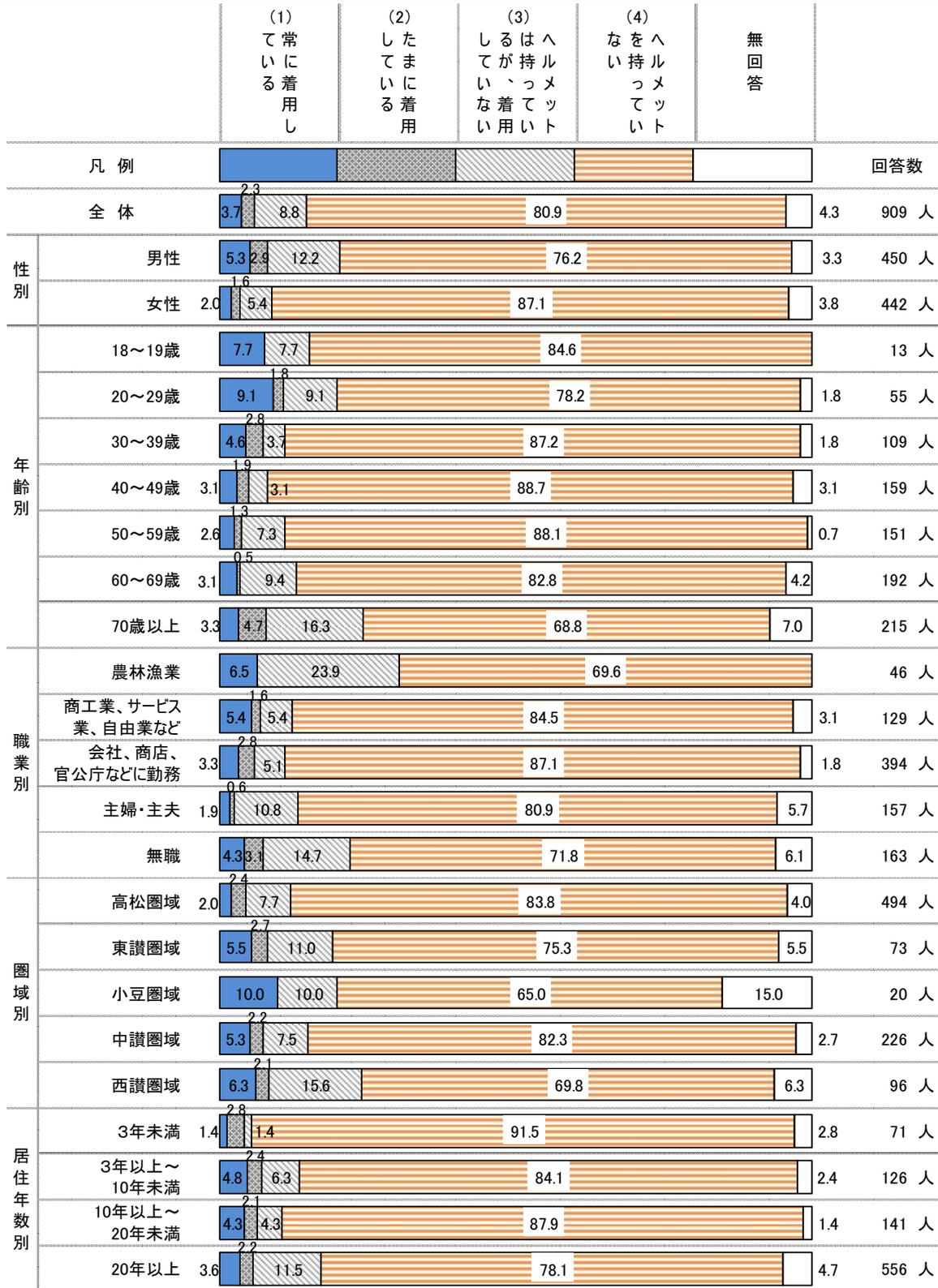
年齢別にみると、いずれも「ヘルメットを持っていない」が6～8割台と最も高く、これに『30～39歳』では「常に着用している」4.6%が続き、『18～19歳』、『20～29歳』、『40～49歳』では「常に着用している」と「ヘルメットは持っているが、着用していない」が同率で続き、そのほかの年齢では「ヘルメットは持っているが、着用していない」が続いている。

職業別にみると、いずれも「ヘルメットを持っていない」が6～8割台と最も高く、これに『商工業、サービス業、自由業など』では「常に着用している」と「ヘルメットは持っているが、着用していない」が同率の5.4%で続き、そのほかの職業では「ヘルメットは持っているが、着用していない」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「ヘルメットを持っていない」が6～8割台と最も高く、これに『小豆圏域』では「常に着用している」と「ヘルメットは持っているが、着用していない」が同率の10.0%で続き、そのほかの圏域では「ヘルメットは持っているが、着用していない」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「ヘルメットを持っていない」が7～9割台と最も高く、これに『3年未満』では「たまに着用している」2.8%が続き、『10年以上～20年未満』では「常に着用している」と「ヘルメットは持っているが、着用していない」が同率の4.3%で続き、そのほかの居住年数では「ヘルメットは持っているが、着用していない」が続いている。

図表 4-(6)-2 【自転車運転中のヘルメット着用について】



グラフ単位：(%)

(7)ヘルメットを着用しない理由について

【問 33 で「2」～「4」と答えた方にお聞きします】

付問 8 ヘルメットを着用しない理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=836】※回答数の多い順に並び替え

1 ヘルメットを持っていないから	71.9%(70.9%)
2 面倒だから	26.6%(26.4%)
3 他の人も着用していないから	26.2%(27.2%)
4 頭が蒸れて暑いから	11.6%(11.7%)
5 髪型が崩れるから	10.2%(11.0%)
6 格好悪いと思うから	9.1%(9.8%)
7 ヘルメットの保管場所に困るから	4.3%(4.8%)
8 その他（具体的に：_____）	10.3%(10.2%)
（無回答）	0.8%(0.9%)

ヘルメットを着用しない理由について、「ヘルメットを持っていないから」71.9%が最も高く、次いで「面倒だから」26.6%、「他の人も着用していないから」26.2%、「頭が蒸れて暑いから」11.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ヘルメットを持っていないから」70.9%が最も高く、次いで「他の人も着用していないから」27.2%、「面倒だから」26.4%、「頭が蒸れて暑いから」11.7%などとなっている。

図表 4-(7)-1 ヘルメットを着用しない理由について

		回答数
全体	100.0	836 人
(1) ヘルメットを持っていないから	71.9	601 人
(2) 面倒だから	26.6	222 人
(3) 他の人も着用していないから	26.2	219 人
(4) 頭が蒸れて暑いから	11.6	97 人
(5) 髪型が崩れるから	10.2	85 人
(6) 格好悪いと思うから	9.1	76 人
(7) ヘルメットの保管場所に困るから	4.3	36 人
(8) その他	10.3	86 人
無回答	0.8	7 人

グラフ単位：(%)

ヘルメットを着用しない理由について、性別にみると、男女とも「ヘルメットを持っていないから」が最も高く、『男性』65.7%、『女性』78.4%で、これに『男性』は「面倒だから」34.5%、『女性』は「他の人も着用していないから」29.6%が続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「他の人も着用していないから」50.0%が最も高く、そのほかの年齢では「ヘルメットを持っていないから」が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ヘルメットを持っていないから」が最も高く、これに『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』では「面倒だから」が続き、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「他の人も着用していないから」が続き、『無職』では「他の人も着用していないから」と「面倒だから」が同率で続いている。

圏域別にみると、いずれも「ヘルメットを持っていないから」が最も高く、これに『小豆圏域』、『中讃圏域』では「面倒だから」が続き、そのほかの圏域では「他の人も着用していないから」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「ヘルメットを持っていないから」が最も高く、これに『10年以上～20年未満』では「他の人も着用していないから」が続き、そのほかの居住年数では「面倒だから」が続いている。

図表 4-(7)-2 【ヘルメットを着用しない理由について】

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	
		全体 (人)	ヘルメットを持っていないから	面倒だから	他の人も着用していないから	頭が蒸れて暑いから	髪型が崩れるから	格好悪いと思うから	ヘルメットの保管場所に困るから	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)											
全体		836	71.9	26.6	26.2	11.6	10.2	9.1	4.3	10.3	0.8
性別	男性	411	65.7	34.5	22.9	13.1	8.5	9.0	6.6	10.7	1.0
	女性	416	78.4	19.0	29.6	9.9	11.8	9.1	2.2	9.4	0.7
年齢別	18～19歳	12	41.7	25.0	50.0	16.7	33.3	25.0	16.7	-	-
	20～29歳	49	75.5	24.5	28.6	8.2	14.3	14.3	4.1	12.2	2.0
	30～39歳	102	72.5	27.5	18.6	12.7	12.7	17.6	3.9	11.8	-
	40～49歳	149	77.9	27.5	27.5	14.1	13.4	12.1	2.7	8.7	-
	50～59歳	146	72.6	23.3	26.7	11.6	11.6	6.8	2.1	11.0	-
	60～69歳	178	74.2	28.7	23.0	9.6	5.6	5.1	3.4	9.0	1.1
	70歳以上	193	65.8	27.5	30.6	10.9	6.7	5.2	7.8	10.4	2.1
職業別	農林漁業	43	60.5	39.5	16.3	7.0	-	4.7	9.3	20.9	-
	商工業、サービス業、自由業など	118	75.4	34.7	24.6	11.0	7.6	6.8	3.4	13.6	1.7
	会社、商店、官公庁などに勤務	374	73.3	24.6	24.9	11.5	13.4	10.4	3.2	9.9	0.3
	主婦・主夫	145	74.5	18.6	31.0	13.1	11.0	8.3	1.4	9.0	1.4
	無職	146	67.1	30.1	30.1	11.6	6.2	9.6	8.9	5.5	1.4
圏域別	高松圏域	464	73.1	27.2	27.8	12.7	12.3	9.3	5.2	7.5	0.9
	東讃圏域	65	67.7	20.0	27.7	7.7	9.2	9.2	4.6	12.3	1.5
	小豆圏域	15	80.0	33.3	20.0	13.3	6.7	-	-	6.7	-
	中讃圏域	208	73.1	27.9	23.1	12.5	9.1	10.6	2.9	13.0	0.5
	西讃圏域	84	64.3	23.8	25.0	6.0	2.4	6.0	3.6	17.9	1.2
居住年数別	3年未満	68	83.8	30.9	29.4	10.3	8.8	7.4	1.5	10.3	-
	3年以上～10年未満	117	68.4	23.9	22.2	12.8	8.5	6.8	5.1	17.9	0.9
	10年以上～20年未満	133	69.2	25.6	32.3	12.0	13.5	15.8	6.0	6.8	0.8
	20年以上	510	72.0	27.3	25.5	11.2	9.8	8.0	4.1	9.0	1.0

(8) 自転車保険の認知度について

問34 自転車事故で相手にけがをさせた場合、相手の損害を賠償する保険などには、さまざまな種類があることをご存知ですか。次の中から知っているものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=909】※回答数の多い順に並び替え

1 「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済	53.1%(52.0%)
2 自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」	46.9%(47.6%)
3 自転車事故も補償する、職場で加入する団体保険またはPTAや学校が窓口となる団体保険（「小・中学生総合保障制度」、「高校生総合保障制度」、「自転車総合保障制度」）	40.3%(39.4%)
4 自転車の車体に付帯した「TSマーク付帯保険」	31.0%(29.8%)
5 いずれも知らない (無回答)	13.8%(14.4%) 5.2%(5.2%)

自転車保険の認知度について、「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済 53.1%が最も高く、次いで「自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」 46.9%、「自転車事故も補償する、職場で加入する団体保険またはPTAや学校が窓口となる団体保険（「小・中学生総合保障制度」、「高校生総合保障制度」、「自転車総合保障制度」）」 40.3%、「自転車の車体に付帯した「TSマーク付帯保険」 31.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済 52.0%が最も高く、次いで「自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」 47.6%、「自転車事故も補償する、職場で加入する団体保険またはPTAや学校が窓口となる団体保険（「小・中学生総合保障制度」、「高校生総合保障制度」、「自転車総合保障制度」）」 39.4%、「自転車の車体に付帯した「TSマーク付帯保険」 29.8%などとなっている。

図表 4-(8)-1 自転車保険の認知度について

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	909 人
(1) 「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済	53.1	483 人
(2) 自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」	46.9	426 人
(3) 自転車事故も補償する、職場で加入する団体保険またはPTAや学校が窓口となる団体保険（「小・中学生総合保障制度」、「高校生総合保障制度」、「自転車総合保障制度」）	40.3	366 人
(4) 自転車の車体に付帯した「TSマーク付帯保険」	31.0	282 人
(5) いずれも知らない	13.8	125 人
無回答	5.2	47 人

グラフ単位: (%)

自転車保険の認知度について、性別にみると、男女とも「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済が最も高く、『男性』54.7%、『女性』52.3%で、これに男女とも「自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」が『男性』48.0%、『女性』46.2%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『70歳以上』では「自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」が最も高く、『30～39歳』では「自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」と「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済が同率の50.5%で最も高く、そのほかの年齢では「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済が最も高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』、『無職』では「自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」が最も高く、そのほかの職業では「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済が最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「自転車事故も補償する、職場で加入する団体保険またはPTAや学校が窓口となる団体保険（「小・中学生総合保障制度」、「高校生総合保障制度」、「自転車総合保障制度」）」40.0%が最も高く、そのほかの圏域では「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』では「自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」53.2%が最も高く、そのほかの居住年数では「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済が最も高くなっている。

図表 4-(8)-2 【自転車保険の認知度について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
		全体 (人)	「自動車保険」、 「自転車事故も補償する特約」、 「傷害保険」が付帯されて いる保険や共済	「自転車事故を補償する 自転車利用者向け保 険」	「自転車事故も補償する、 職場で加入する団体保険ま たはPTAや学校が窓口となる 学生総合保障制度」、 「小・中 学生総合保障制度」、 「高校生総合保障制度」	「自転車の車体に付帯した T Sマーク付帯保 険」	いずれも知らない	無 回 答
【表の見方】 単位＝比率(%)								
全体		909	53.1	46.9	40.3	31.0	13.8	5.2
性別	男性	450	54.7	48.0	36.2	34.7	14.9	4.4
	女性	442	52.3	46.2	45.0	28.5	13.1	4.3
年齢別	18～19歳	13	46.2	76.9	61.5	23.1	-	-
	20～29歳	55	43.6	38.2	27.3	23.6	30.9	3.6
	30～39歳	109	50.5	50.5	39.4	28.4	19.3	0.9
	40～49歳	159	64.8	49.7	62.3	41.5	8.8	2.5
	50～59歳	151	66.9	45.7	58.3	39.1	7.3	2.6
	60～69歳	192	51.0	42.7	34.4	33.3	13.0	4.7
	70歳以上	215	42.3	48.8	20.0	21.4	17.2	8.8
職業別	農林漁業	46	47.8	39.1	26.1	26.1	23.9	6.5
	商工業、サービス業、自由業など	129	58.9	48.1	31.0	33.3	10.1	3.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	394	59.9	48.0	53.8	38.1	11.9	2.5
	主婦・主夫	157	42.7	46.5	33.1	25.5	14.0	7.0
	無職	163	45.4	48.5	27.6	22.7	18.4	7.4
圏域別	高松圏域	494	55.3	50.4	39.3	30.8	13.0	5.5
	東讃圏域	73	49.3	45.2	42.5	30.1	9.6	8.2
	小豆圏域	20	25.0	35.0	40.0	25.0	20.0	15.0
	中讃圏域	226	51.8	45.1	40.3	32.7	14.6	2.7
	西讃圏域	96	54.2	36.5	43.8	30.2	17.7	5.2
居住年数別	3年未満	71	52.1	49.3	31.0	29.6	19.7	2.8
	3年以上～10年未満	126	50.8	53.2	45.2	31.0	15.9	2.4
	10年以上～20年未満	141	65.2	58.2	60.3	39.0	6.4	1.4
	20年以上	556	51.1	42.6	35.6	30.0	14.7	5.9

(9) 自転車保険の加入について

問35 あなたは、自転車事故で相手にけがをさせた場合、相手の損害を賠償する保険などに加入していますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=909】※回答数の多い順に並び替え

- | | |
|--|--------------|
| 1 「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済に加入している | 34.7%(33.6%) |
| 2 自転車の事故を補償する保険などには、何も加入していない | 28.1%(27.6%) |
| 3 自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」に加入している | 11.1%(12.2%) |
| 4 自転車の車体に付帯した「TSマーク付帯保険」に加入している | 11.1%(11.1%) |
| 5 自転車事故も補償する、職場で加入する団体保険またはPTAや学校が窓口となる団体保険のいずれかに加入している | 5.1%(5.9%) |
| 6 上記以外の自転車事故を補償する保険などに加入している | 2.6%(2.7%) |
| 7 わからない | 14.9%(15.1%) |
| (無回答) | 5.4%(5.6%) |
- ⇒ 付問9にお進みください

自転車保険の加入について、「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済に加入している」34.7%が最も高く、次いで「自転車の事故を補償する保険などには、何も加入していない」28.1%、「わからない」14.9%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済に加入している」33.6%が最も高く、次いで「自転車の事故を補償する保険などには、何も加入していない」27.6%、「わからない」15.1%、「自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」に加入している」12.2%などとなっている。

図表 4-(9)-1 自転車保険の加入について

	割合	回答数
全体	100.0	909 人
(1) 「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済に加入している	34.7	315 人
(2) 自転車の事故を補償する保険などには、何も加入していない	28.1	255 人
(3) 自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」に加入している	11.1	101 人
(4) 自転車の車体に付帯した「TSマーク付帯保険」に加入している	11.1	101 人
(5) 自転車事故も補償する、職場で加入する団体保険またはPTAや学校が窓口となる団体保険のいずれかに加入している	5.1	46 人
(6) 上記以外の自転車事故を補償する保険などに加入している	2.6	24 人
(7) わからない	14.9	135 人
無回答	5.4	49 人

グラフ単位：(%)

自転車保険の加入について、性別にみると、男女とも「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済に加入している」が最も高く、『男性』35.6%、『女性』34.4%で、これに男女とも「自転車の事故を補償する保険などには、何も加入していない」が『男性』26.2%、『女性』30.3%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」に加入している」53.8%が最も高く、『20～29歳』では「わからない」38.2%が最も高く、『60～69歳』、『70歳以上』では「自転車の事故を補償する保険などには、何も加入していない」が最も高く、そのほかの年齢では「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済に加入している」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済に加入している」と「自転車の事故を補償する保険などには、何も加入していない」が同率で最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済に加入している」が最も高く、『主婦・主夫』、『無職』では「自転車の事故を補償する保険などには、何も加入していない」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』、『西讃圏域』では「自転車の事故を補償する保険などには、何も加入していない」が最も高く、そのほかの圏域では「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済に加入している」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済に加入している」が最も高くなっている。

(10) 自転車保険に加入していない理由について

【問35で「2」と答えた方にお聞きします】

付問9 自転車事故を補償する保険に加入していない理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=255】※回答数の多い順に並び替え

1 加入のきっかけがなかったから	54.9%(55.4%)
2 保険加入に努めなければならぬことを知らなかったから	29.8%(29.4%)
3 自転車に乗る時、十分注意をしているので、自転車事故の加害者になることはないと思うから	21.6%(20.5%)
4 保険加入手続きが面倒だから	11.8%(11.6%)
5 自転車事故を補償する保険があることを知らなかったから	10.6%(10.9%)
6 保険料が高いから	5.5%(5.5%)
7 自転車事故の加害者になっても、被害者への損害賠償金は自分で支払えると思うから	2.4%(2.4%)
8 その他(具体的に：)	23.9%(23.9%)
(無回答)	0.4%(0.5%)

自転車保険に加入していない理由について、「加入のきっかけがなかったから」54.9%が最も高く、次いで「保険加入に努めなければならぬことを知らなかったから」29.8%、「その他」23.9%、「自転車に乗る時、十分注意をしているので、自転車事故の加害者になることはないと思うから」21.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「加入のきっかけがなかったから」55.4%が最も高く、次いで「保険加入に努めなければならぬことを知らなかったから」29.4%、「その他」23.9%、「自転車に乗る時、十分注意をしているので、自転車事故の加害者になることはないと思うから」20.5%などとなっている。

図表 4-(10)-1 自転車保険に加入していない理由について

	割合	回答数
全体	100.0	255 人
(1) 加入のきっかけがなかったから	54.9	140 人
(2) 保険加入に努めなければならぬことを知らなかったから	29.8	76 人
(3) 自転車に乗る時、十分注意をしているので、自転車事故の加害者になることはないと思うから	21.6	55 人
(4) 保険加入手続きが面倒だから	11.8	30 人
(5) 自転車事故を補償する保険があることを知らなかったから	10.6	27 人
(6) 保険料が高いから	5.5	14 人
(7) 自転車事故の加害者になっても、被害者への損害賠償金は自分で支払えると思うから	2.4	6 人
(8) その他	23.9	61 人
無回答	0.4	1 人

グラフ単位：(%)

自転車保険に加入していない理由について、性別にみると、男女とも「加入のきっかけがなかったから」が『男性』57.6%、『女性』53.0%と最も高く、これに男女とも「保険加入に努めなければならないことを知らなかったから」が『男性』28.8%、『女性』31.3%と続いている。

年齢別にみると、『50～59歳』では「その他」45.2%が最も高く、そのほかの年齢では「加入のきっかけがなかったから」が4～6割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「自転車に乗る時、十分注意をしているので、自転車事故の加害者になることはないと思うから」と「加入のきっかけがなかったから」が同率の33.3%で最も高く、そのほかの職業では「加入のきっかけがなかったから」が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「加入のきっかけがなかったから」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「加入のきっかけがなかったから」が最も高くなっている。

図表 4-(10)-2 【自転車保険に加入していない理由について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)					
		全体 (人)	加入の きっかけ がなかつた から	保険加入 に努めな ければなら ないこと を知ら	から 自転車事 故の加害 者になる ことはい ないと思 うので、	自 転車に 乗る時 、十分注 意をして いるので、	保 険加入 手続き が面倒だ から	な か つ た か ら	自 転車事 故を補償 する保 険があ ること を知ら	保 険料が 高いか ら	損 害賠償 金は自 分で支 払えら れと思 うから	自 転車事 故の加 害者な っても 、被害 者への	そ の 他	無 回 答
【表の見方】 単位＝比率(%)														
全体		255	54.9	29.8	21.6	11.8	10.6	5.5	2.4	23.9	0.4			
性別	男性	118	57.6	28.8	25.4	13.6	12.7	5.9	4.2	20.3	-			
	女性	134	53.0	31.3	18.7	9.7	9.0	5.2	0.7	26.1	0.7			
年齢別	18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	14	64.3	14.3	-	7.1	-	7.1	-	28.6	-			
	30～39歳	27	44.4	14.8	3.7	7.4	3.7	-	3.7	33.3	-			
	40～49歳	38	47.4	34.2	13.2	13.2	13.2	15.8	-	34.2	-			
	50～59歳	31	35.5	29.0	12.9	9.7	-	3.2	3.2	45.2	-			
	60～69歳	62	62.9	32.3	35.5	12.9	9.7	4.8	1.6	12.9	-			
	70歳以上	80	62.5	35.0	28.8	12.5	18.8	3.8	3.8	13.8	1.3			
職業別	農林漁業	15	33.3	26.7	33.3	6.7	13.3	6.7	-	13.3	-			
	商工業、サービス業、自由業など	24	58.3	29.2	8.3	16.7	-	-	-	25.0	-			
	会社、商店、官公庁などに勤務	101	49.5	27.7	18.8	6.9	11.9	7.9	4.0	29.7	-			
	主婦・主夫	58	58.6	32.8	19.0	10.3	10.3	5.2	-	29.3	1.7			
	無職	53	66.0	34.0	34.0	20.8	13.2	3.8	3.8	7.5	-			
圏域別	高松圏域	121	56.2	32.2	16.5	13.2	9.9	4.1	2.5	20.7	0.8			
	東讃圏域	22	50.0	22.7	36.4	13.6	9.1	-	-	31.8	-			
	小豆圏域	9	77.8	55.6	22.2	11.1	22.2	-	-	11.1	-			
	中讃圏域	69	53.6	30.4	24.6	10.1	14.5	5.8	1.4	26.1	-			
	西讃圏域	34	50.0	17.6	23.5	8.8	2.9	14.7	5.9	29.4	-			
居住年数別	3年未満	19	52.6	21.1	5.3	5.3	-	-	5.3	36.8	-			
	3年以上～10年未満	28	57.1	39.3	14.3	14.3	21.4	7.1	-	21.4	-			
	10年以上～20年未満	33	54.5	30.3	12.1	15.2	6.1	9.1	3.0	27.3	-			
	20年以上	172	55.2	29.7	26.7	11.0	11.0	5.2	2.3	21.5	0.6			

5. ボランティア・NPO活動について

(1) ボランティアやNPO活動の関心度について

問36 あなたは、ボランティアやNPO活動にどの程度関心がありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

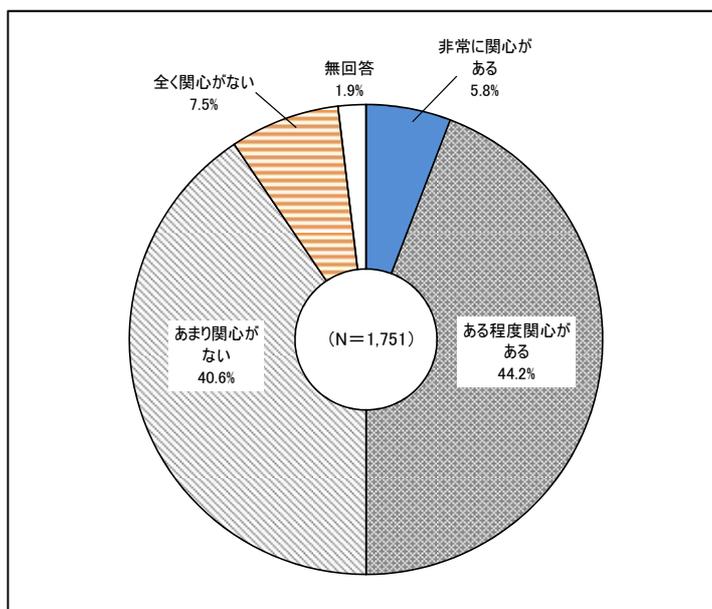
【回答者数=1,751】

1 非常に関心がある	5.8% (6.1%)
2 ある程度関心がある	44.2% (44.3%)
3 あまり関心がない	40.6% (40.0%)
4 全く関心がない	7.5% (7.6%)
(無回答)	1.9% (2.0%)

ボランティアやNPO活動の関心度について、「ある程度関心がある」44.2%が最も高く、次いで「あまり関心がない」40.6%、「全く関心がない」7.5%、「非常に関心がある」5.8%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ある程度関心がある」44.3%が最も高く、次いで「あまり関心がない」40.0%、「全く関心がない」7.6%、「非常に関心がある」6.1%となっている。

図表 5-(1)-1 ボランティアやNPO活動の関心度について



ボランティアやNPO活動の関心度について、性別にみると、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた【関心がある】の割合は、『男性』48.9%、『女性』50.4%で、「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合わせた【関心がない】の割合は、『男性』49.7%、『女性』47.8%となっており、『男性』は【関心がない】の割合が【関心がある】を上回り、『女性』は【関心がある】の割合が【関心がない】を上回っている。

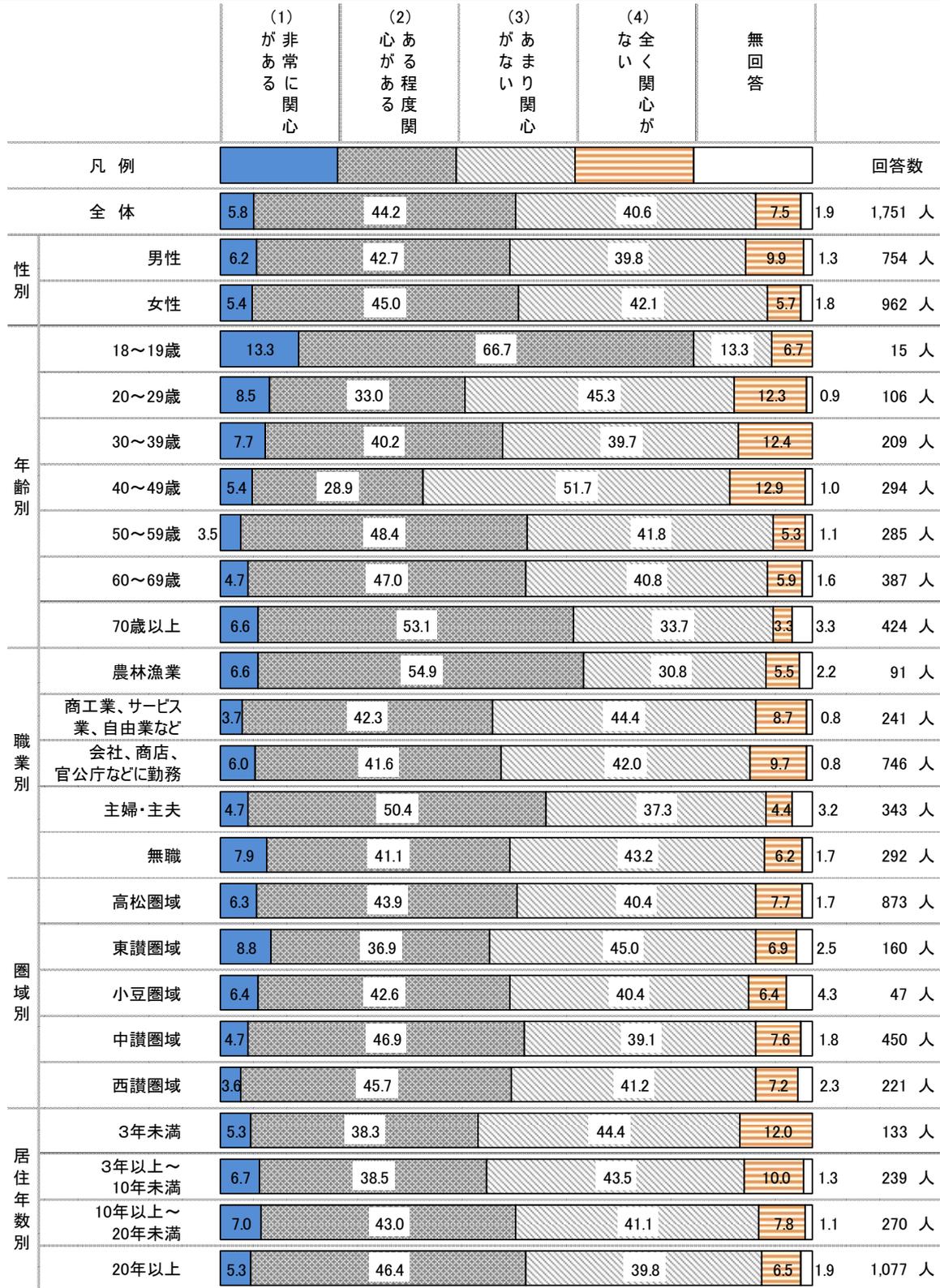
年齢別にみると、【関心がある】の割合は、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』を除くすべての年齢で5割を超え、『18～19歳』では80.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【関心がある】の割合は、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』を除くすべての職業で5割を超え、『農林漁業』において61.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【関心がある】の割合は、『東讃圏域』を除くすべての圏域で4割を超え、『中讃圏域』では51.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【関心がある】の割合は、『3年未満』、『3年以上～10年未満』を除くすべての居住年数で5割を超え、『20年以上』では51.7%と最も高くなっている。

図表 5-(1)-2 【ボランティアやNPO活動の関心度について】



グラフ単位：(%)

(2) ボランティアやNPO活動への参加について

問37 あなたは、これまでにボランティアやNPO活動をしたことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

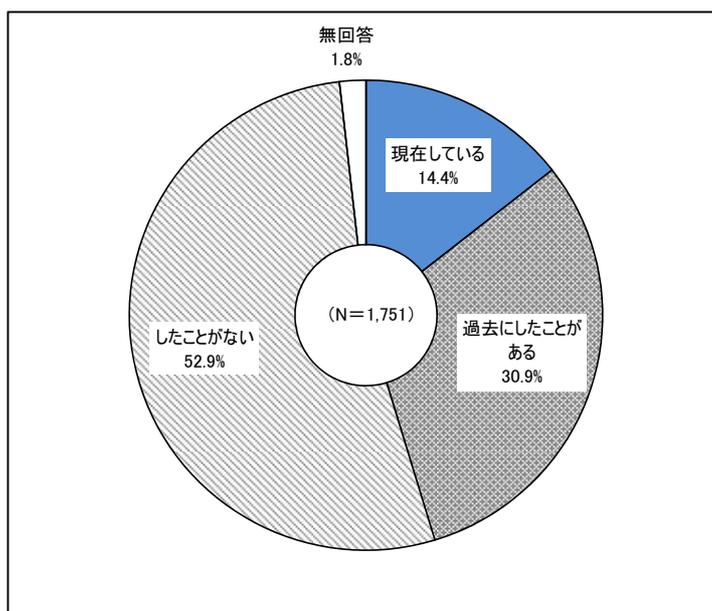
【回答者数=1,751】

- | | | |
|--------------|--------------|--------------------------|
| 1 現在している | 14.4%(14.1%) | ⇒付問 10 にお進みください |
| 2 過去にしたことがある | 30.9%(32.0%) | ⇒付問 10 および付問 11 にお進みください |
| 3 したことがない | 52.9%(52.1%) | ⇒付問 11 および付問 12 にお進みください |
| (無回答) | 1.8%(1.8%) | |

ボランティアやNPO活動への参加について、「したことがない」52.9%が最も高く、次いで「過去にしたことがある」30.9%、「現在している」14.4%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「したことがない」52.1%が最も高く、次いで「過去にしたことがある」32.0%、「現在している」14.1%となっている。

図表 5-(2)-1 ボランティアやNPO活動への参加について



ボランティアやNPO活動への参加について、性別にみると、男女とも「したことがない」が最も高く、『男性』55.8%、『女性』51.1%で、これに男女とも「過去にしたことがある」が『男性』26.8%、『女性』34.5%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』は「過去にしたことがある」が最も高く、そのほかの年齢では「したことがない」が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「したことがない」が最も高く、『無職』では57.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「したことがない」が最も高く、『東讃圏域』では55.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「したことがない」が最も高く、『3年以上～10年未満』では56.5%と最も高くなっている。

図表 5-(2)-2 【ボランティアやNPO活動への参加について】

	(1) る 現 在 し て い	(2) こ 過 と 去 が に あ り し た	(3) な し た こ と が	無 回 答		
凡 例					回答数	
全 体	14.4	30.9	52.9	1.8	1,751 人	
性 別	男性	16.6	26.8	55.8	0.8	754 人
	女性	12.6	34.5	51.1	1.8	962 人
年 齢 別	18～19歳	6.7	53.3	40.0		15 人
	20～29歳	8.5	47.2	43.4	0.9	106 人
	30～39歳	10.0	33.5	56.5		209 人
	40～49歳	12.2	31.6	55.4	0.7	294 人
	50～59歳	12.6	35.4	50.9	1.1	285 人
	60～69歳	17.6	23.8	57.6	1.0	387 人
	70歳以上	17.7	28.5	50.5	3.3	424 人
職 業 別	農林漁業	27.5	26.4	46.2		91 人
	商工業、サービス業、自由業など	14.5	29.9	54.8	0.8	241 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	12.3	33.2	53.9	0.5	746 人
	主婦・主夫	14.6	32.7	49.0	3.8	343 人
	無職	14.0	26.7	57.9	1.4	292 人
圏 域 別	高松圏域	14.2	31.5	52.3	1.9	873 人
	東讃圏域	16.9	25.0	55.6	2.5	160 人
	小豆圏域	8.5	38.3	51.1	2.1	47 人
	中讃圏域	14.2	30.0	54.7	1.1	450 人
	西讃圏域	14.9	33.0	50.2	1.8	221 人
居 住 年 数 別	3年未満	7.5	38.3	54.1		133 人
	3年以上～10年未満	11.3	31.0	56.5	1.3	239 人
	10年以上～20年未満	12.6	38.1	48.9	0.4	270 人
	20年以上	16.2	28.6	53.4	1.9	1,077 人

グラフ単位：(%)

(3) これまでにしたことがあるボランティアやNPO活動について

【問37で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問10 あなたがこれまでにしたことがあるボランティアやNPO活動について、あてはまるものすべてを選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=793】※回答数の多い順に並び替え

1	まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）	59.9% (58.5%)
2	環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）	52.5% (52.5%)
3	保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）	37.5% (36.8%)
4	学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館などでのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）	34.6% (33.2%)
5	子どもの健全育成関係（子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など）	29.4% (28.0%)
6	地域安全関係（交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など）	25.6% (24.8%)
7	災害救援関係（災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など）	17.3% (17.8%)
8	社会教育関係（生涯学習、生きがいつくり支援活動など）	9.1% (8.8%)
9	国際交流・協力関係（通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など）	6.8% (7.2%)
10	観光の振興関係（観光ボランティアなど）	4.0% (4.3%)
11	農山漁村の振興関係（農作業の援助など）	3.9% (3.9%)
12	ボランティアやNPO活動支援関係（ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など）	3.3% (3.9%)
13	男女共同参画関係（女性の自立支援活動、DV防止活動など）	2.4% (2.7%)
14	経済活動の活性化関係（起業の支援、商店街の活性化活動など）	2.4% (2.8%)
15	職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係（就職支援、障害者の雇用支援活動など）	2.0% (2.3%)
16	人権擁護・平和の推進関係（家庭内暴力や差別問題解消活動など）	1.9% (2.0%)
17	消費者保護関係（消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など）	1.1% (1.3%)
18	情報化社会の発展関係（パソコン技能やIT（情報通信技術）の普及活動など）	0.6% (0.7%)
19	科学技術の振興関係（科学技術の普及活動など）	0.4% (0.3%)
20	その他（具体的に： （無回答）	3.2% (3.3%) 1.1% (1.1%)

これまでにしたことがあるボランティアやNPO活動について、「まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）」59.9%が最も高く、次いで、「環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）」52.5%、「保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）」37.5%、「学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館などでのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）」34.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）」58.5%が最も高く、次いで「環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）」52.5%、「保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）」36.8%、「学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館などでのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）」33.2%などとなっている。

図表 5-(3)-1 これまでにしたことがあるボランティアやNPO活動について

		回答数
	全体	100.0
		793 人
(1)	まちづくり関係(地域おこし活動、自治会・町内会の活動など)	59.9
		475 人
(2)	環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など)	52.5
		416 人
(3)	保健・医療・福祉関係(献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など)	37.5
		297 人
(4)	学術・文化・芸術・スポーツ関係(PTA活動、美術館・図書館などでのボランティア活動、スポーツ教室の指導など)	34.6
		274 人
(5)	子どもの健全育成関係(子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など)	29.4
		233 人
(6)	地域安全関係(交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など)	25.6
		203 人
(7)	災害救援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など)	17.3
		137 人
(8)	社会教育関係(生涯学習、生きがいづくり支援活動など)	9.1
		72 人
(9)	国際交流・協力関係(通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など)	6.8
		54 人
(10)	観光の振興関係(観光ボランティアなど)	4.0
		32 人
(11)	農山漁村の振興関係(農作業の援助など)	3.9
		31 人
(12)	ボランティアやNPO活動支援関係(ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など)	3.3
		26 人
(13)	男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	2.4
		19 人
(14)	経済活動の活性化関係(起業の支援、商店街の活性化活動など)	2.4
		19 人
(15)	職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係(就職支援、障害者の雇用支援活動など)	2.0
		16 人
(16)	人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	1.9
		15 人
(17)	消費者保護関係(消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など)	1.1
		9 人
(18)	情報化社会の発展関係(パソコン技能やIT(情報通信技術)の普及活動など)	0.6
		5 人
(19)	科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	0.4
		3 人
(20)	その他	3.2
		25 人
	無回答	1.1
		9 人

グラフ単位：(%)

これまでにしたことがあるボランティアやNPO活動について、性別にみると、男女とも「まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）」が『男性』61.2%、『女性』58.9%と最も高く、これに男女とも「環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）」が『男性』54.1%、『女性』51.7%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』では「環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）」が最も高く、『30～39歳』では「保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）」49.5%が最も高く、そのほかの年齢では「まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）」が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）」が最も高く5割を超え、特に『農林漁業』では71.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）」が最も高く5割を超え、特に『小豆圏域』では77.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）」50.8%が最も高く、『3年以上～10年未満』では「保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）」と「まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）」と「環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）」が同率の40.6%で最も高く、そのほかの居住年数では「まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）」が最も高くなっている。

(4) ボランティアやNPO活動の今後の意向について

【問37で「2」または「3」と答えた方にお聞きします】

付問11 あなたは、今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

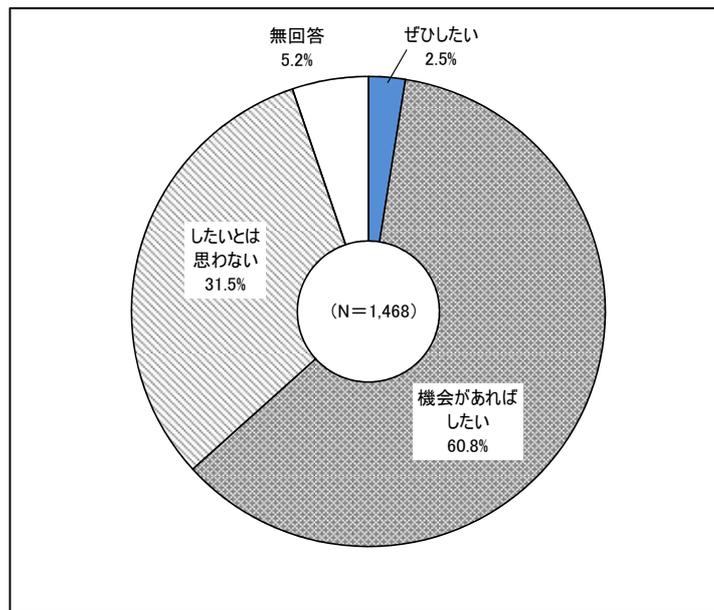
【回答者数=1,468】

1 ぜひしたい	2.5%(2.6%)
2 機会があればしたい	60.8%(60.7%)
3 したいとは思わない	31.5%(31.4%)
(無回答)	5.2%(5.2%)

ボランティアやNPO活動の今後の意向について、「機会があればしたい」60.8%が最も高く、次いで「したいとは思わない」31.5%、「ぜひしたい」2.5%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「機会があればしたい」60.7%が最も高く、次いで「したいとは思わない」31.4%、「ぜひしたい」2.6%となっている。

図表 5-(4)-1 ボランティアやNPO活動の今後の意向について



ボランティアやNPO活動の今後の意向について、性別にみると、男女とも「機会があればしたい」が『男性』60.0%、『女性』61.3%と最も高くなっている。

年齢別にみると、いずれも「機会があればしたい」が5～7割台と最も高く、『18～19歳』では71.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「機会があればしたい」が5～6割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では69.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「機会があればしたい」が5～6割台と最も高く、『小豆圏域』では66.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「機会があればしたい」が5～6割台と最も高く、『3年以上～10年未満』では65.1%と最も高くなっている。

図表 5-(4)-2 【ボランティアやNPO活動の今後の意向について】

		(1) ぜひ したい	(2) 機会 があれば したい	(3) 思わ ない とは	無 回 答	
凡 例						回答数
全 体	2.5	60.8	31.5	5.2		1,468 人
性 別	男性	2.4	60.0	31.0	6.6	623 人
	女性	2.5	61.3	32.0	4.1	824 人
年 齢 別	18～19歳	7.1	71.4	21.4		14 人
	20～29歳	5.2	65.6	25.0	4.2	96 人
	30～39歳	3.2	62.2	29.8	4.8	188 人
	40～49歳	3.1	57.0	34.4	5.5	256 人
	50～59歳	2.4	67.1	25.2	5.3	246 人
	60～69歳	1.9	61.6	32.1	4.4	315 人
	70歳以上	1.2	55.5	37.0	6.3	335 人
職 業 別	農林漁業		56.1	39.4	4.5	66 人
	商工業、サービス業、自由業など	2.0	69.6	23.5	4.9	204 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	2.8	64.2	28.6	4.5	650 人
	主婦・主夫	2.1	55.4	37.9	4.6	280 人
	無職	3.2	52.2	36.8	7.7	247 人
圏 域 別	高松圏域	2.5	60.4	32.1	5.1	732 人
	東讃圏域	3.1	58.9	30.2	7.8	129 人
	小豆圏域	4.8	66.7	26.2	2.4	42 人
	中讃圏域	2.1	61.9	30.7	5.2	381 人
	西讃圏域	2.2	59.8	33.2	4.9	184 人
居 住 年 数 別	3年未満	0.8	60.2	35.8	3.3	123 人
	3年以上～10年未満	3.3	65.1	28.7	2.9	209 人
	10年以上～20年未満	5.1	61.3	29.4	4.3	235 人
	20年以上	1.8	59.6	32.4	6.2	883 人

グラフ単位：(%)

(5) ボランティアや NPO 活動をしたことがない理由について

【問 37 で「3」と答えた方にお聞きます】

付問12 あなたがボランティアやNPO活動をしたことがない理由を、次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=927】※回答数の多い順に並び替え

1 時間的な余裕がないから	21.0%(20.3%)
2 きっかけや機会がないから	18.2%(19.0%)
3 体力的に自信がないから	18.1%(18.3%)
4 関心がないから	7.4%(7.4%)
5 活動に必要な情報が得られないから	4.1%(4.3%)
6 一緒に活動する仲間がないから	3.0%(3.1%)
7 その他（具体的に： ）	2.9%(3.1%)
8 特にない	3.1%(3.0%)
（無回答）	22.0%(21.5%)

ボランティアやNPO活動をしたことがない理由について、「時間的な余裕がないから」21.0%が最も高く、次いで「きっかけや機会がないから」18.2%、「体力的に自信がないから」18.1%、「関心がないから」7.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「時間的な余裕がないから」20.3%が最も高く、次いで「きっかけや機会がないから」19.0%、「体力的に自信がないから」18.3%、「関心がないから」7.4%などとなっている。

図表 5-(5)-1 ボランティアや NPO 活動をしたことがない理由について

		回答数
全体	100.0	927 人
(1) 時間的な余裕がないから	21.0	195 人
(2) きっかけや機会がないから	18.2	169 人
(3) 体力的に自信がないから	18.1	168 人
(4) 関心がないから	7.4	69 人
(5) 活動に必要な情報が得られないから	4.1	38 人
(6) 一緒に活動する仲間がないから	3.0	28 人
(7) その他	2.9	27 人
(8) 特にない	3.1	29 人
無回答	22.0	204 人

グラフ単位：(%)

ボランティアやNPO活動をしたことがない理由について、性別にみると、『男性』では「時間的な余裕がないから」23.0%が最も高く、『女性』では「体力的に自信がないから」21.1%が最も高くなっている。これに『男性』では「きっかけや機会がないから」18.3%、『女性』では「時間的な余裕がないから」19.7%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』では「きっかけや機会がないから」が最も高く、『60～69歳』、『70歳以上』では「体力的に自信がないから」が最も高く、そのほかの年齢では「時間的な余裕がないから」が最も高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』、『無職』では「体力的に自信がないから」が最も高く、そのほかの職業では「時間的な余裕がないから」が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「時間的な余裕がないから」が最も高く、『西讃圏域』では22.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「体力的に自信がないから」が最も高く、そのほかの居住年数では「時間的な余裕がないから」が最も高くなっている。

図表 5-(5)-2 【ボランティアやNPO 活動をしたことがない理由について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)		
		全体 (人)	時間 的な余 裕がな いから	き っか けや 機 会が ない から	体 力 的 に 自 信 が な い から	関 心 が な い から	活 動 に 必 要 な 情 報 が 得 ら れ な い から	一 緒 に 活 動 す る 仲 間 が い な い から	そ の 他	特 に な い	無 回 答
【表の見方】 単位=比率(%)											
全体		927	21.0	18.2	18.1	7.4	4.1	3.0	2.9	3.1	22.0
性別	男性	421	23.0	18.3	14.0	10.9	4.8	3.1	2.6	4.0	19.2
	女性	492	19.7	18.3	21.1	4.5	3.7	3.0	3.3	2.4	24.0
年齢別	18～19歳	6	16.7	50.0	-	-	16.7	-	-	-	16.7
	20～29歳	46	15.2	28.3	2.2	8.7	6.5	10.9	2.2	4.3	21.7
	30～39歳	118	28.0	21.2	4.2	12.7	2.5	3.4	3.4	2.5	22.0
	40～49歳	163	28.8	19.0	10.4	11.0	2.5	3.1	1.2	3.1	20.9
	50～59歳	145	34.5	15.9	10.3	4.8	4.1	2.1	2.1	4.1	22.1
	60～69歳	223	17.0	16.6	19.7	6.7	4.5	3.6	1.8	4.0	26.0
	70歳以上	214	8.4	16.4	38.3	4.2	5.1	1.4	6.1	1.9	18.2
職業別	農林漁業	42	21.4	16.7	19.0	9.5	7.1	-	2.4	7.1	16.7
	商工業、サービス業、自由業など	132	25.8	14.4	11.4	8.3	6.8	-	3.0	0.8	29.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	402	31.3	20.9	7.5	9.7	2.7	2.7	1.5	2.7	20.9
	主婦・主夫	168	9.5	16.7	35.1	2.4	4.8	4.2	3.6	3.0	20.8
	無職	169	4.7	17.2	30.8	5.9	4.1	5.3	5.9	5.3	20.7
圏域別	高松圏域	457	21.0	19.9	19.0	8.5	4.2	3.5	2.8	2.8	18.2
	東讃圏域	89	16.9	14.6	12.4	10.1	2.2	3.4	6.7	2.2	31.5
	小豆圏域	24	20.8	12.5	16.7	4.2	-	-	4.2	4.2	37.5
	中讃圏域	246	22.0	19.9	17.1	6.5	4.1	2.0	2.0	2.8	23.6
	西讃圏域	111	22.5	11.7	21.6	3.6	6.3	3.6	1.8	5.4	23.4
居住年数別	3年未満	72	34.7	22.2	11.1	2.8	-	4.2	-	4.2	20.8
	3年以上～10年未満	135	22.2	20.7	11.1	8.1	2.2	5.2	2.2	3.7	24.4
	10年以上～20年未満	132	27.3	15.9	12.9	10.6	6.8	1.5	3.8	3.8	17.4
	20年以上	575	17.9	17.6	21.7	7.1	4.5	2.8	3.3	2.8	22.3

6. 県政の重要度と満足度について

県では、平成28年度からの新たな香川づくりの指針として、「新・せとうち田園都市創造計画」※を策定し、「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の3つの基本方針のもと、さまざまな施策に取り組んでいます。

この計画を着実に推進し、県民の皆さまのニーズ(要望)に対応した県政を進めるためには、皆さまが「県行政に対して何を求めているのか」、「現在の状況にどのくらい満足しているのか」を知り、それを県政に反映させていくことが重要となります。

そこで、この計画で展開することとしている24の分野を対象に、皆さまが考える重要度と満足度についてお伺いしますので、以下の質問にお答えください。

「重要度」については、今の生活やこれからの生活を送っていく上でどのくらい重要かを、また、「満足度」については、現状にどのくらい満足しているかを、それぞれ5段階で評価してください。

※「新・せとうち田園都市創造計画」

本県の進むべき基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針で、計画期間は平成28年度から令和2年度の5年間です。

この計画では、「せとうち田園都市の新たな創造」を基本目標に掲げ、「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の3つの基本方針のもと、人口減少の克服や地域活力の向上につながる効果的な施策に重点的に取り組み、人口の社会増を伴う、魅力ある瀬戸内香川の生活圏域づくりをめざしています。

(1) 成長する香川(重要度)

問38 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「成長する香川」についておたずねします。

「成長する香川」の実現に向けて展開している1～7の分野について、あなたの＜重要度＞を、それぞれ(1)～(5)のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】

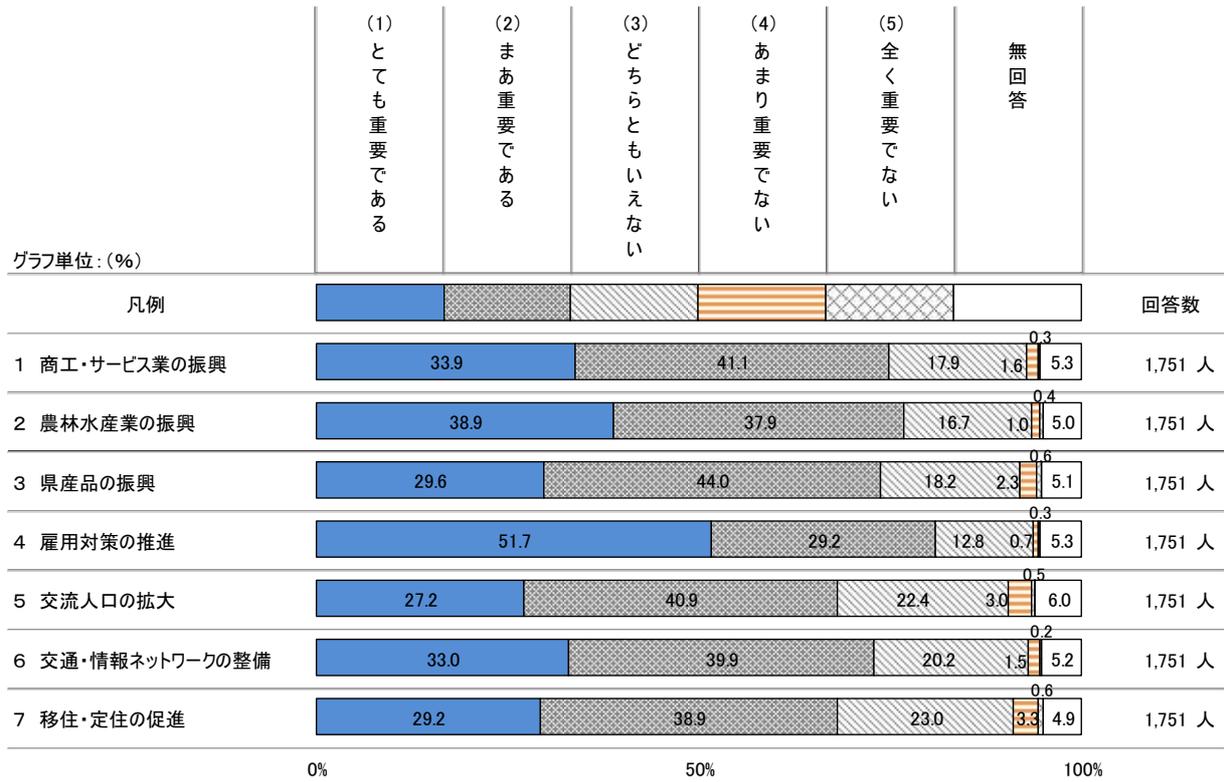
(単位：%)

分 野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
1 商工・サービス業の振興	33.9 (33.9)	41.1 (40.5)	17.9 (18.2)	1.6 (1.6)	0.3 (0.3)	5.3 (5.5)
2 農林水産業の振興	38.9 (38.5)	37.9 (37.7)	16.7 (16.9)	1.0 (1.3)	0.4 (0.4)	5.0 (5.2)
3 県産品の振興	29.6 (29.5)	44.0 (43.9)	18.2 (18.0)	2.3 (2.5)	0.6 (0.6)	5.1 (5.4)
4 雇用対策の推進	51.7 (51.9)	29.2 (28.7)	12.8 (12.8)	0.7 (0.7)	0.3 (0.2)	5.3 (5.6)
5 交流人口の拡大	27.2 (27.8)	40.9 (40.2)	22.4 (22.3)	3.0 (3.0)	0.5 (0.5)	6.0 (6.2)
6 交通・情報ネットワークの整備	33.0 (33.3)	39.9 (39.5)	20.2 (20.0)	1.5 (1.5)	0.2 (0.2)	5.2 (5.5)
7 移住・定住の促進	29.2 (29.2)	38.9 (38.8)	23.0 (22.6)	3.3 (3.6)	0.6 (0.6)	4.9 (5.2)

「成長する香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「雇用対策の推進」80.9%が最も高く、次いで「農林水産業の振興」76.8%、「商工・サービス業の振興」75.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【重要である】の割合は、「雇用対策の推進」80.6%が最も高く、次いで「農林水産業の振興」76.2%、「商工・サービス業の振興」74.4%などとなっている。

図表 6-(1) 成長する香川(重要度)



P283～P289 数表参照

(2) 成長する香川(満足度)

問38 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「成長する香川」についておたずねします。

「成長する香川」の実現に向けて展開している1～7の分野について、あなたの＜満足度＞を、それぞれ(1)～(5)のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】

(単位：%)

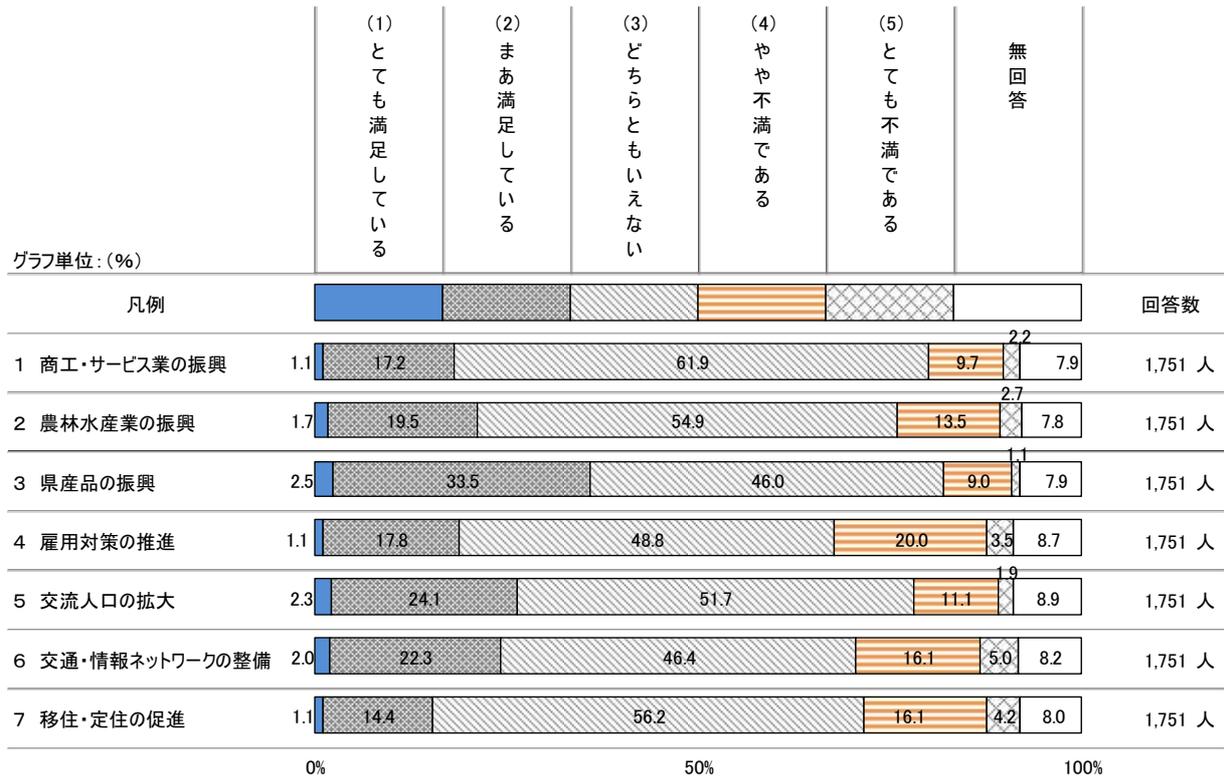
分 野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
1 商工・サービス業の振興	1.1 (1.1)	17.2 (17.8)	61.9 (60.9)	9.7 (9.8)	2.2 (2.2)	7.9 (8.2)
2 農林水産業の振興	1.7 (1.7)	19.5 (20.0)	54.9 (54.7)	13.5 (12.9)	2.7 (2.6)	7.8 (8.0)
3 県産品の振興	2.5 (2.6)	33.5 (33.7)	46.0 (45.4)	9.0 (9.1)	1.1 (1.1)	7.9 (8.1)
4 雇用対策の推進	1.1 (1.1)	17.8 (18.0)	48.8 (48.3)	20.0 (20.0)	3.5 (3.5)	8.7 (9.0)
5 交流人口の拡大	2.3 (2.5)	24.1 (24.6)	51.7 (50.7)	11.1 (11.0)	1.9 (2.1)	8.9 (9.1)
6 交通・情報ネットワークの整備	2.0 (2.0)	22.3 (23.1)	46.4 (45.3)	16.1 (15.8)	5.0 (5.3)	8.2 (8.5)
7 移住・定住の促進	1.1 (1.2)	14.4 (14.8)	56.2 (55.1)	16.1 (16.3)	4.2 (4.3)	8.0 (8.3)

「成長する香川」の満足度について、「商工・サービス業の振興」、「農林水産業の振興」、「県産品の振興」、「交流人口の拡大」と「交通・情報ネットワークの整備」では、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

一方で、「雇用対策の推進」と「移住・定住の促進」では、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

ウェイトバック集計した値においても、同じ結果となっている。

図表 6-(2) 成長する香川(満足度)



P283~P289 数表参照

(3)信頼・安心の香川(重要度)

問39 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「信頼・安心の香川」についておたずねします。
 「信頼・安心の香川」の実現に向けて展開している8～15の分野について、あなたの＜重要度＞を、それぞれ(1)～(5)のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】

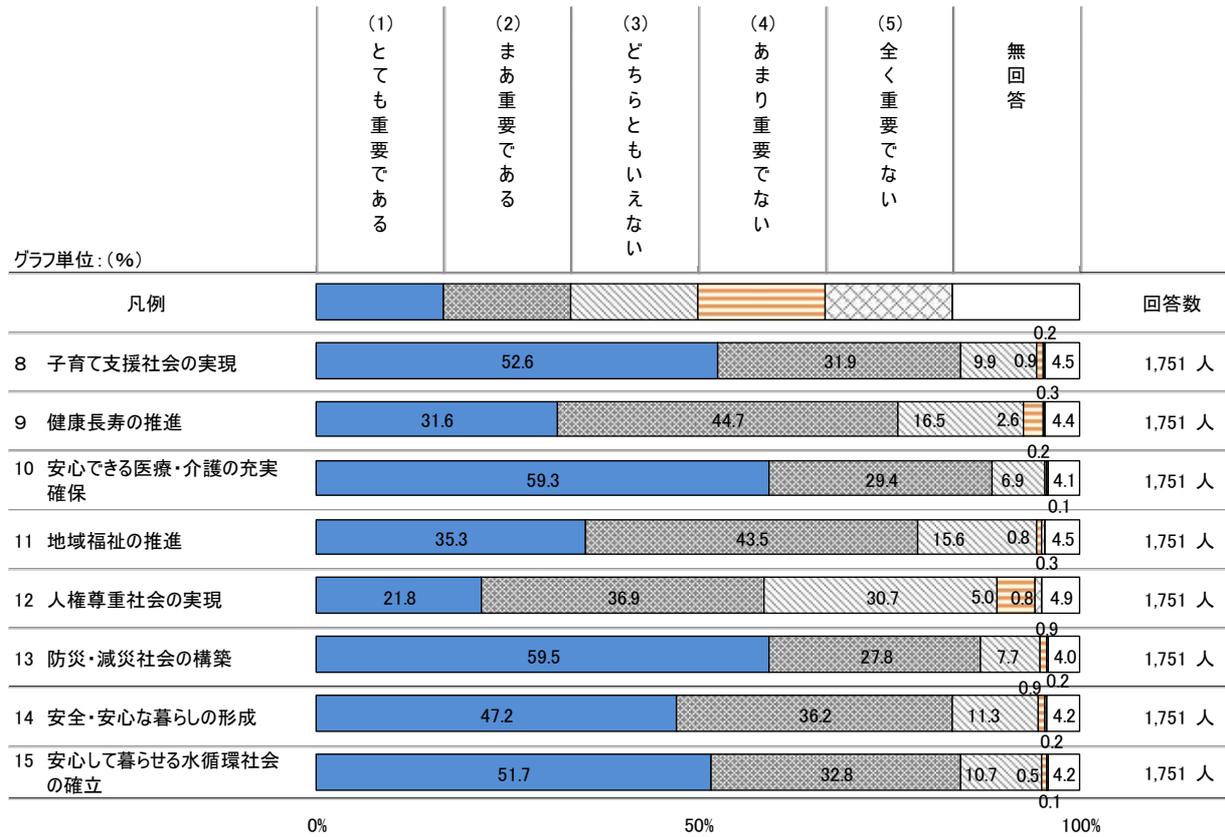
(単位：%)

分 野	重要度					無回答
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	
8 子育て支援社会の実現	52.6 (53.0)	31.9 (31.4)	9.9 (10.0)	0.9 (0.8)	0.2 (0.1)	4.5 (4.7)
9 健康長寿の推進	31.6 (31.4)	44.7 (44.5)	16.5 (16.4)	2.6 (2.8)	0.3 (0.3)	4.4 (4.7)
10 安心できる医療・介護の充実確保	59.3 (59.2)	29.4 (29.3)	6.9 (6.9)	0.2 (0.3)	0.1 (0.0)	4.1 (4.3)
11 地域福祉の推進	35.3 (34.9)	43.5 (43.4)	15.6 (15.8)	0.8 (1.0)	0.3 (0.3)	4.5 (4.7)
12 人権尊重社会の実現	21.8 (22.1)	36.9 (36.6)	30.7 (30.2)	5.0 (5.3)	0.8 (0.7)	4.9 (5.1)
13 防災・減災社会の構築	59.5 (59.6)	27.8 (27.5)	7.7 (7.7)	0.9 (0.9)	0.2 (0.2)	4.0 (4.2)
14 安全・安心な暮らしの形成	47.2 (47.3)	36.2 (35.8)	11.3 (11.2)	0.9 (1.1)	0.2 (0.2)	4.2 (4.4)
15 安心して暮らせる水循環社会の確立	51.7 (51.4)	32.8 (32.5)	10.7 (11.0)	0.5 (0.7)	0.1 (0.0)	4.2 (4.4)

「信頼・安心の香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「安心できる医療・介護の充実確保」88.7%が最も高く、次いで「防災・減災社会の構築」87.3%、「子育て支援社会の実現」と「安心して暮らせる水循環社会の確立」が同率の84.5%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【重要である】の割合は、「安心できる医療・介護の充実確保」88.5%が最も高く、次いで「防災・減災社会の構築」87.1%、「子育て支援社会の実現」84.4%などとなっている。

図表 6-(3) 信頼・安心の香川(重要度)



P290～P297 数表参照

(4)信頼・安心の香川(満足度)

問39 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「信頼・安心の香川」についておたずねします。
 「信頼・安心の香川」の実現に向けて展開している8～15の分野について、あなたの＜満足度＞を、
 それぞれ(1)～(5)のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】

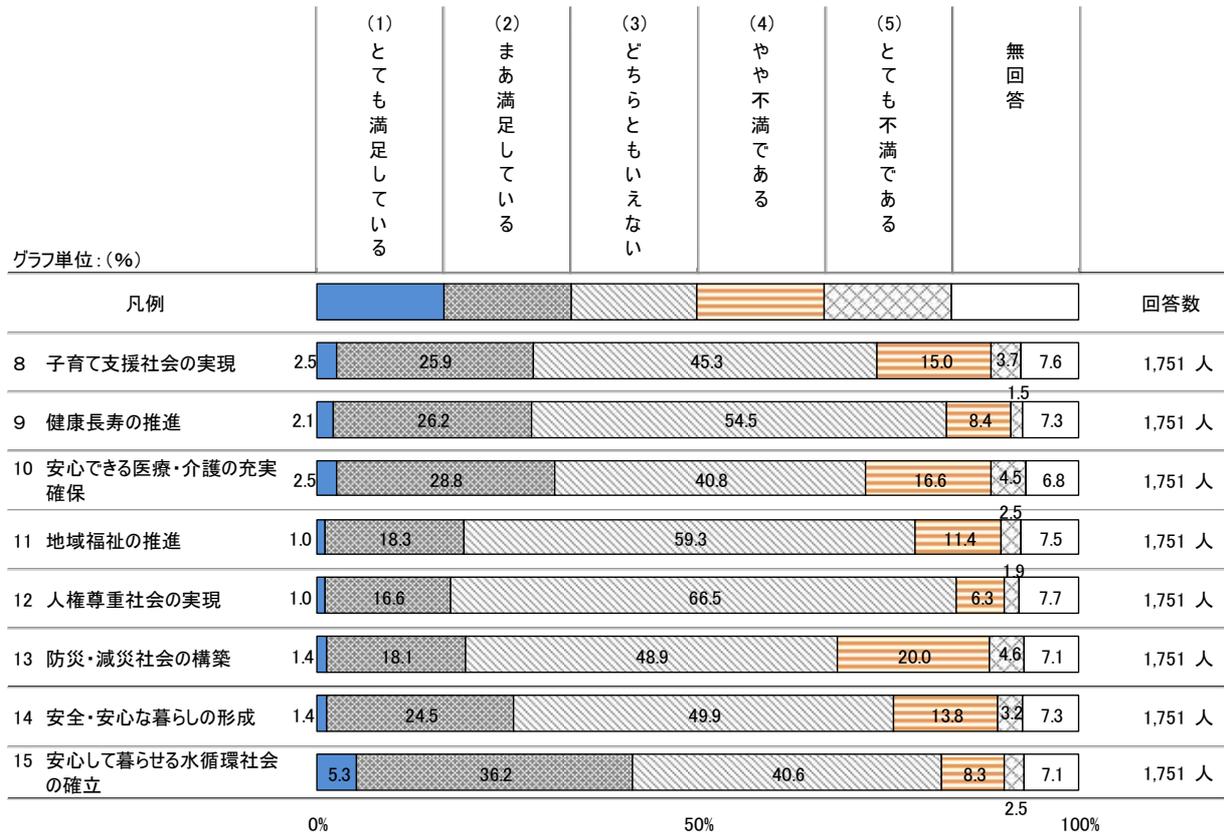
(単位：%)

分 野	満足度					無回答
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	
8 子育て支援社会の実現	2.5 (2.6)	25.9 (25.9)	45.3 (44.6)	15.0 (15.0)	3.7 (4.1)	7.6 (7.8)
9 健康長寿の推進	2.1 (2.1)	26.2 (26.6)	54.5 (54.0)	8.4 (8.3)	1.5 (1.6)	7.3 (7.5)
10 安心できる医療・介護の充実確保	2.5 (2.7)	28.8 (29.8)	40.8 (40.0)	16.6 (16.0)	4.5 (4.5)	6.8 (7.0)
11 地域福祉の推進	1.0 (1.1)	18.3 (18.9)	59.3 (58.5)	11.4 (11.3)	2.5 (2.5)	7.5 (7.7)
12 人権尊重社会の実現	1.0 (1.0)	16.6 (16.9)	66.5 (65.6)	6.3 (6.4)	1.9 (2.2)	7.7 (7.9)
13 防災・減災社会の構築	1.4 (1.5)	18.1 (18.2)	48.9 (48.0)	20.0 (20.0)	4.6 (4.9)	7.1 (7.3)
14 安全・安心な暮らしの形成	1.4 (1.4)	24.5 (25.0)	49.9 (49.0)	13.8 (13.7)	3.2 (3.4)	7.3 (7.5)
15 安心して暮らせる水循環社会の確立	5.3 (5.6)	36.2 (36.2)	40.6 (40.0)	8.3 (8.5)	2.5 (2.5)	7.1 (7.3)

「信頼・安心の香川」の満足度について、「防災・減災社会の構築」では、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合を上回っており、そのほかの分野では、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

ウェイトバック集計した値においても、同じ結果となっている。

図表 6-(4) 信頼・安心の香川(満足度)



P290～P297 数表参照

(5) 笑顔で暮らせる香川(重要度)

問40 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「笑顔で暮らせる香川」についておたずねします。
 「笑顔で暮らせる香川」の実現に向けて展開している16～24の分野について、あなたの＜重要度＞を、それぞれ(1)～(5)のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】

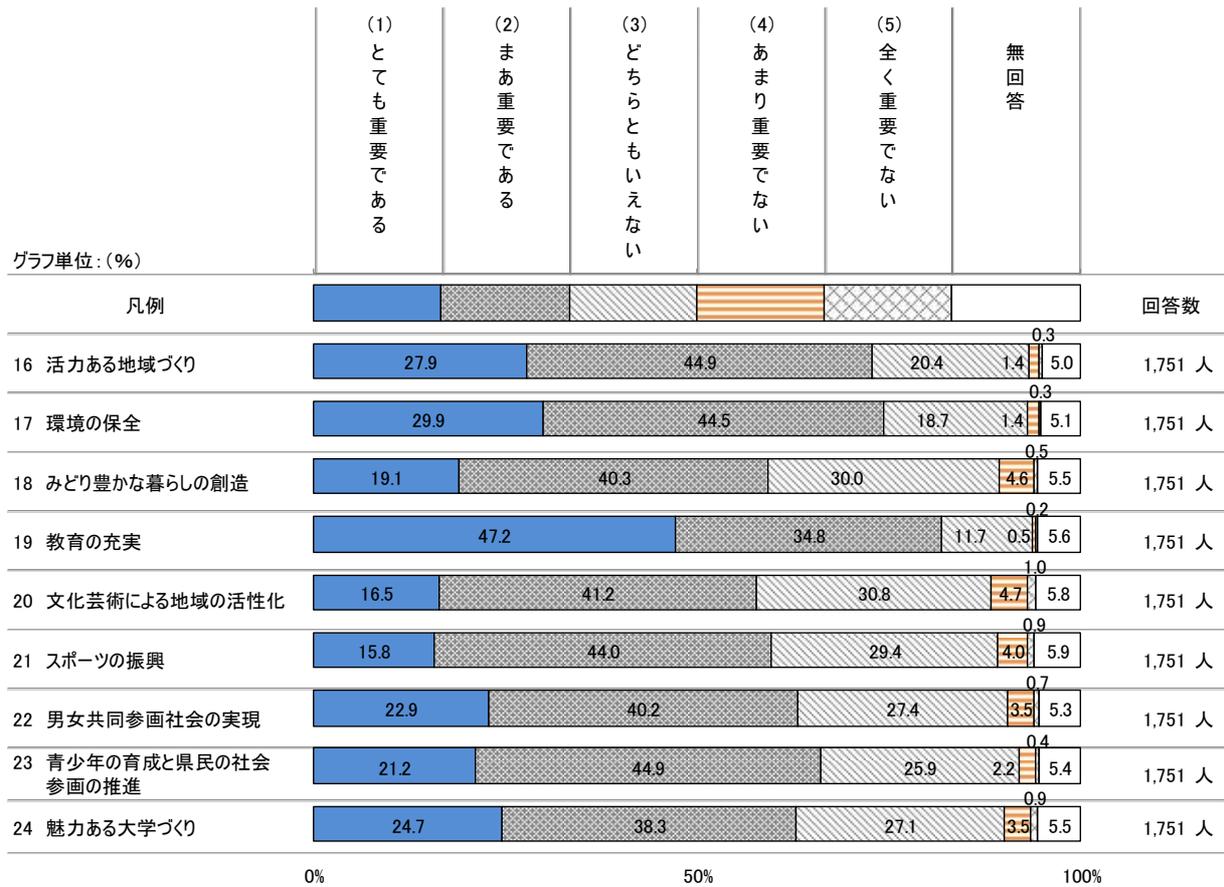
(単位：%)

分 野	重要度					無回答
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	
16 活力ある地域づくり	27.9 (28.2)	44.9 (44.4)	20.4 (20.4)	1.4 (1.5)	0.3 (0.3)	5.0 (5.1)
17 環境の保全	29.9 (30.0)	44.5 (44.4)	18.7 (18.7)	1.4 (1.3)	0.3 (0.3)	5.1 (5.3)
18 みどり豊かな暮らしの創造	19.1 (19.3)	40.3 (40.3)	30.0 (29.5)	4.6 (4.7)	0.5 (0.5)	5.5 (5.6)
19 教育の充実	47.2 (47.7)	34.8 (34.3)	11.7 (11.6)	0.5 (0.5)	0.2 (0.2)	5.6 (5.8)
20 文化芸術による地域の活性化	16.5 (16.9)	41.2 (40.9)	30.8 (30.1)	4.7 (5.0)	1.0 (1.1)	5.8 (5.9)
21 スポーツの振興	15.8 (16.0)	44.0 (43.3)	29.4 (29.2)	4.0 (4.3)	0.9 (1.0)	5.9 (6.2)
22 男女共同参画社会の実現	22.9 (23.5)	40.2 (39.8)	27.4 (27.0)	3.5 (3.6)	0.7 (0.6)	5.3 (5.5)
23 青少年の育成と県民の社会参画の推進	21.2 (21.5)	44.9 (44.3)	25.9 (25.8)	2.2 (2.3)	0.4 (0.4)	5.4 (5.6)
24 魅力ある大学づくり	24.7 (25.7)	38.3 (37.6)	27.1 (26.8)	3.5 (3.4)	0.9 (0.9)	5.5 (5.6)

「笑顔で暮らせる香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「教育の充実」82.0%が最も高く、次いで「環境の保全」74.4%、「活力ある地域づくり」72.8%などとなっている。

ウェイトバック集計した値を見ると、【重要である】の割合は、「教育の充実」82.0%が最も高く、次いで「環境の保全」74.4%、「活力ある地域づくり」72.6%などとなっている。

図表 6-(5) 笑顔で暮らせる香川(重要度)



P298～P306 数表参照

(6) 笑顔で暮らせる香川(満足度)

問40 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「笑顔で暮らせる香川」についておたずねします。
 「笑顔で暮らせる香川」の実現に向けて展開している16～24の分野について、あなたの＜満足度＞を、それぞれ(1)～(5)のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】

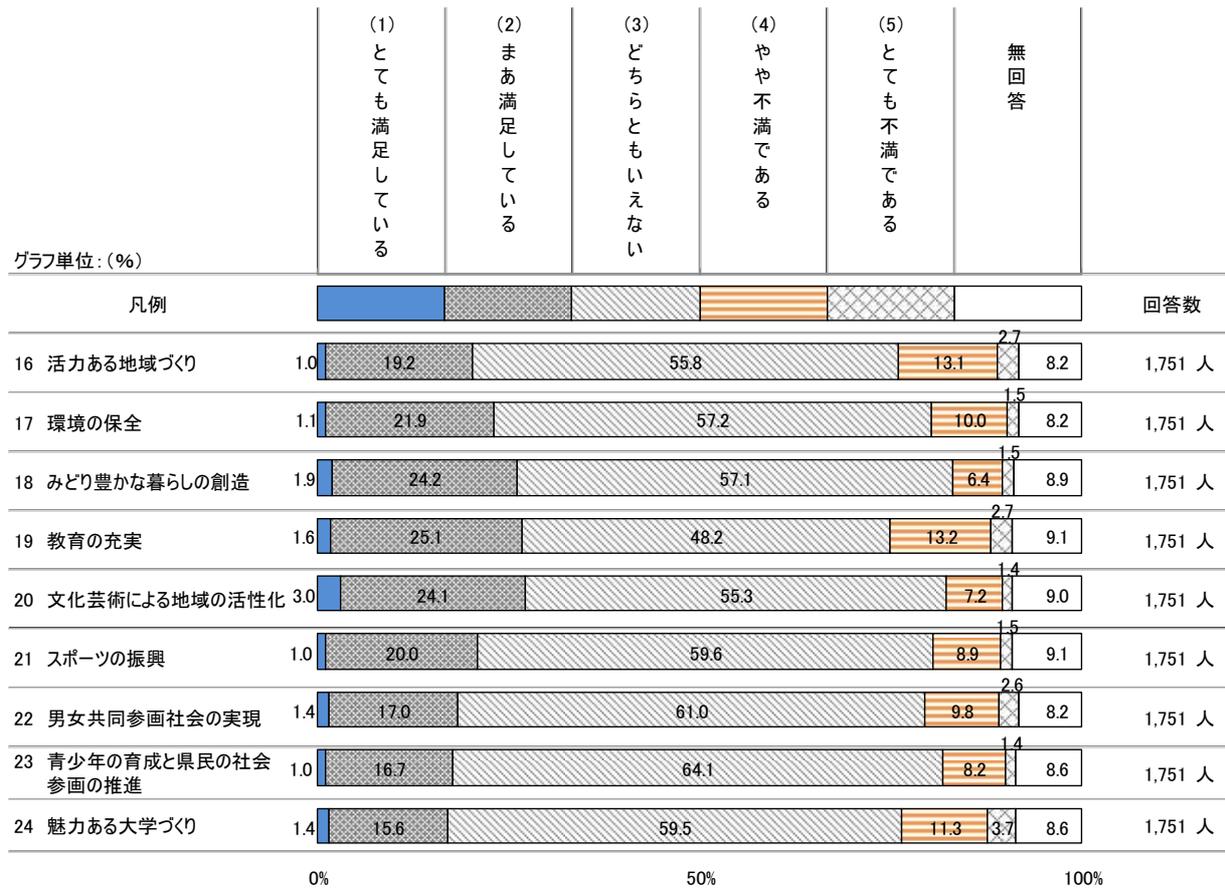
(単位：%)

分 野	満足度					無回答
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	
16 活力ある地域づくり	1.0 (1.1)	19.2 (19.6)	55.8 (55.0)	13.1 (13.1)	2.7 (2.7)	8.2 (8.4)
17 環境の保全	1.1 (1.2)	21.9 (22.6)	57.2 (56.4)	10.0 (9.8)	1.5 (1.5)	8.2 (8.5)
18 みどり豊かな暮らしの創造	1.9 (2.3)	24.2 (24.4)	57.1 (56.5)	6.4 (6.2)	1.5 (1.7)	8.9 (9.0)
19 教育の充実	1.6 (1.8)	25.1 (25.2)	48.2 (47.2)	13.2 (13.4)	2.7 (3.0)	9.1 (9.4)
20 文化芸術による地域の活性化	3.0 (3.1)	24.1 (24.4)	55.3 (54.4)	7.2 (7.1)	1.4 (1.6)	9.0 (9.3)
21 スポーツの振興	1.0 (1.0)	20.0 (20.3)	59.6 (59.1)	8.9 (8.6)	1.5 (1.6)	9.1 (9.4)
22 男女共同参画社会の実現	1.4 (1.6)	17.0 (17.4)	61.0 (60.4)	9.8 (9.4)	2.6 (2.7)	8.2 (8.5)
23 青少年の育成と県民の社会参画の推進	1.0 (1.0)	16.7 (16.7)	64.1 (63.6)	8.2 (8.3)	1.4 (1.5)	8.6 (8.9)
24 魅力ある大学づくり	1.4 (1.4)	15.6 (15.9)	59.5 (58.5)	11.3 (11.2)	3.7 (4.1)	8.6 (8.8)

「笑顔で暮らせる香川」の満足度について、すべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「文化芸術による地域の活性化」、「教育の充実」や「みどり豊かな暮らしの創造」の満足度が高くなっている。

ウェイトバック集計した値においても、同じ結果となっている。

図表 6-(6) 笑顔で暮らせる香川(満足度)



P298~P306 数表参照

商工・サービス業の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』79.0%、『女性』73.4%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『50～59歳』において81.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『農林漁業』において80.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『小豆圏域』において80.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』において79.5%と最も高くなっている。

商工・サービス業の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』17.4%、『女性』19.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』16.4%、『女性』8.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

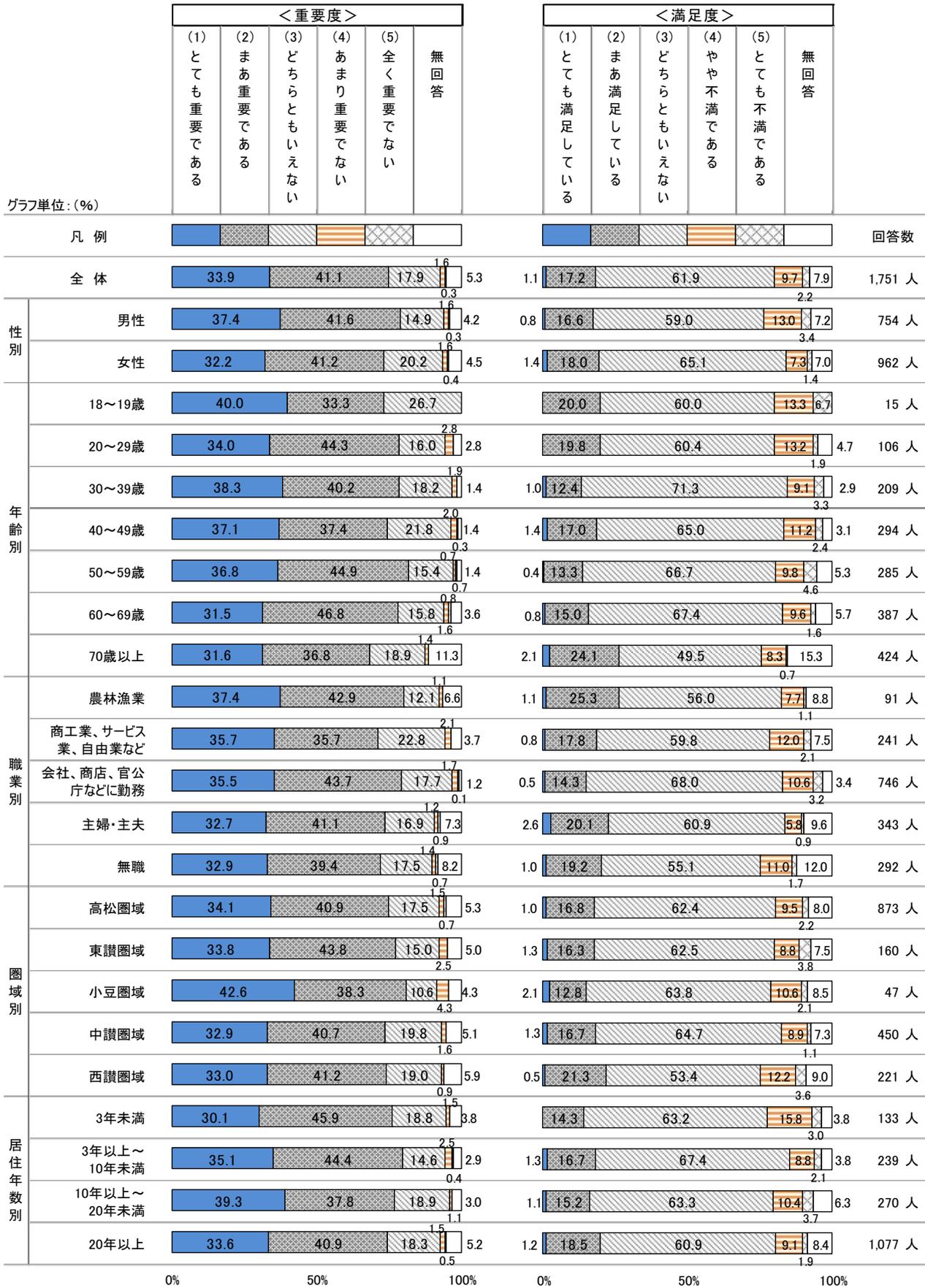
年齢別にみると、『18～19歳』において【満足している】と【不満である】の割合20.0%が同率で、『50～59歳』において【不満である】の割合14.4%が【満足している】の割合13.7%を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において【不満である】の割合18.8%が【満足している】の割合14.3%を上回り、そのほかの居住年数では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(1)【商工・サービス業の振興】



P283 数表参照

農林水産業の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』77.9%、『女性』77.7%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『20～29歳』において82.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『農林漁業』において85.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『小豆圏域』において87.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』において80.4%と最も高くなっている。

農林水産業の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』19.1%、『女性』23.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』20.2%、『女性』13.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

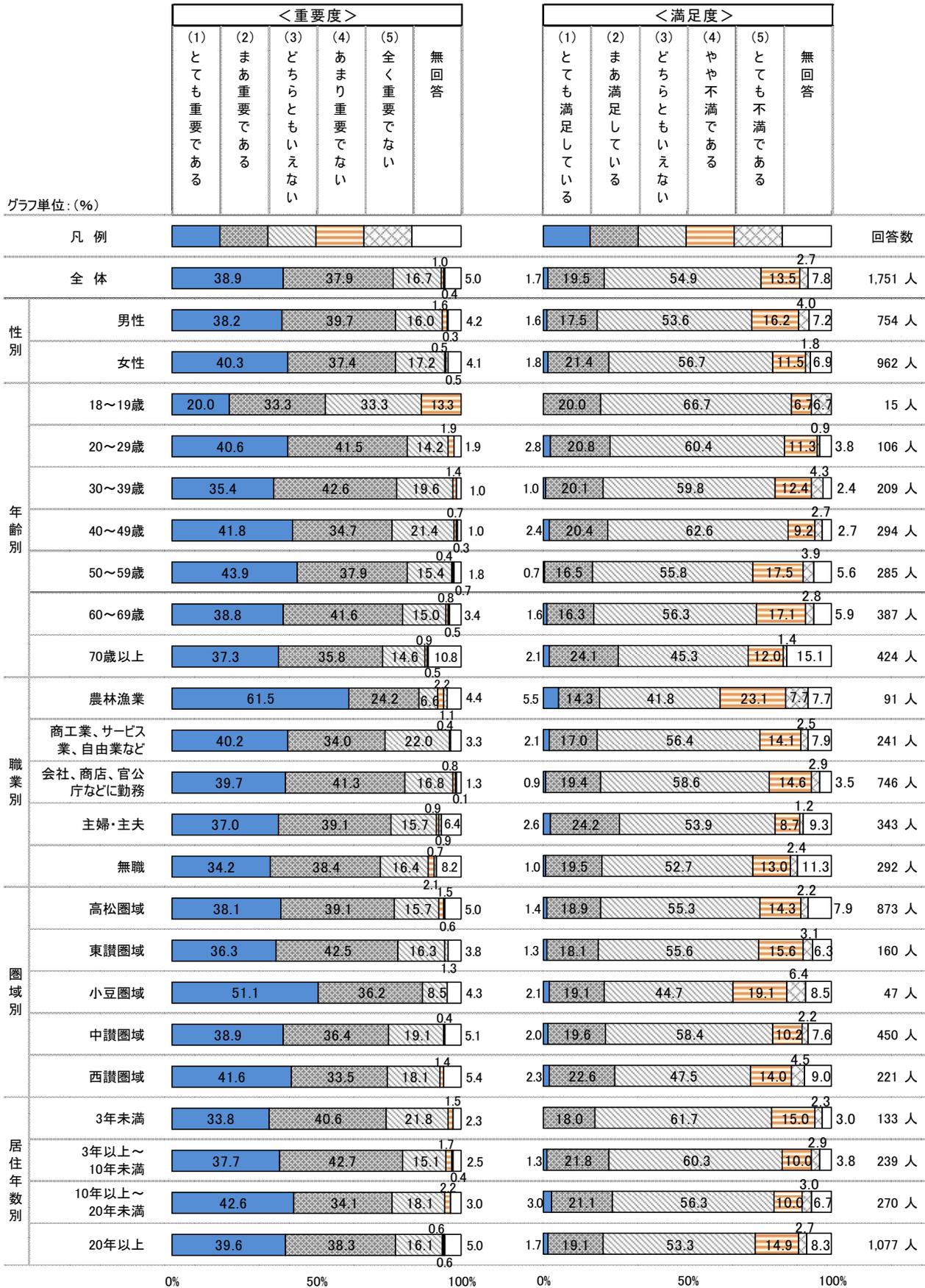
年齢別にみると、『50～59歳』、『60～69歳』において【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』において【不満である】の割合30.8%が【満足している】の割合19.8%を上回り、そのほかの職業では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において【不満である】の割合25.5%が【満足している】の割合21.2%を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(2)【農林水産業の振興】



P284 数表参照

県産品の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』71.3%、『女性』76.9%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『50～59歳』において78.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において77.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『中讃圏域』において76.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年以上～10年未満』において76.6%と最も高くなっている。

県産品の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』34.8%、『女性』38.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.1%、『女性』8.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

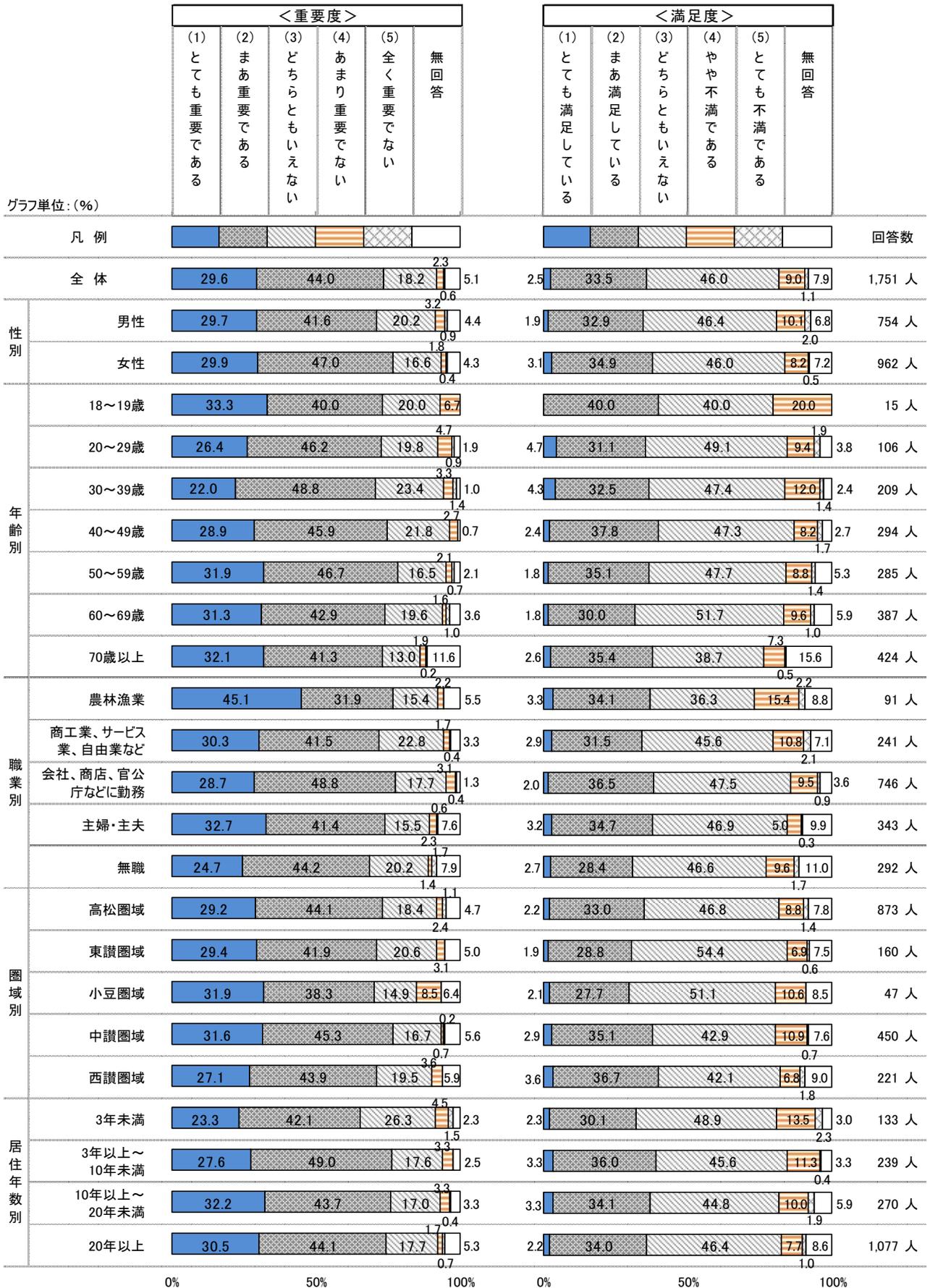
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(3)【県産品の振興】



雇用対策の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』79.5%、『女性』83.4%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『20～29歳』において89.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において87.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『小豆圏域』において87.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年以上～10年未満』において86.6%と最も高くなっている。

雇用対策の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』19.1%、『女性』19.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』24.9%、『女性』22.6%となっており、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

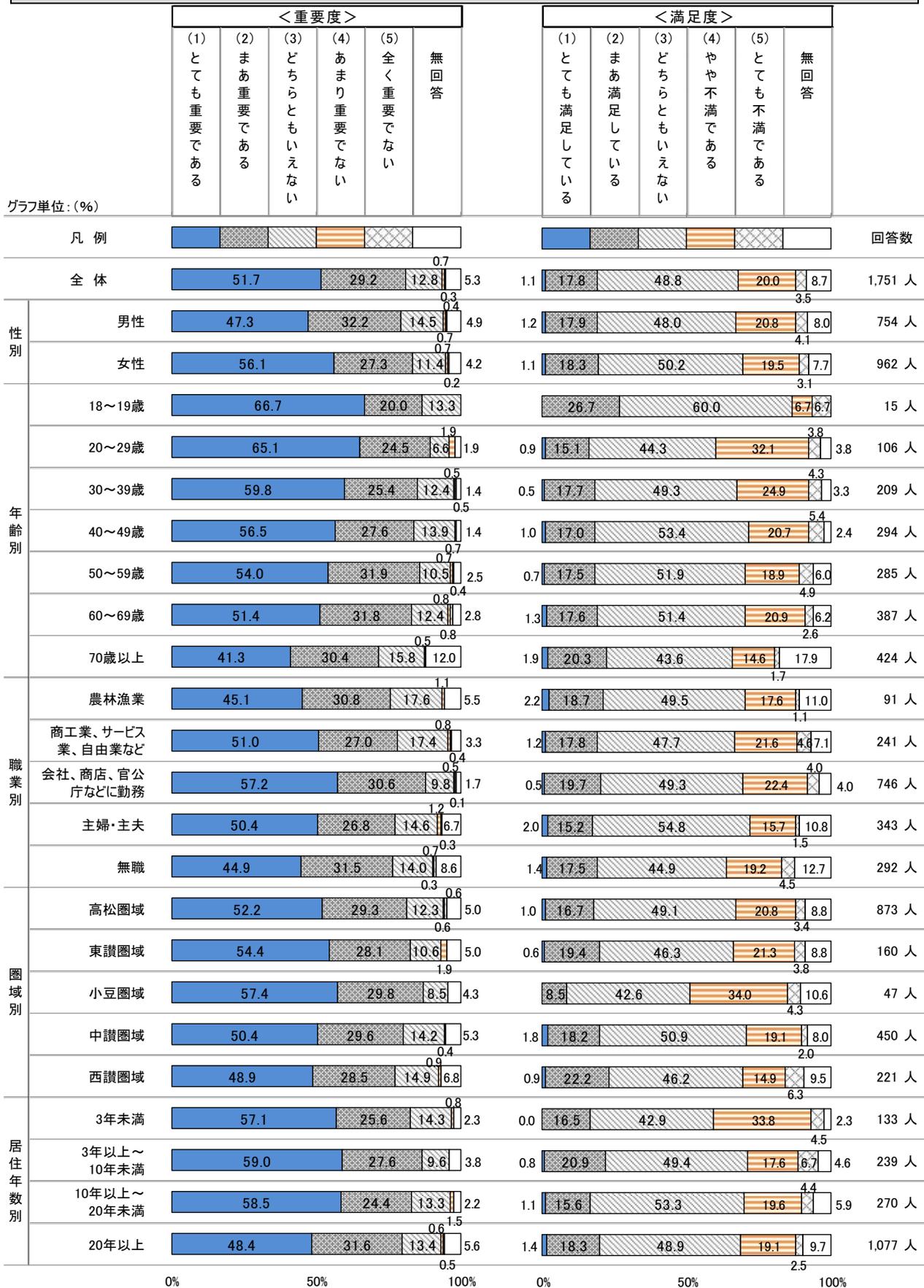
年齢別にみると、『18～19歳』、『70歳以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、そのほかの年齢では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』において、【満足している】の割合20.9%が【不満である】の割合18.7%を上回り、『主婦・主夫』において【満足している】と【不満である】の割合17.2%が同率であり、そのほかの職業では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『西讃圏域』において、【満足している】の割合23.1%が【不満である】の割合21.2%を上回り、そのほかの圏域では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 7-(4)【雇用対策の推進】



P286 数表参照

交流人口の拡大の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』67.0%、『女性』70.6%と、いずれも6割を超えている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において71.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『東讃圏域』において75.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『10年以上～20年未満』において73.3%と最も高くなっている。

交流人口の拡大の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』25.6%、『女性』27.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』15.7%、『女性』11.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

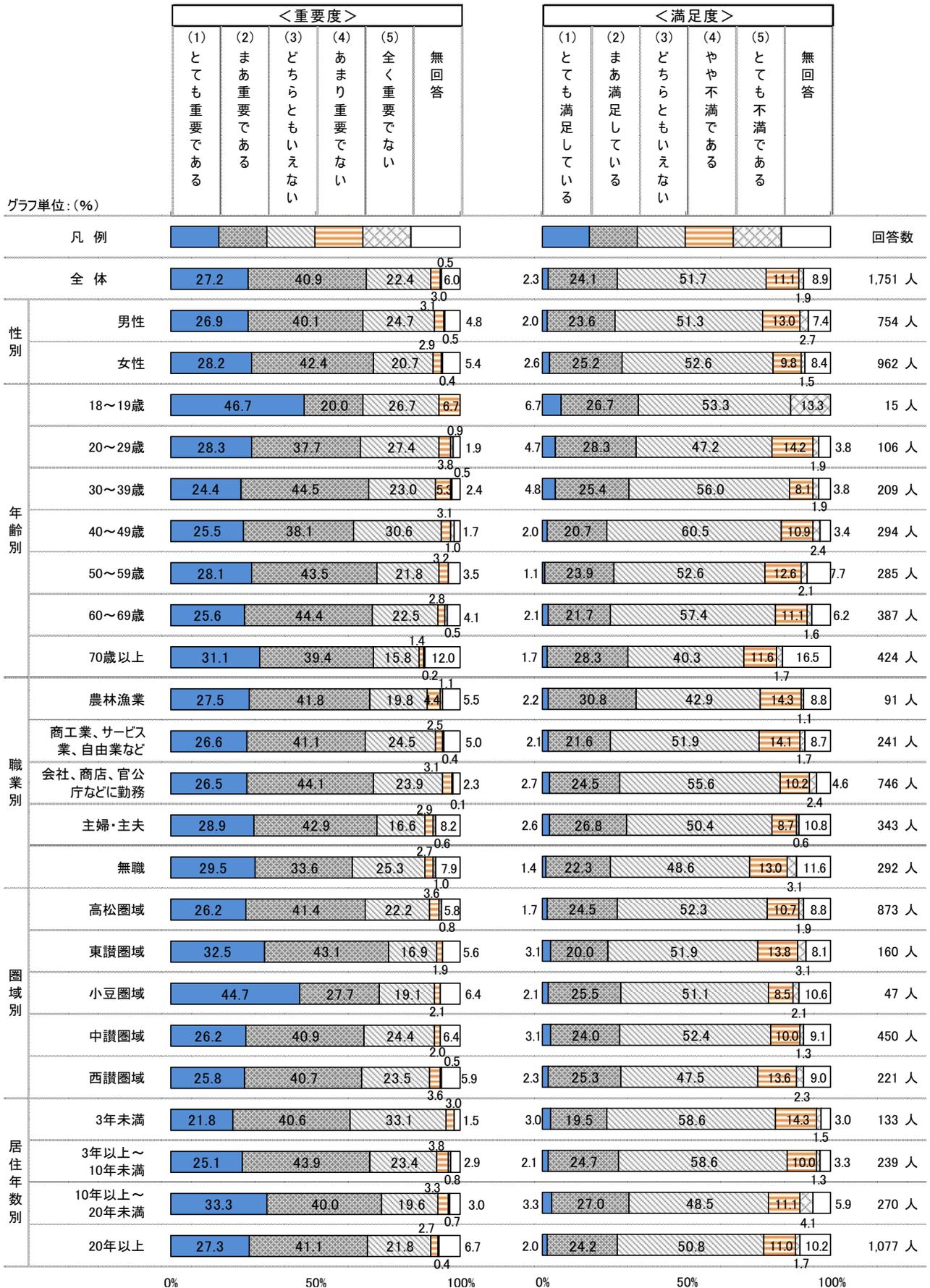
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(5)【交流人口の拡大】



交通・情報ネットワークの整備の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』74.2%、『女性』73.6%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『20～29歳』において82.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において75.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『東讃圏域』において75.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』において77.8%と最も高くなっている。

交通・情報ネットワークの整備の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』25.1%、『女性』24.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』24.9%、『女性』18.4%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

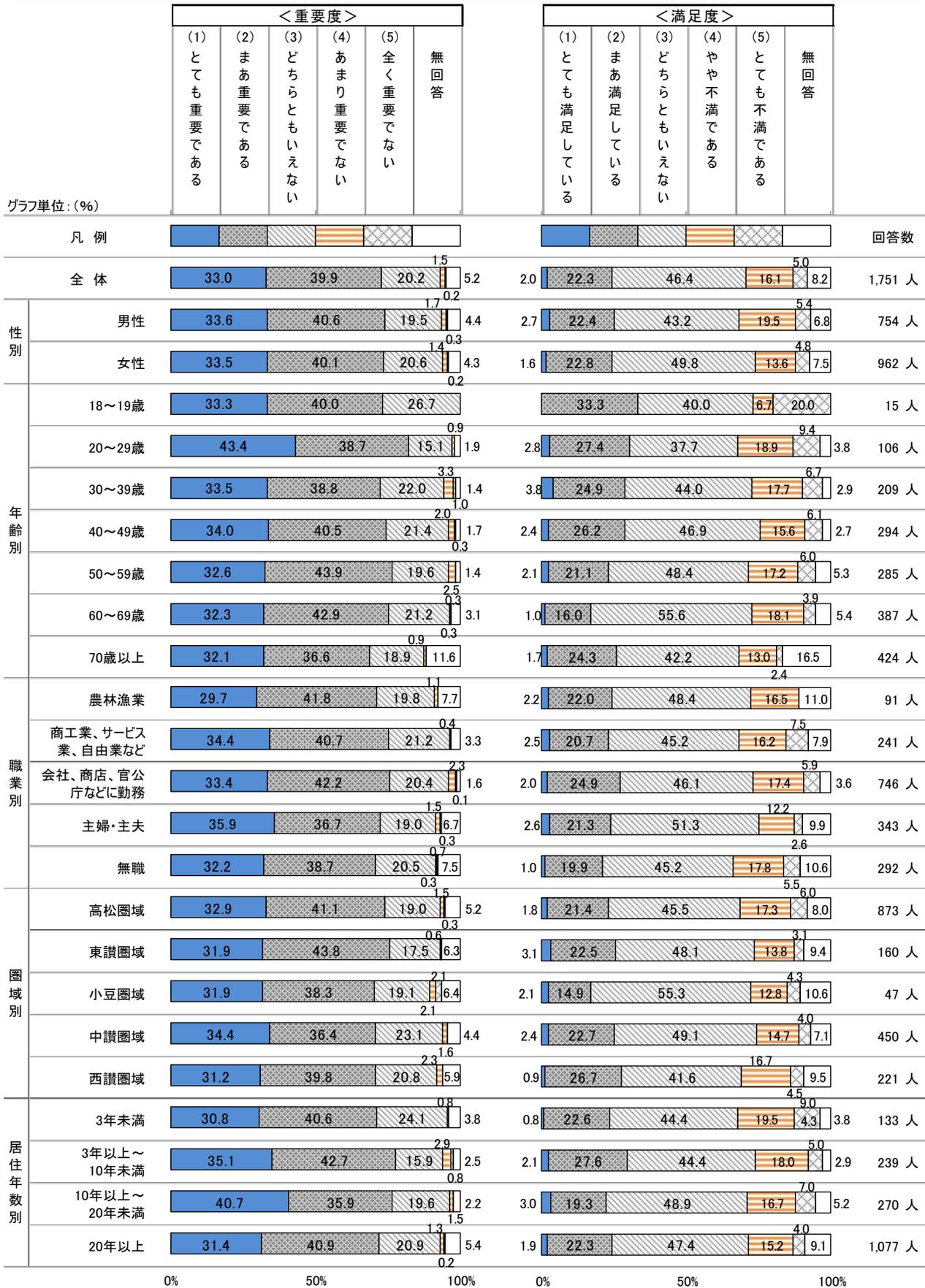
年齢別にみると、『50～59歳』において、【満足している】と【不満である】の割合23.2%が同率で、『60～69歳』において、【不満である】の割合22.0%が【満足している】の割合17.0%を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』と『無職』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの職業では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』と『小豆圏域』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』と『10年以上～20年未満』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの居住年数では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(6)【交通・情報ネットワークの整備】



P288 数表参照

移住・定住の促進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』68.1%、『女性』69.6%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『20～29歳』において75.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『農林漁業』において77.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『小豆圏域』において76.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『10年以上～20年未満』と『20年以上』69.7%が同率で最も高くなっている。

移住・定住の促進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』14.0%、『女性』17.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』22.9%、『女性』18.2%となっており、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

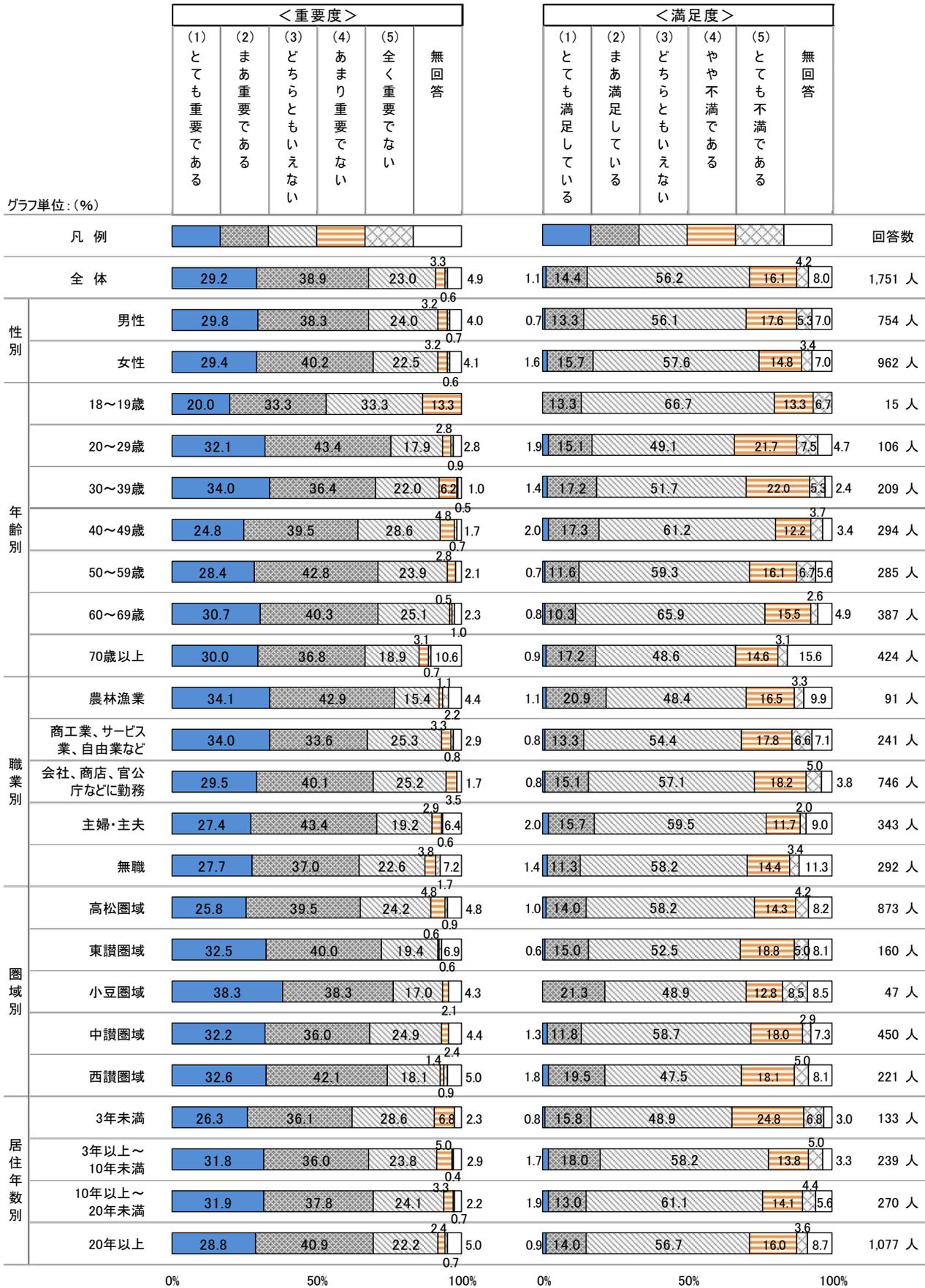
年齢別にみると、『40～49歳』と『70歳以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、そのほかの年齢では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』と『主婦・主夫』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、そのほかの職業では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【満足している】の割合と【不満である】の割合が同率の21.3%で、そのほかの圏域では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において、【満足している】の割合19.7%が【不満である】の割合18.8%を上回り、そのほかの居住年数では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 7-(7)【移住・定住の促進】



P289 数表参照

子育て支援社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』84.2%、『女性』86.3%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『30～39歳』において91.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において89.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『東讃圏域』において89.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年以上～10年未満』において87.9%と最も高くなっている。

子育て支援社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』25.8%、『女性』30.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』21.3%、『女性』16.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

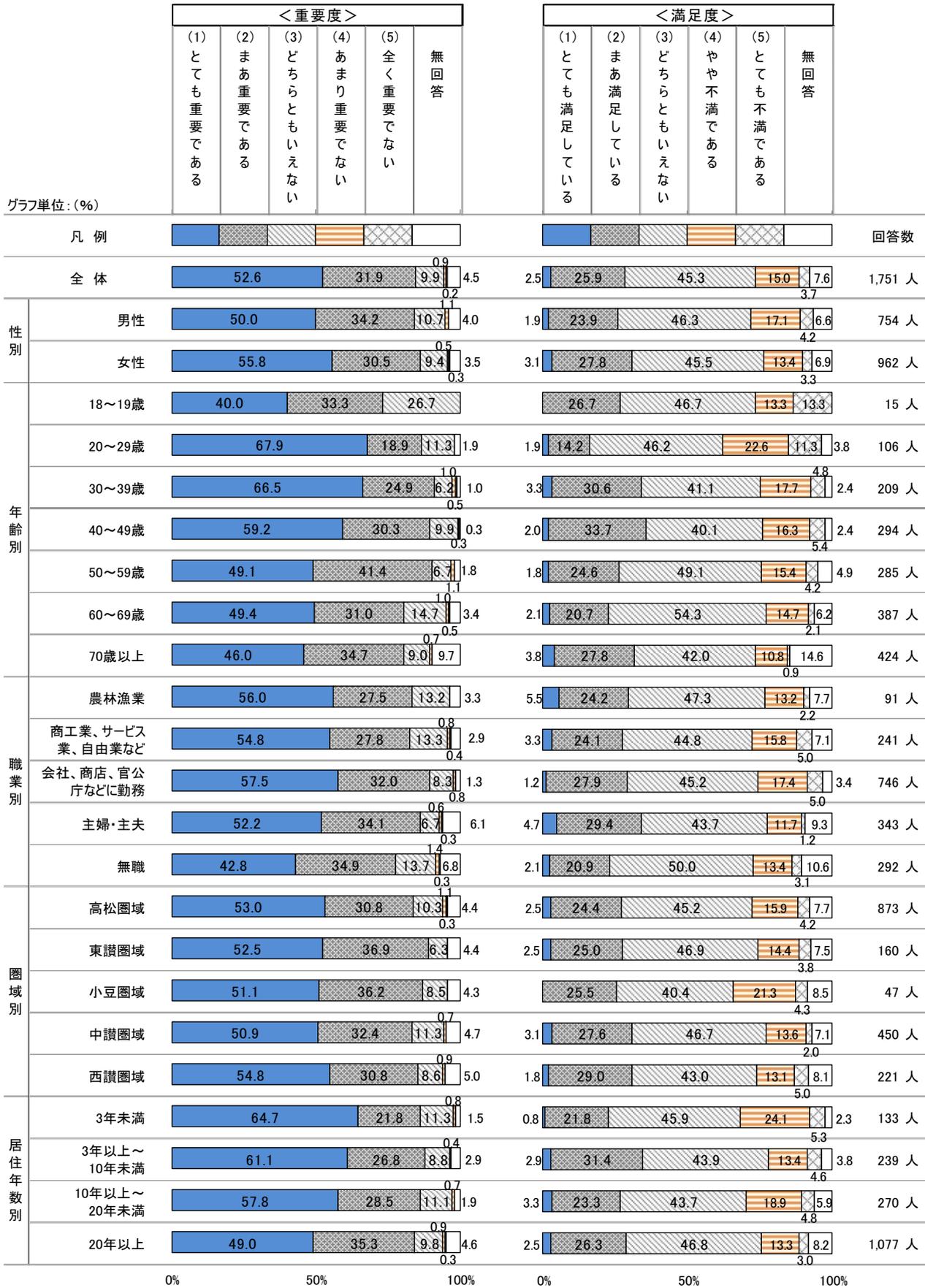
年齢別にみると、『20～29歳』において、【不満である】の割合33.9%が【満足している】の割合16.1%を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【不満である】の割合25.6%が【満足している】の割合25.5%を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において、【不満である】の割合29.4%が【満足している】の割合22.6%を上回り、そのほかの居住年数では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(8)【子育て支援社会の実現】



P290 数表参照

健康長寿の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』73.5%、『女性』79.9%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『50～59歳』において81.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において79.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『東讃圏域』において80.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『10年以上～20年未満』において80.3%と最も高くなっている。

健康長寿の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』25.9%、『女性』30.7%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』10.3%、『女性』9.5%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

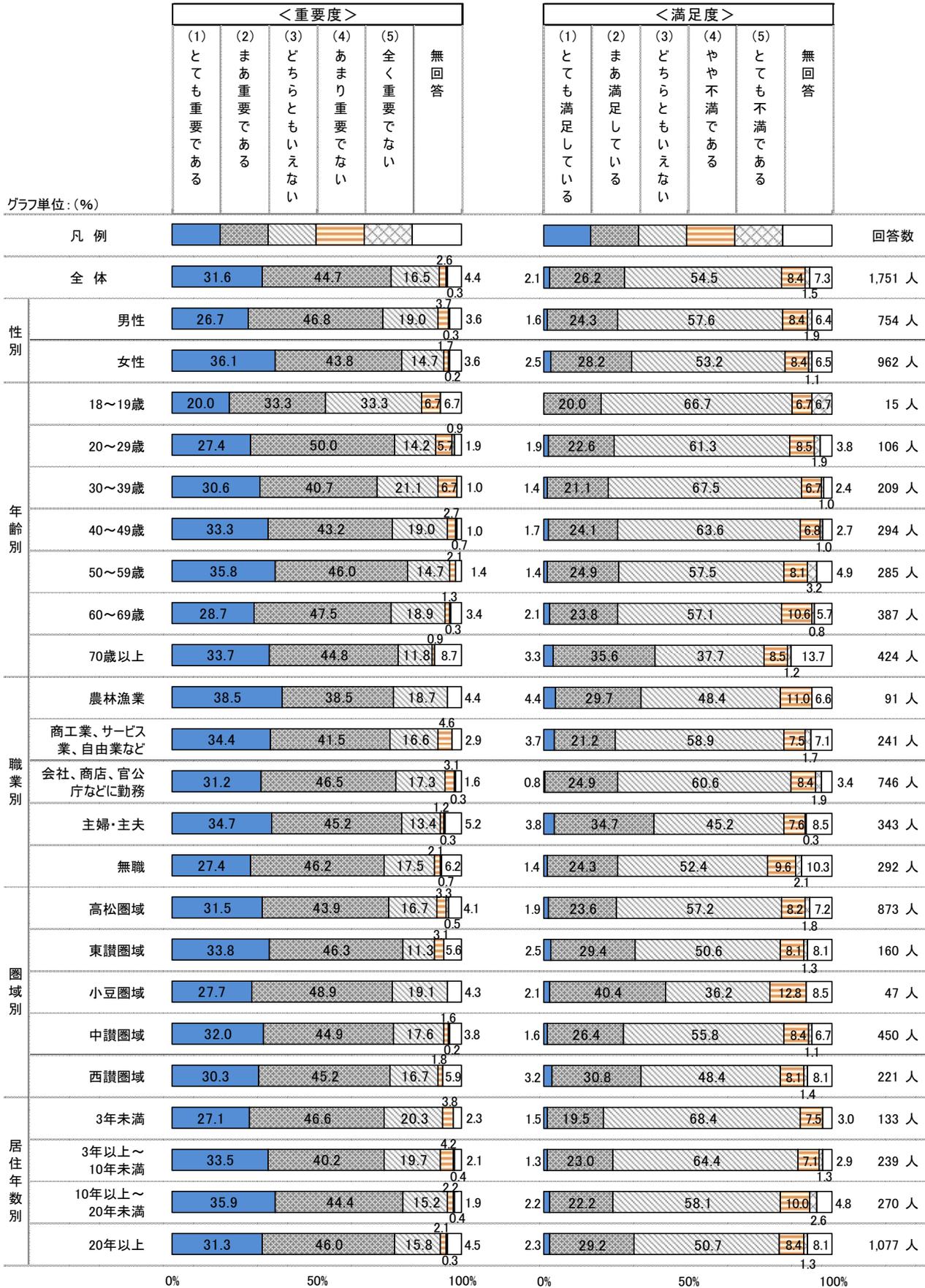
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(9)【健康長寿の推進】



P291 数表参照

安心できる医療・介護の充実確保の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』88.1%、『女性』90.4%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『50～59歳』において93.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において91.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『東讃圏域』において90.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年以上～10年未満』において91.2%と最も高くなっている。

安心できる医療・介護の充実確保の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』31.8%、『女性』31.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』20.1%、『女性』22.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

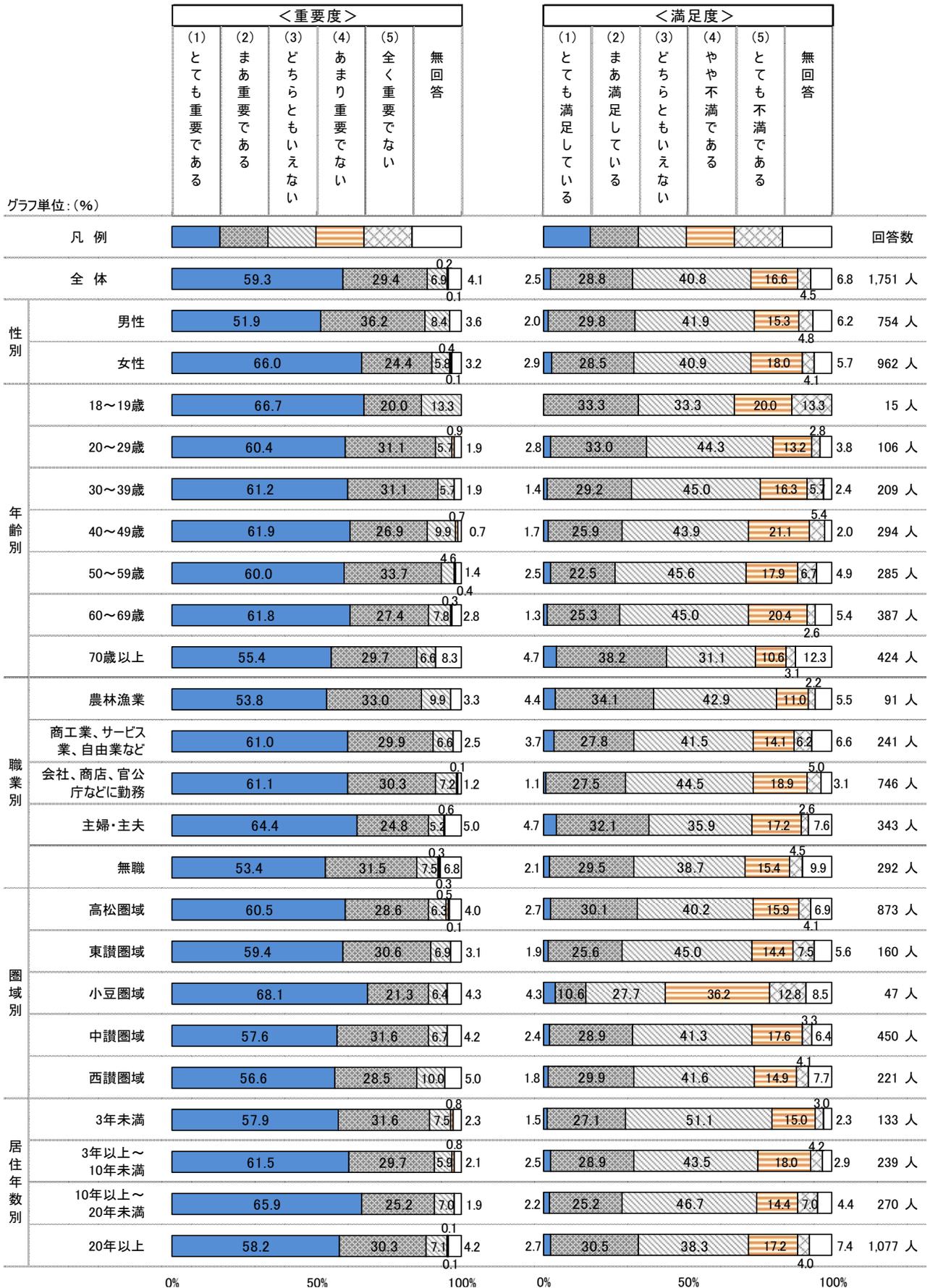
年齢別にみると、『18～19歳』において、【満足している】と【不満である】の割合33.3%が同率で、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【不満である】の割合49.0%が【満足している】の割合14.9%を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(10)【安心できる医療・介護の充実確保】



地域福祉の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』75.7%、『女性』82.6%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『50～59歳』において85.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において81.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『小豆圏域』において87.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『10年以上～20年未満』において82.2%と最も高くなっている。

地域福祉の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』18.3%、『女性』20.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』16.0%、『女性』12.5%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

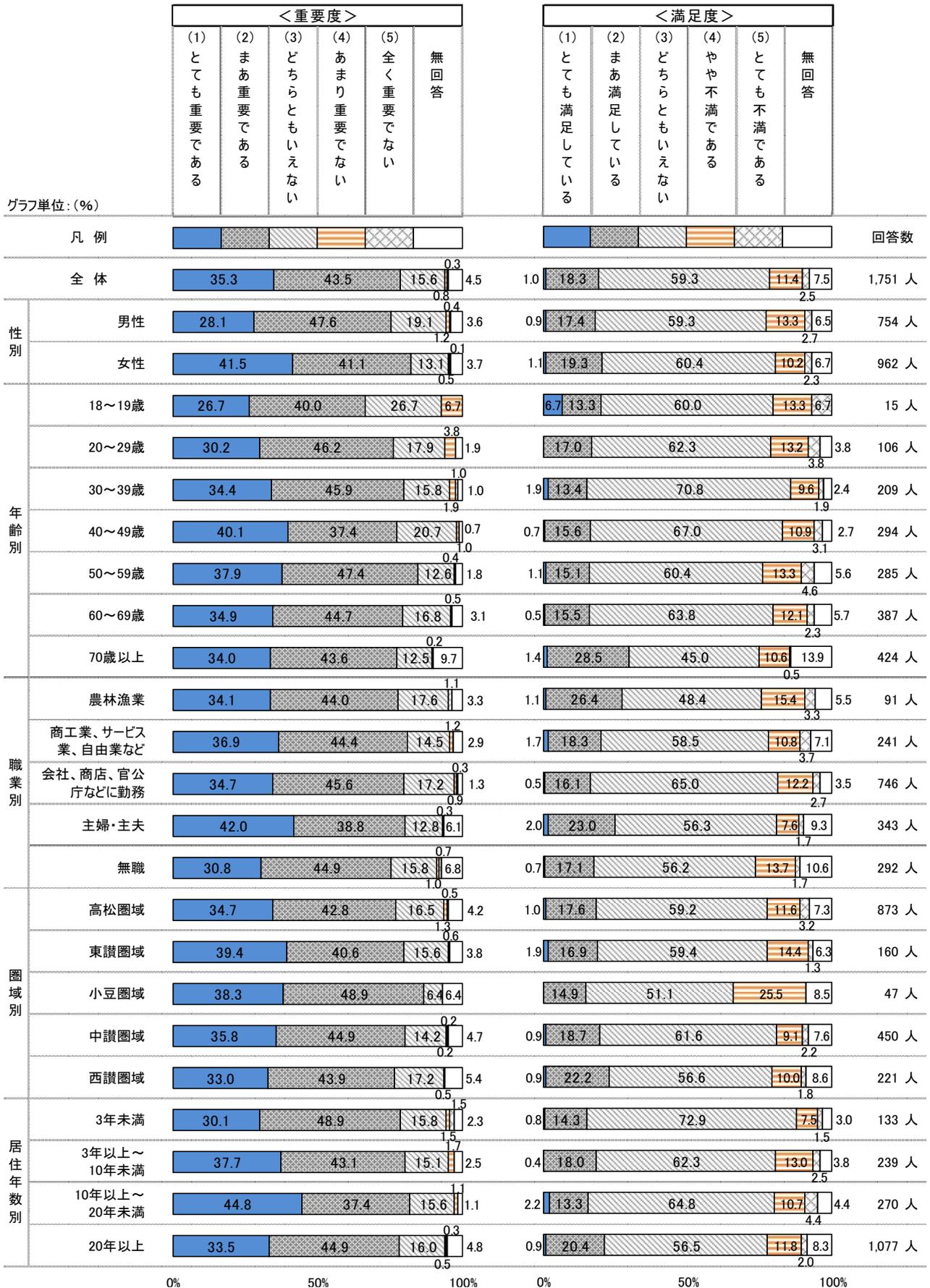
年齢別にみると、『50～59歳』において、【不満である】の割合17.9%が【満足している】の割合16.2%を上回り、『18～19歳』と『20～29歳』において、【満足している】の割合と【不満である】の割合が同率で、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【不満である】の割合25.5%が【満足している】の割合14.9%を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(11)【地域福祉の推進】



人権尊重社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』53.4%、『女性』63.8%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『50～59歳』において63.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において60.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『小豆圏域』において63.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『10年以上～20年未満』において63.4%と最も高くなっている。

人権尊重社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』17.1%、『女性』18.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』10.4%、『女性』6.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

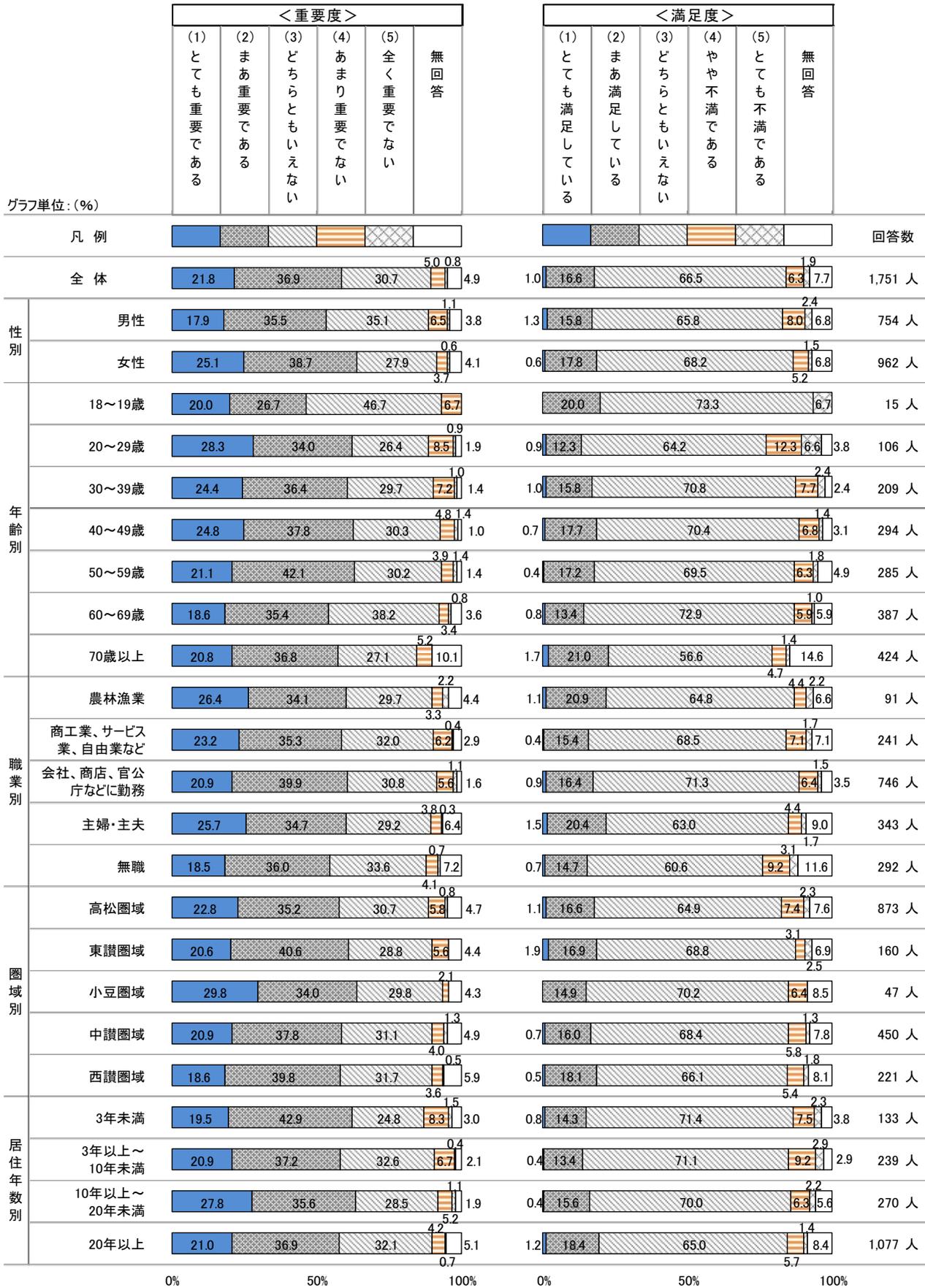
年齢別にみると、『20～29歳』において、【不満である】の割合18.9%が【満足している】の割合13.2%を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(12)【人権尊重社会の実現】



防災・減災社会の構築の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』86.5%、『女性』89.4%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『50～59歳』において91.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において91.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『東讃圏域』において90.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『10年以上～20年未満』において89.7%と最も高くなっている。

防災・減災社会の構築の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』20.7%、『女性』19.1%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』27.9%、『女性』22.2%となっており、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

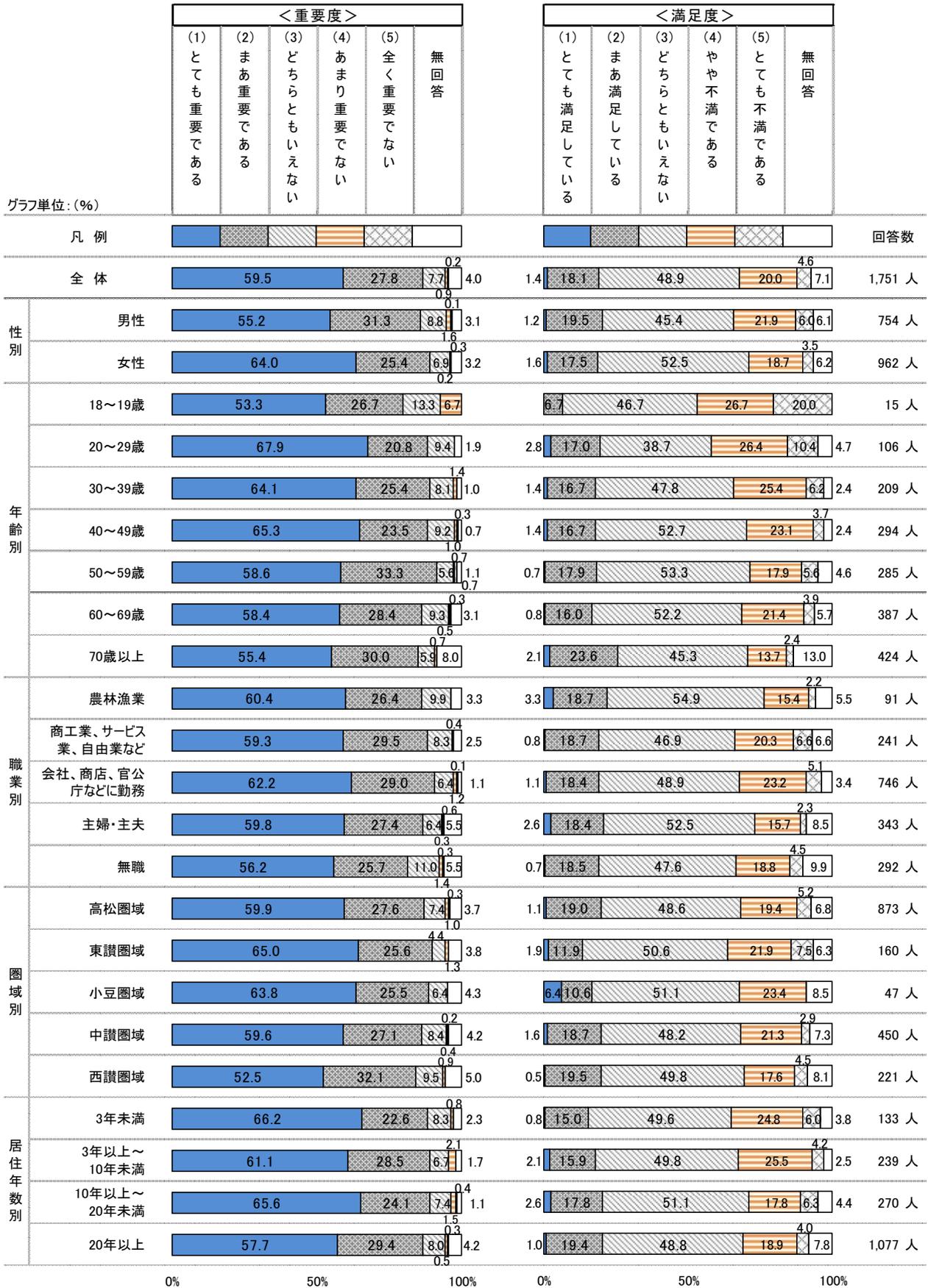
年齢別にみると、『70歳以上』において、【満足している】の割合25.7%が【不満である】の割合16.1%を上回っており、そのほかの年齢では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』と『主婦・主夫』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、そのほかの職業では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 7-(13)【防災・減災社会の構築】



P295 数表参照

安全・安心な暮らしの形成の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』83.3%、『女性』84.9%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『30～39歳』において89.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において87.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『小豆圏域』において87.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年以上～10年未満』において88.7%と最も高くなっている。

安全・安心な暮らしの形成の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』26.2%、『女性』26.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』19.0%、『女性』15.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

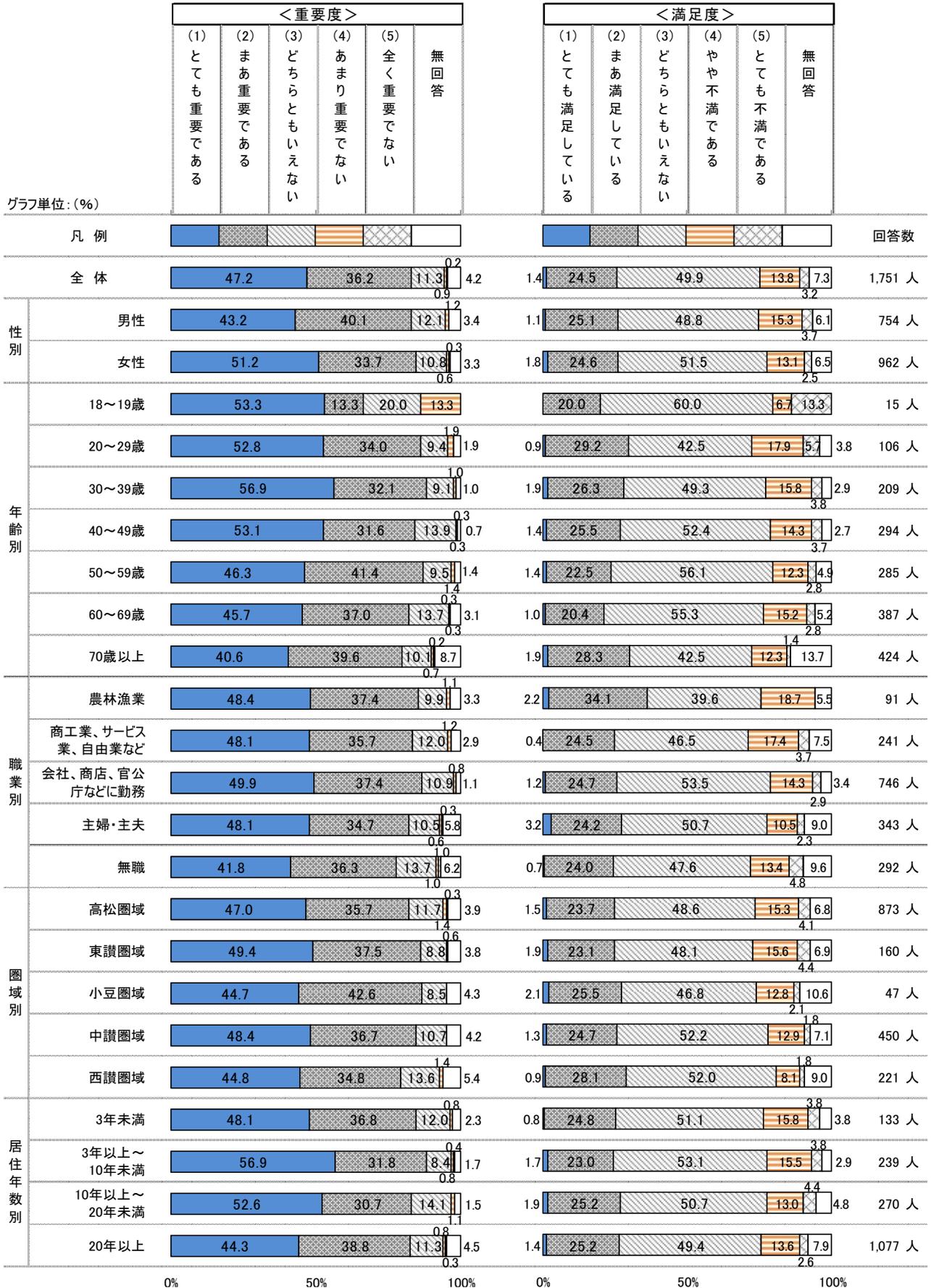
年齢別にみると、『18～19歳』において、【満足している】と【不満である】の割合20.0%が同率となっており、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(14)【安全・安心な暮らしの形成】



安心して暮らせる水循環社会の確立の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』83.7%、『女性』86.5%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『50～59歳』において89.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『農林漁業』において89.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『小豆圏域』において89.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年以上～10年未満』において87.4%と最も高くなっている。

安心して暮らせる水循環社会の確立の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』42.6%、『女性』41.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.7%、『女性』9.5%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

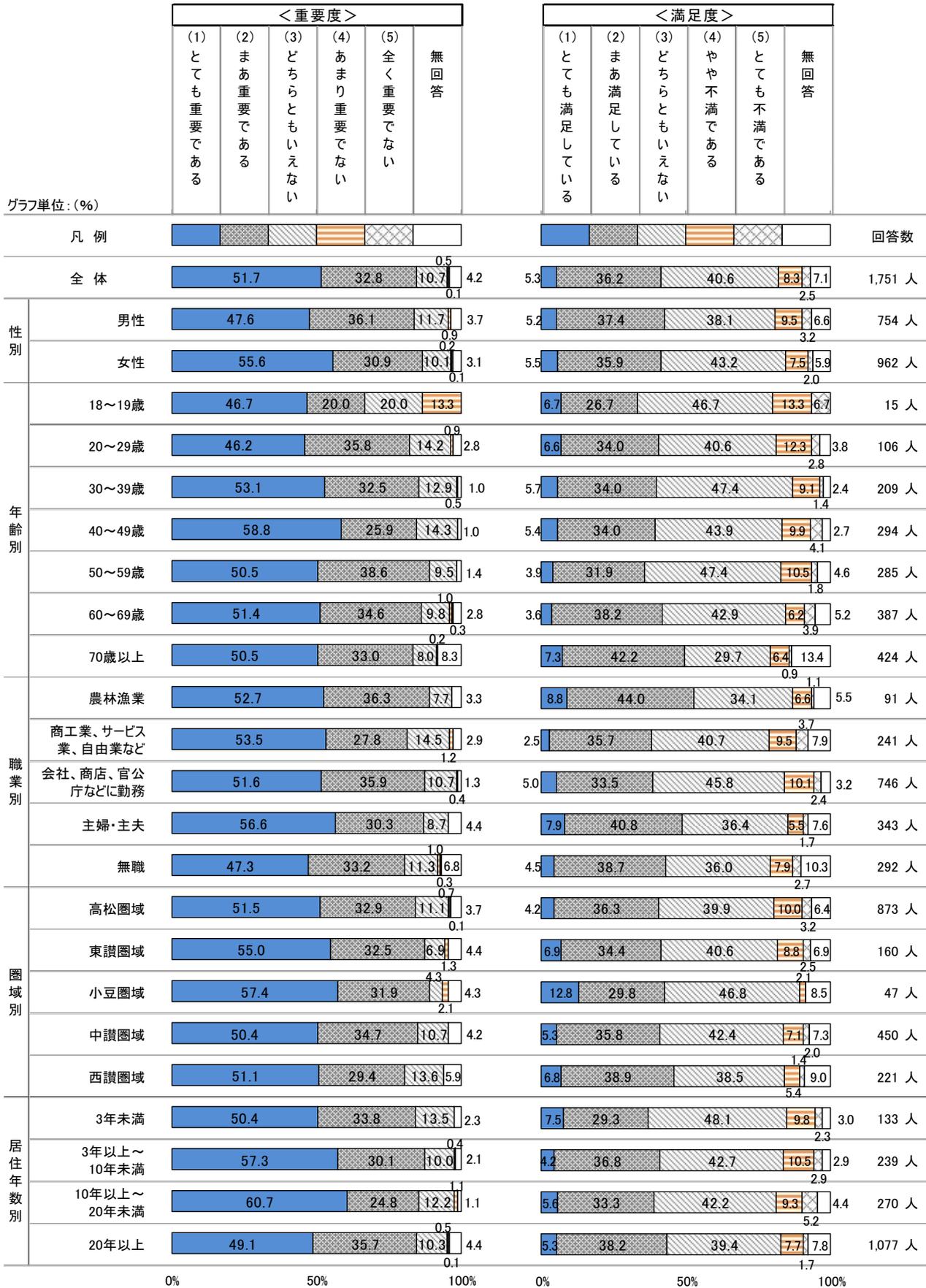
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(15)【安心して暮らせる水循環社会の確立】



活力ある地域づくりの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』73.3%、『女性』74.7%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『50～59歳』において77.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『農林漁業』において82.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『東讃圏域』において78.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『10年以上～20年未満』において77.1%と最も高くなっている。

活力ある地域づくりの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』20.0%、『女性』21.1%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』18.7%、『女性』13.9%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

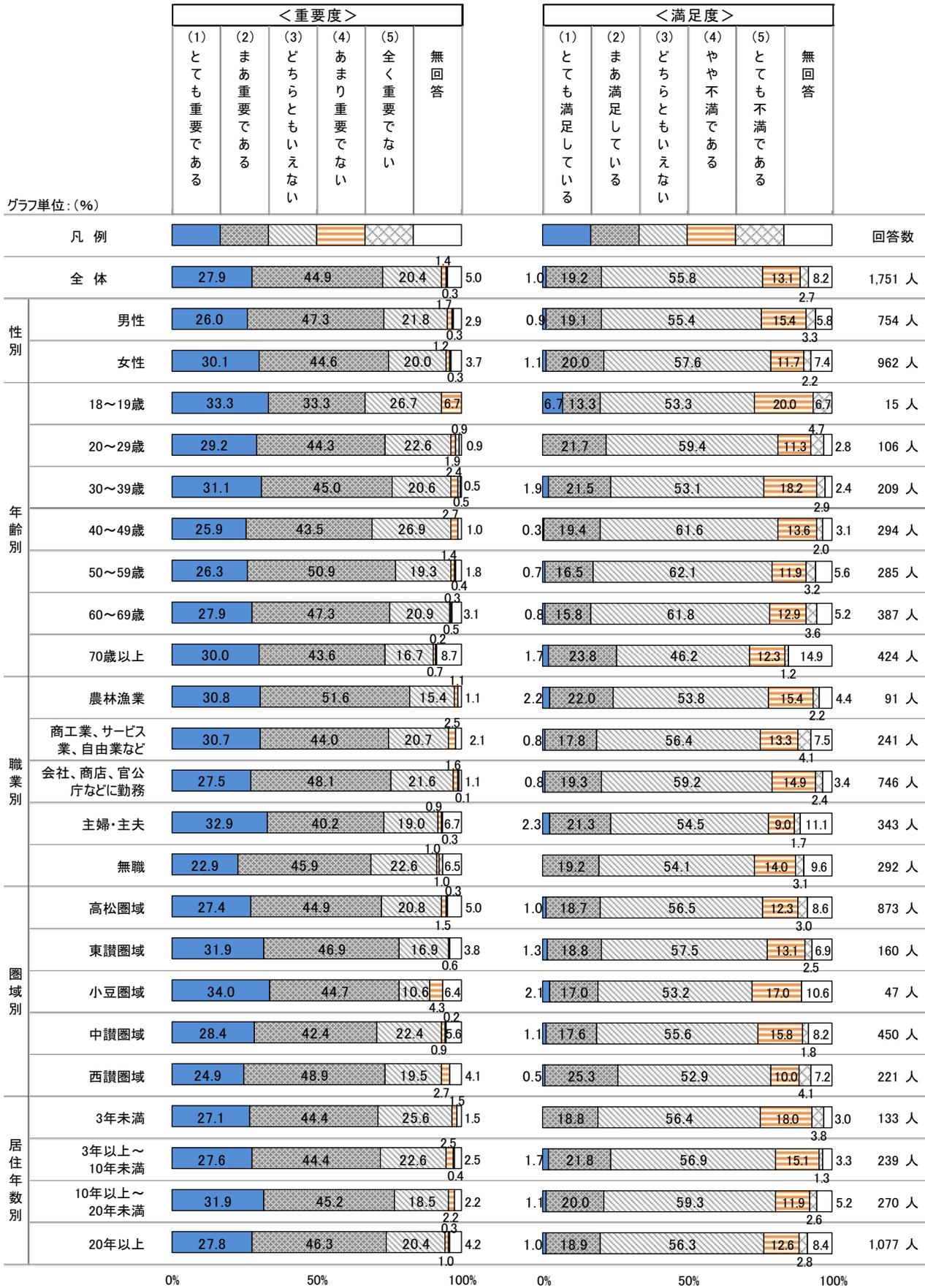
年齢別にみると、『18～19歳』において、【不満である】の割合26.7%が【満足している】の割合20.0%を上回っており、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において、【不満である】の割合21.8%が【満足している】の割合18.8%を上回っており、そのほかの居住年数では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(16)【活力ある地域づくり】



P298 数表参照

環境の保全の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』73.7%、『女性』77.1%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『20～29歳』において80.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において77.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『東讃圏域』において78.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『10年以上～20年未満』と『20年以上』において75.9%と同率で最も高くなっている。

環境の保全の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』22.0%、『女性』24.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』13.8%、『女性』10.0%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

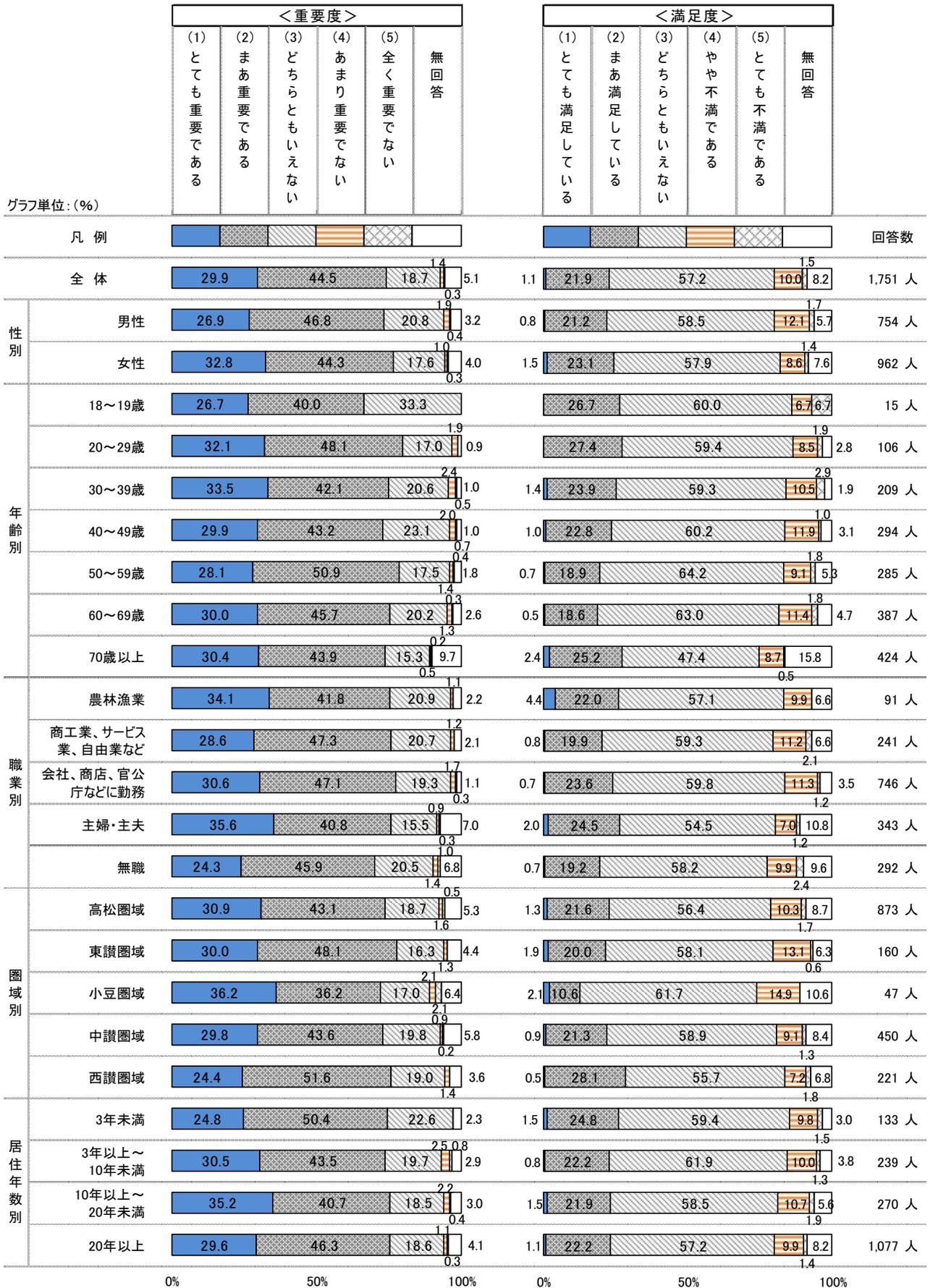
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【不満である】の割合14.9%が【満足している】の割合12.7%を上回っており、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(17)【環境の保全】



みどり豊かな暮らしの創造の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』55.5%、『女性』64.1%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『70歳以上』において65.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『主婦・主夫』において65.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『小豆圏域』において61.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『10年以上～20年未満』において65.6%と最も高くなっている。

みどり豊かな暮らしの創造の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』25.0%、『女性』27.7%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』10.4%、『女性』6.2%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

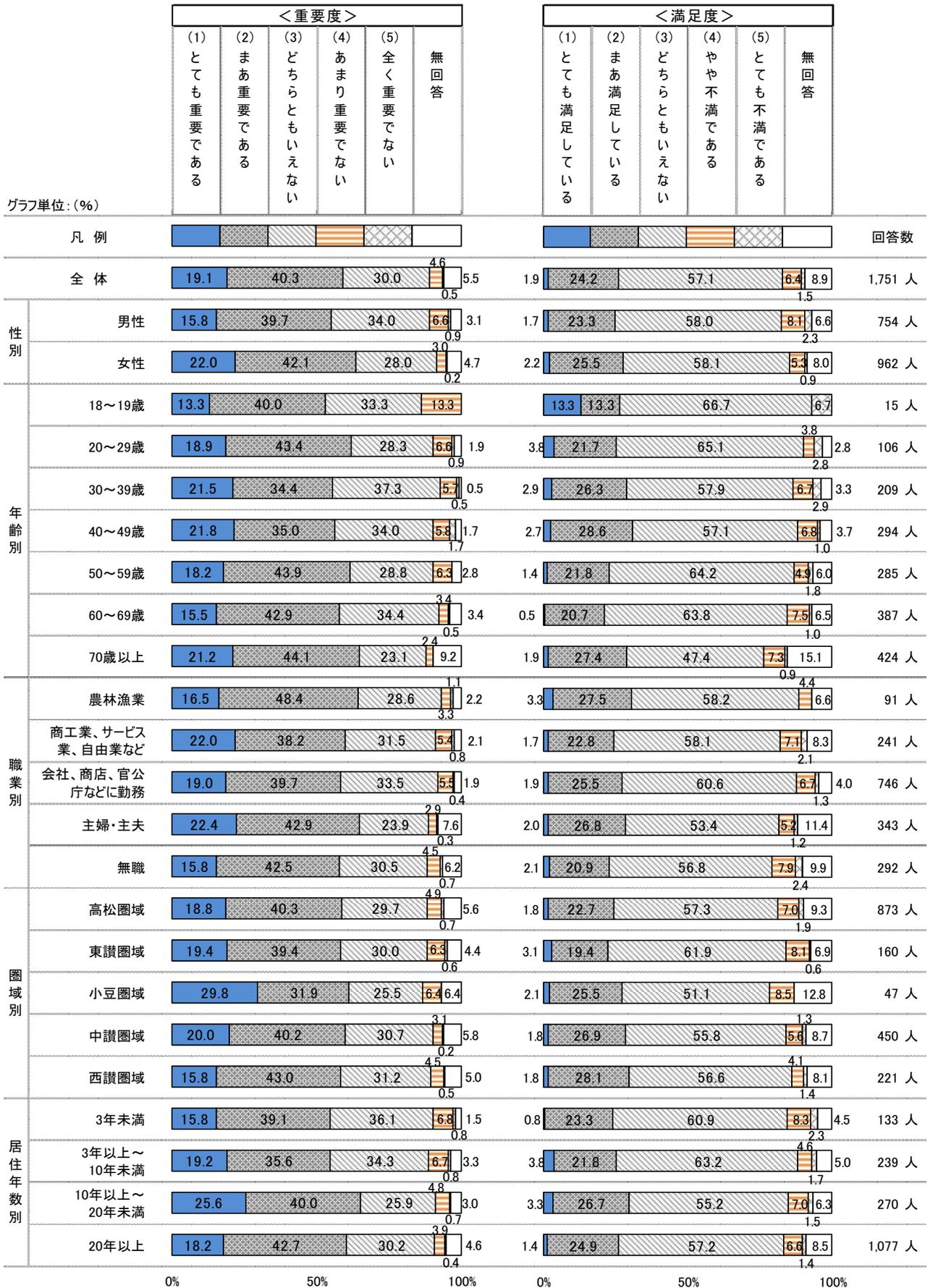
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(18)【みどり豊かな暮らしの創造】



教育の充実の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』83.1%、『女性』83.8%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『30～39歳』において88.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において86.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『西讃圏域』において83.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年以上～10年未満』において86.6%と最も高くなっている。

教育の充実の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』27.9%、『女性』26.7%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』17.2%、『女性』15.5%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

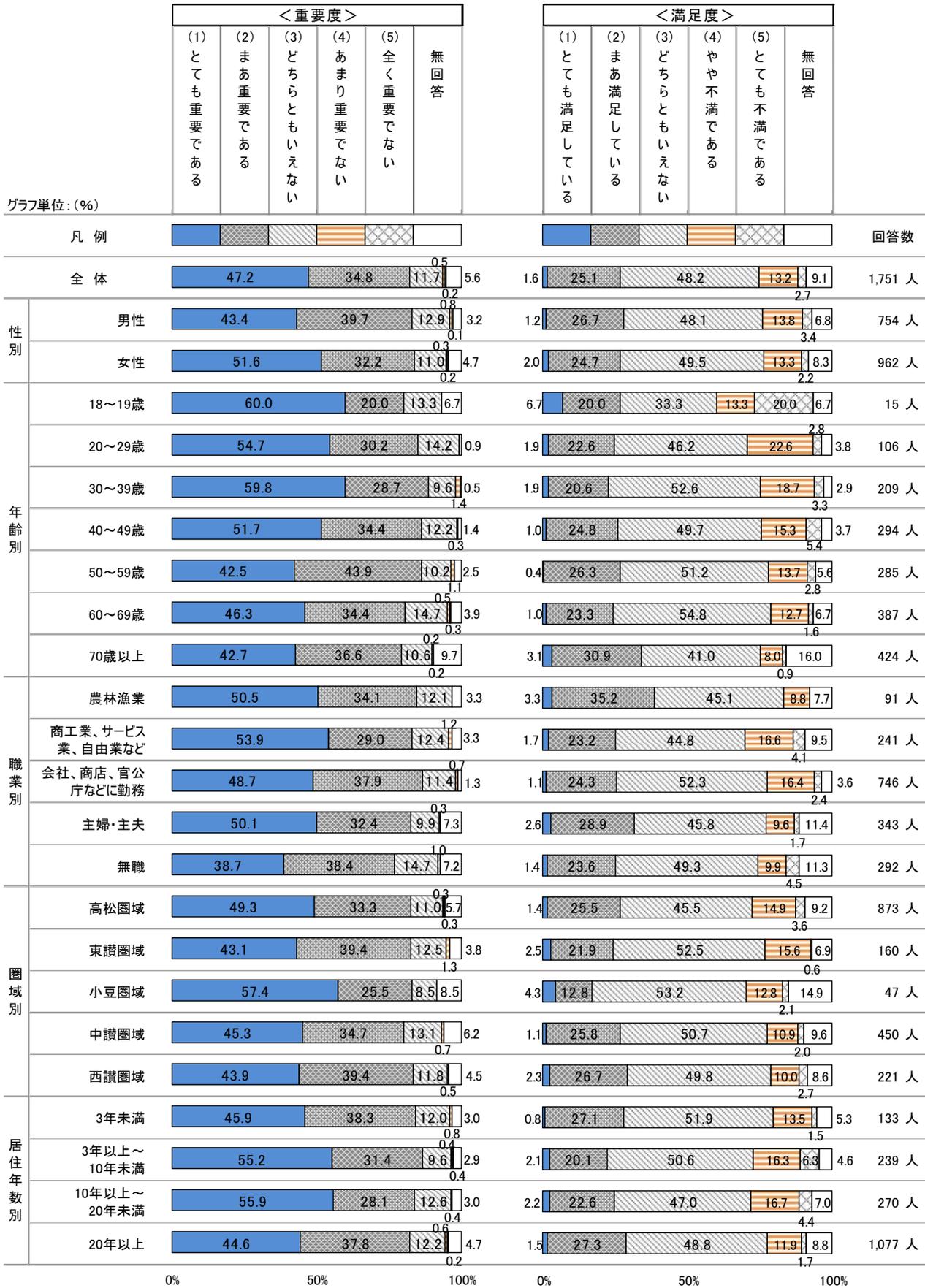
年齢別にみると、『18～19歳』と『20～29歳』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において、【不満である】の割合22.6%が【満足している】の割合22.2%を上回り、そのほかの居住年数では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(19)【教育の充実】



P301 数表参照

文化芸術による地域の活性化の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』54.6%、『女性』61.9%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『20～29歳』において64.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『主婦・主夫』において64.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『小豆圏域』において63.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『10年以上～20年未満』において62.3%と最も高くなっている。

文化芸術による地域の活性化の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』26.1%、『女性』28.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』9.2%、『女性』8.5%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

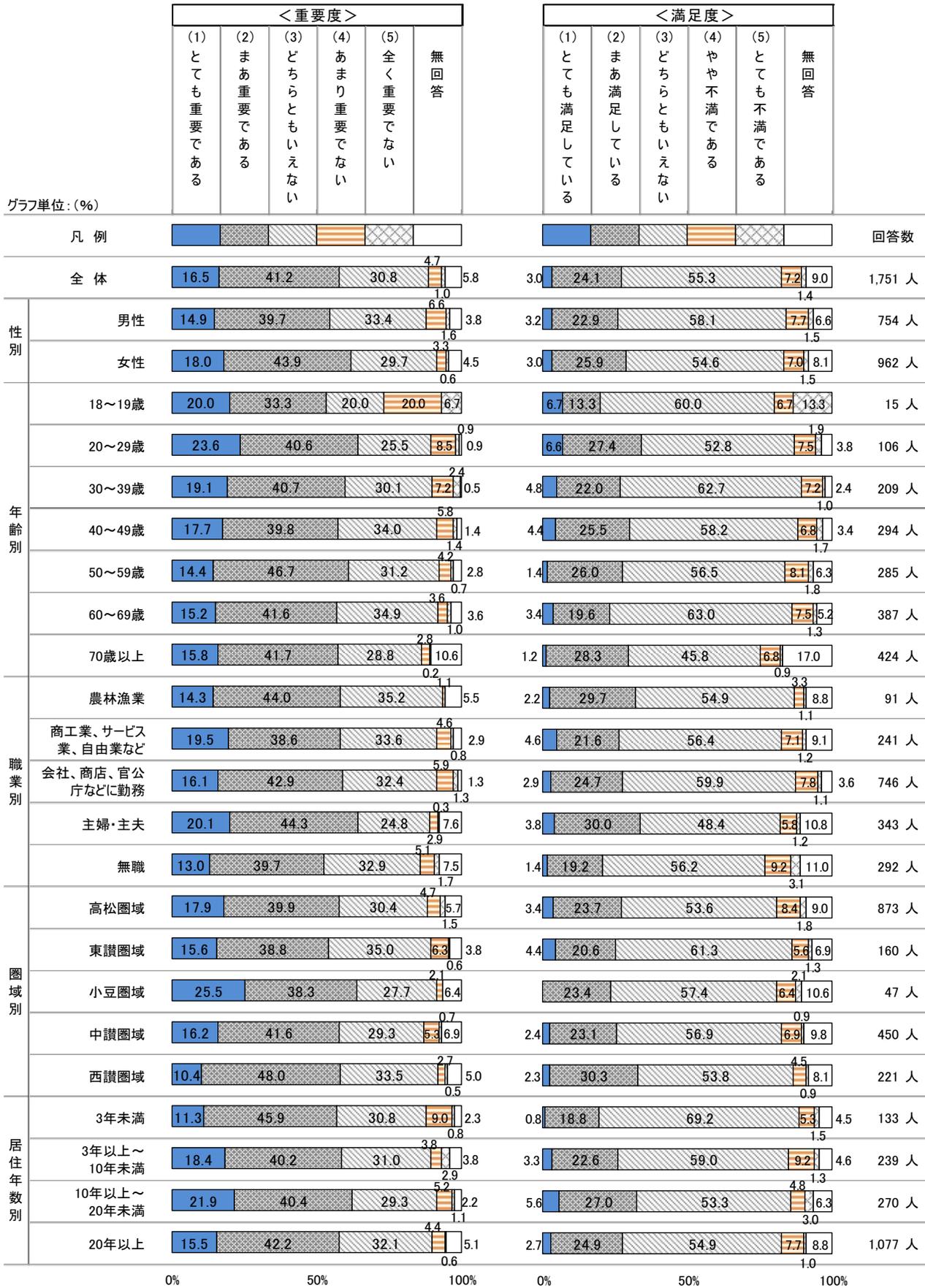
年齢別にみると、『18～19歳』では【満足している】と【不満である】の割合20.0%が同率で、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(20)【文化芸術による地域の活性化】



P302 数表参照

スポーツの振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』57.3%、『女性』63.4%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『50～59歳』において64.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『主婦・主夫』において66.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『小豆圏域』において63.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『10年以上～20年未満』において68.1%と最も高くなっている。

スポーツの振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』20.8%、『女性』21.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』13.3%、『女性』8.5%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

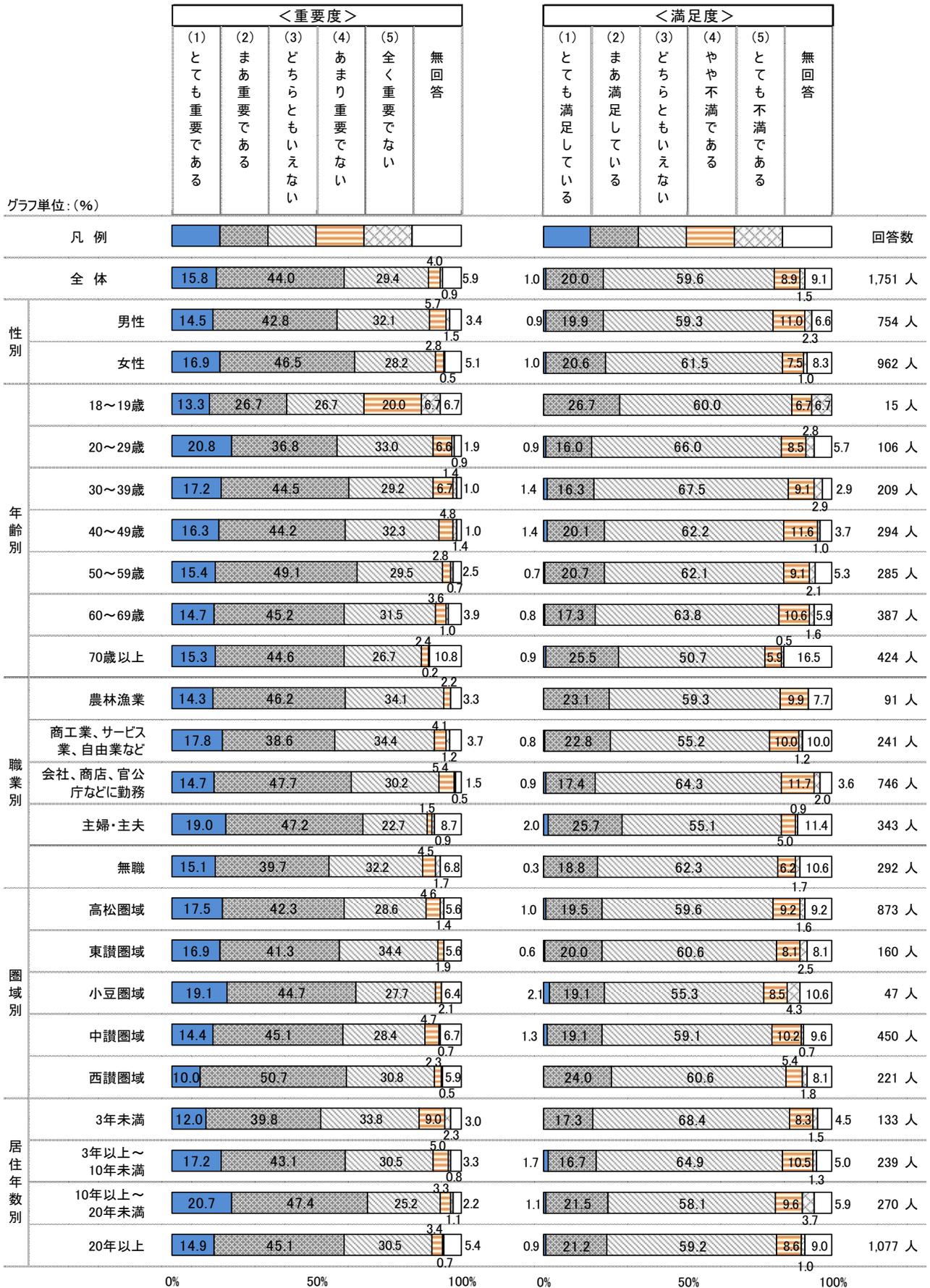
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(21)【スポーツの振興】



男女共同参画社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』59.0%、『女性』68.1%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『20～29歳』において73.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『主婦・主夫』において68.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『小豆圏域』において68.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年未満』において69.2%と最も高くなっている。

男女共同参画社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』19.0%、『女性』18.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.0%、『女性』12.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

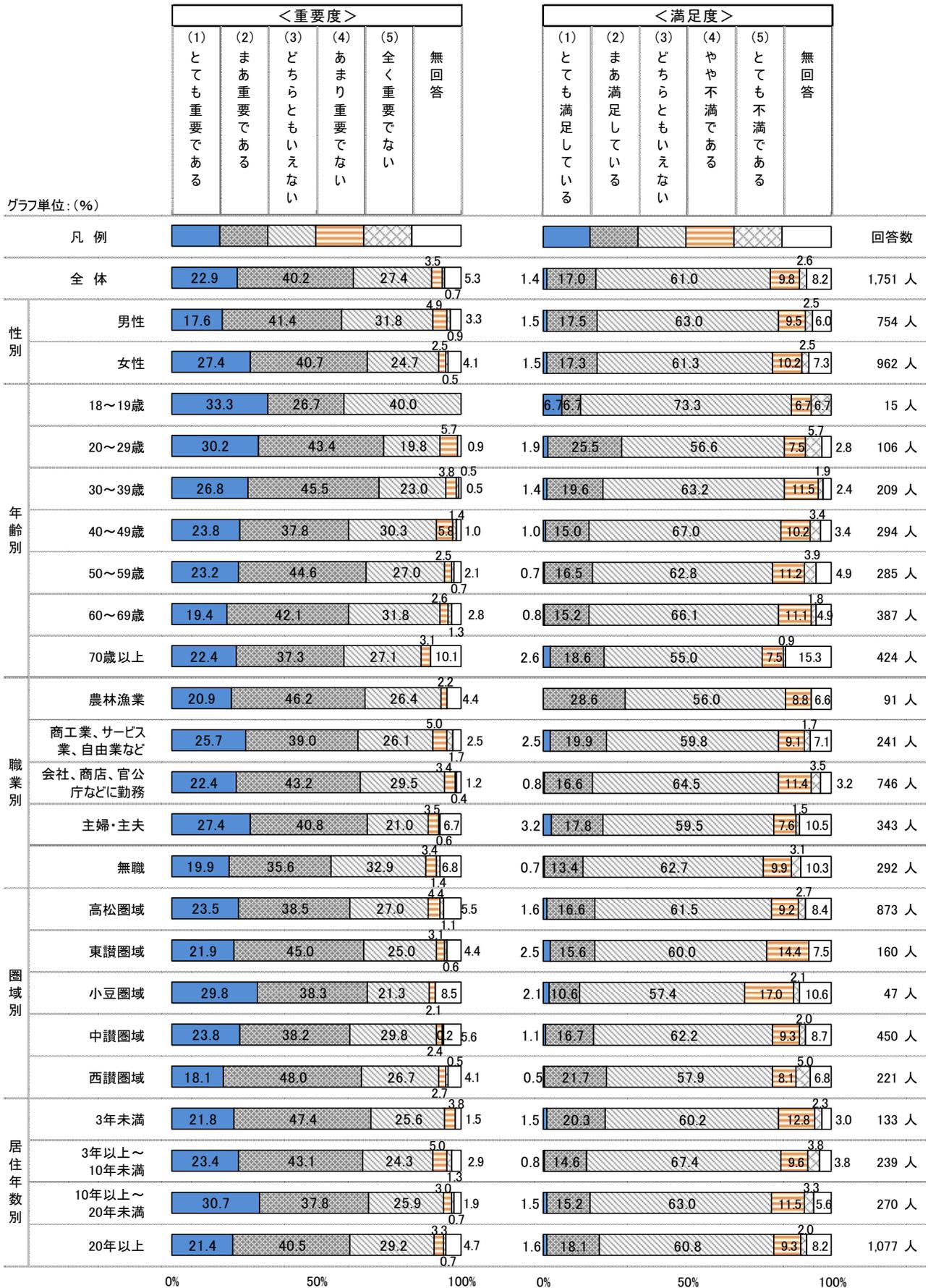
年齢別にみると、『18～19歳』において、【満足している】と【不満である】の割合13.4%が同率で、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【不満である】の割合19.1%が【満足している】の割合12.7%を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(22)【男女共同参画社会の実現】



青少年の育成と県民の社会参画の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』64.1%、『女性』69.7%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『50～59歳』において71.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『農林漁業』と『主婦・主夫』において72.6%と同率で最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『東讃圏域』において70.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『10年以上～20年未満』において70.0%と最も高くなっている。

青少年の育成と県民の社会参画の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』16.3%、『女性』19.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.0%、『女性』8.0%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

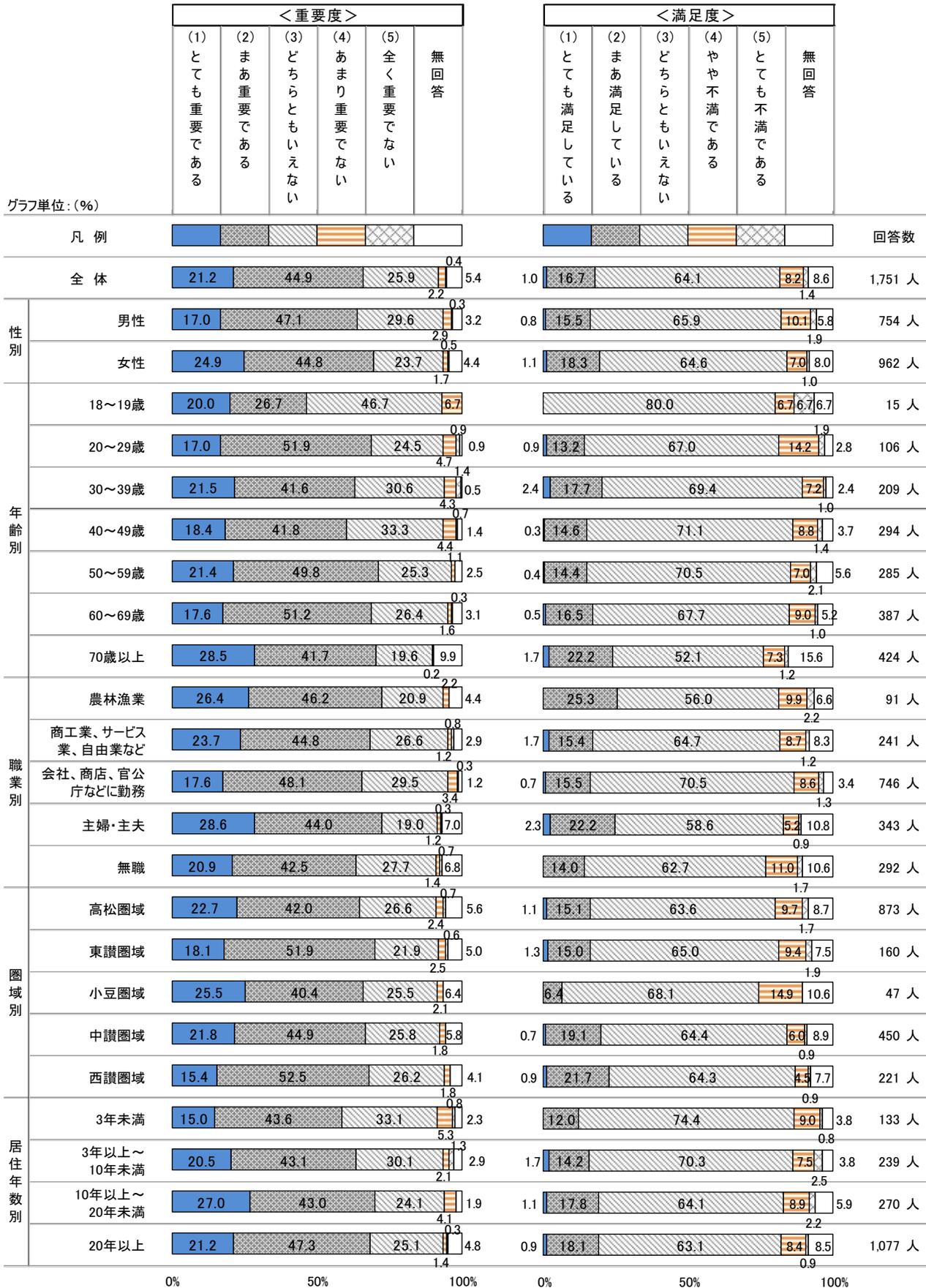
年齢別にみると、『18～19歳』と『20～29歳』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【不満である】の割合14.9%が【満足している】の割合6.4%を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(23)【青少年の育成と県民の社会参画の推進】



P305 数表参照

魅力ある大学づくりの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』61.4%、『女性』66.0%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『20～29歳』において70.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『農林漁業』において74.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『西讃圏域』において67.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『10年以上～20年未満』において69.3%と最も高くなっている。

魅力ある大学づくりの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』16.1%、『女性』18.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』17.9%、『女性』13.1%となっており、『男性』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、『女性』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『60～69歳』と『70歳以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、そのほかの年齢では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』と『会社、商店、官公庁などに勤務』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの職業では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【不満である】の割合14.9%が【満足している】の割合10.7%を上回り、そのほかの圏域では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』において、【満足している】の割合19.0%が【不満である】の割合12.8%を上回り、そのほかの居住年数では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 7-(24)【魅力ある大学づくり】

